

Dell Wyse Device Manager

バージョン 5.7.3 管理者ガイド



メモ、注意、警告

① | **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ | **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ | **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2018 すべての著作権は Dell Inc. またはその子会社にあります。Dell、EMC、およびその他の商標は Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

1 はじめに.....	6
主な機能.....	6
WDM Enterprise Edition の主な機能.....	7
サポートマトリックス.....	8
Dell Wyse テクニカルサポート.....	11
関連マニュアルとサービス.....	11
Dell Wyse オンラインコミュニティ.....	11
2 WDM へのアクセス.....	12
3 ダッシュボード.....	13
ライセンス.....	15
ワークグループライセンスの追加.....	15
ワークグループライセンスのアクティブ化.....	15
ワークグループライセンスからエンタープライズライセンスへのアップグレード.....	16
ライセンスのないデバイス.....	16
WDM ユーティリティ.....	17
インポートユーティリティを使用したデータのインポート.....	18
高可用性設定ユーティリティ.....	21
アカウントユーティリティ.....	22
DNS-DHCP ルックアップユーティリティ.....	22
4 デバイス.....	23
5 アプリケーション.....	30
登録済みパッケージのパッケージスクリプトの編集.....	36
登録済みパッケージのパッケージスクリプトのエクスポート.....	36
スクリプトファイルからのパッケージの登録 (.RSP)	36
パッケージの登録 (exe、msi、msu、bat ファイルのみ)	37
PCoIP デバイス設定.....	39
6 アップデート.....	45
ジョブ.....	45
定期的なアップデート.....	46
リアルタイムコマンド.....	47
リポジトリの同期.....	48
ピアアシスト配信.....	48
プロファイル.....	49
プロファイルマネージャ対応デバイスの識別.....	50
プロファイルマネージャを使用した構成パッケージの導入.....	50
PM 構成パッケージの削除.....	50

7 デフォルトのデバイス設定 - DDC.....	52
8 レポート.....	54
ログレポートの作成.....	54
アプリケーションレポートの作成.....	55
リモートセッションレポートの作成.....	55
9 システム.....	57
サブネットの手動設定.....	58
リモートリポジトリの登録.....	60
ローカルコンピュータアカウントからのユーザーの追加.....	62
ドメインコントローラとグローバルカタログからのユーザーとグループの追加.....	63
ユーザー権限の編集.....	64
ユーザーの削除.....	71
コンソール.....	71
デバイス検出の設定.....	75
サービスについて.....	77
ロギングレベルの設定.....	79
スケジューリング.....	80
ピアアシスト導入.....	80
タッチパッドの前提条件.....	82
PAD の設定.....	85
PAD を使用したパッケージの導入.....	86
PAD 詳細の表示.....	87
PAD スケジュールの編集および削除.....	88
Wyse ThinOS.....	89
10 WDM を使用した Teradici デバイスの管理.....	90
DNS_SRV レコードを作成する手順.....	90
監視とトラブルシューティング.....	92
ファームウェア 5.x の設定.....	94
WDM からの ThreadX 4.x デバイスの threadx 5 へのアップグレード.....	102
ThreadX 4.x デバイスへの証明書の導入.....	103
クライアントファームウェアの ThreadX 5.x へのアップグレード.....	103
11 トラブルシューティング.....	110
デバイスの検出に関する問題.....	110
PXE デバイスの検出に関する問題.....	111
パッケージエラー.....	111
Wake on LAN コマンドがリモートデバイスに到達しない.....	111
ピアアシスト導入の問題.....	111
プロファイルマネージャの問題.....	112
リポジトリのトラブルシューティングのヒント.....	112
T50 および WTOS エラーのトラブルシューティング.....	114

WCM の問題のトラブルシューティング.....	116
CIFS リポジトリが有効の場合パッケージのアップデートに失敗する.....	116
PAD のイメージングとドラッグ & ドロップ機能が Linux デバイスで機能しない.....	117
デフォルトのデバイス設定ではエクスポートされた画像が表示されない.....	117
VNC ログが生成されない.....	117
[今すぐアップデート] ウィンドウが WCM-Linux のユーザーに表示されない.....	117
引き出した画像を T50 デバイスに押し戻せない.....	117
PCoIP 言語パッケージの導入に失敗.....	117
デバイスが日本語の OS にチェックインしない.....	118
バージョン 5.5 または MR から 5.7 への WDM のアップグレード後のアプリケーションの障害.....	118
ThinOS デバイスによる WDM サーバへのチェックインの停止.....	120
ローカライズされた WDM サーバ上の古い HAgent (6.3.2.54 以下) を持つデバイス検出での問題.....	120
Web UI にログインページが表示されない.....	121
Web UI へのログイン時の問題.....	121
ポート番号が原因で EMSDK の起動に失敗する	121
ドメインユーザーのログインおよび HApi ログのエラー.....	121
デバイスページへのアクセスでの問題.....	121
ThreadX 5.X デバイスでの OSD ログ設定またはファームウェアのプッシュエラー.....	122
ThreadX 5.x デバイスのオフライン状態への移行.....	122
自動設定が機能しない場合に、Teradici クライアント管理コンソールを使用して、ThreadX 5.x デバイスを手動で 設定する.....	123
WDM ユーティリティを設定できない.....	126
WCM、パッケージ登録、リモートシャドー、PCoIP を設定できない.....	126

はじめに

Dell Wyse Device Manager (WDM) ソフトウェアは、Dell Wyse シンクライアントおよびゼロクライアントをリモートで簡単かつ安全に管理する一流のエンタープライズソリューションです。これにより、IT の専門家は何千もの Windows Embedded、Wyse Enhanced Linux、Wyse ThinLinux、Wyse ThinOS、Wyse ThinOs Lite、PCoIP ゼロクライアントデバイス (ThreadX デバイス) をあらゆる LAN、WAN、またはワイヤレスネットワークから簡単に整理、アップグレード、制御、サポートできます。

ソフトウェアは、業界標準の通信プロトコルとコンポーネントベースのアーキテクチャを使用してネットワークデバイスを効率的に管理します。Dell Wyse Device Manager (WDM) には、WDM 環境を管理し維持するために必要なすべてのデバイス管理機能を容易に実行できる使いやすい UI が含まれています。対応ブラウザのいずれかを使用してどこからでも WDM UI にアクセスでき、Web UI からすべての操作を実行することもできます。Web UI は使いやすく、すべてのデバイス管理機能を簡単に実行できます。

トピック :

- [主な機能](#)
- [WDM Enterprise Edition の主な機能](#)
- [サポートマトリックス](#)
- [Dell Wyse テクニカルサポート](#)

主な機能

WDM の主な機能は次のとおりです。

- **デバイスの検出** - ネットワーク上のデバイスを検出できるようにするには、WDM で異なるサブネットや IP 範囲を設定します。これは、容易に行うことができます。WDM を設定したら、簡単にデバイスを検索して自動的にシステムに追加できます。システムに追加されたデバイスは、その後、容易に管理できます。
- **デバイスの管理** - デバイスのステータスは、WDM でいつでも確認できます。WDM を設定して、すべてのデバイスのステータスに関する最新の情報が自動的に表示されるようにすることができます。
- **アセット情報の収集** - WDM は、各デバイスにインストールされているハードウェアアセット情報およびソフトウェア情報を含む、各デバイスのアセット情報をすべて監視し保管します。ソフトウェア情報には、オペレーティングシステムと、デバイスに適用されているすべてのアプリケーションおよびアドオンの情報が含まれます。
- **デバイスのリモートコントロールとシャドーイング** - リモートコンソールから同じサブネットのデバイスをシャットダウン、再起動、ウェイクアップさせたり、複数のサブネットのデバイスをウェイクアップさせたりできます。エンドユーザーのデスクトップにアクセスする必要はありません。WDM のシャドーイング機能を使用することにより、ヘルプデスクはリモートロケーションからエンドユーザーの環境内の問題を診断できます。
- **デバイスの整理** - WDM は、デバイスの物理的またはネットワークの位置に関係なく、最も理にかなったグループに従ってデバイスを整理できる堅牢な管理ツールです。
- **プロファイルマネージャ** - WDM では、プロファイルマネージャ経由で、指定したデバイスグループに定義済みの設定を導入できます。これらの設定は、Dell Wyse Configuration Manager (WCM) を使用して作成され、指定されたリポジトリに保存されています。
- **ソフトウェアの導入およびアップデート** - WDM で、デバイス上のソフトウェアおよびイメージを簡単に導入しアップデートすることができます。
- **デバイスソフトウェアのキャプチャおよび導入** - WDM で、インストールとデバイスイメージのキャプチャに必要なソフトウェアを含むリファレンスデバイスを作成できます。これにより、デバイス設定とデバイスにインストールされたソフトウェアをインストール全体にわたって複製できます。
- **デバイスアップデートのスケジュール設定** - WDM の設定で、ソフトウェアの導入およびデバイスへのアップデートをスケジュールできます (ダウンタイムを防ぐことができます)。デバイスのアップデートを今すぐ実行することも、事前定義の時刻またはデバイスの次回起動時にスケジュールすることもできます。

- **定期的スケジューラ** - パッケージを次のように繰り返してスケジュールできます。毎日(または特定の平日)、毎週、毎月、特定の日付または固定回数
- **デバイス設定の導入** - イメージに関係なくデバイスに導入できる異なる設定を作成できます。
- **リポジトリの作成と管理** - WDM で、ソフトウェアのリポジトリ、イメージ、配布用の設定のアップデートを簡単に構築し管理できます。
- **デバイスビュー** - デバイスビューでデバイス情報を簡単に表示し修正でき、便利なログとデバイスレポートを作成できます。
- **分散管理** - ユーザーグループまたはユーザーごとに、管理者権限を細かく制御できます。例えば、管理者 A に表示する権限を付与し、グループ 4 を除くグループ 1、2、3 にアップデートの権限を付与できます。また、管理者 B に表示する権限を付与し、グループ 4 にだけアップデートの権限を付与することもできます。
- **管理者による指定された帯域幅の制御** - サーバ通信に使用される帯域幅を制御できます(例えば、サーバを有効性に基づいて低帯域幅を使用するように設定したり、ダイヤルアップ接続を簡単なプロファイル設定を使用してブロードバンド速度より遅い速度に設定したりできます)。
- **失敗したアップデートの再開オプション** - このオプションを設定して使用すると、失敗したアップデートを簡単に再開できます。WDM がアップデート(パッケージまたはイメージ)を再試行する回数の上限を指定できます。この回数を超えて失敗すると、エラーになります(再試行とエラーの数は WDM のコンソールに表示されます)。
- **デフォルトのデバイス設定 (DDC) サポート** - WDM で DDC を簡単に作成および管理できます。単一の DDC から複数のパッケージをデバイスに適用できます。
- **WDM ユーザーの追加** - Active Directory ユーザーまたはローカルユーザを WDM UI に追加して許可を与えることができます。
- **強化されたレポートサポート** - 次のレポートは、WDM Web UI で使用可能です。
 - **アプリケーションレポート** - 特定のソフトウェアがインストールされユーザーが選択したバージョンを持つデバイスをリストアップするためのレポートを作成できます。
 - **リモートセッションレポート** - リモートセッションレポートには、すべてのデバイスのリモートセッション接続情報が記載されています。
 - **ログレポート** - このレポートには、WDM コンポーネントに関連する WDM サーバでのイベントまたはアクティビティに関する重要な情報が記載されています。

WDM Enterprise Edition の主な機能

WDM Enterprise Edition の追加機能は次のとおりです。

- **WDM サーバ、リポジトリ、デバイス間のセキュアな通信** - クライアントとサーバ間のトラフィックを暗号化して証明書を発行することで、クライアントと Web サーバ間のセキュアな通信を実現します。証明書には、証明書の所有者が自称するエンティティであることを証明する機関による署名が必要です。社内 Web サーバアクセス用に、独自の認証機関を選択することができます。
WDM Web UI は、**連邦情報処理標準 (FIPS)** をサポートしています。
- **Merlin イメージングシステム** - HTTP、HTTPS、CIFS ベースのイメージングや、大型イメージの導入時のパフォーマンスを向上します。
- **リモートリポジトリによる拡張性の追加** - リモートリポジトリをインフラストラクチャに追加することで、ソリューションの機能を拡張することができます。この機能により、ターミナルファームウェアとソフトウェアをリモートサーバの場所に保存できます。アップデートトラフィック(実際のイメージ自体)の大部分が WAN からリモートリポジトリまで一回転送されるだけですむため、広域ネットワーク(WAN)のネットワークトラフィック量が低減します。デバイスは、集中型サーバからではなくリモートサーバからアップデートソフトウェアを取得できます。全体的なアップデートプロセスの速度も上昇します。ただし、すべてのデバイスの管理を集中型サーバ(データセンターなど)から実行することも可能です。
- **分散型アーキテクチャ** - ネットワークの 1 台以上のコンピュータに、WDM コンポーネントをセットすることができます。
- **デフォルトのデバイス設定** - デバイスのグループ用にデフォルトのソフトウェアおよびデバイス設定を行います。この機能は、ソフトウェアおよびデバイス設定の観点から、デバイスが設定に適合していることを確認します。デフォルト設定からの逸脱がある場合、WDM はデバイスを指定された設定に戻します。この機能により、障害が発生したデバイスのリカバリ、既存のデバイスの別用途での使用、既存のインフラストラクチャ内での新しいデバイスの追加が自動化されます。
- **階層ビューの拡張** - この機能を使用して WDM サーバのビジュアルデバイス管理機能を拡大し、合計 30 までのデバイスの異なる組織的ビューを作成します。
- **自動グループ化** - システムに追加されたすべての新規デバイスを事前定義したグループに自動的に配置します。
- **複数のデータベースのサポート** - SQL 2008 または 2012 環境向けに WDM をインストールしている場合、既存のバックエンドインフラストラクチャを使用することができます。
- **Active Directory の統合** - WDM のユーザーグループまたは個人ユーザーを、既存の Active Directory セットアップから容易にインポートできます。

- ピアアシスト導入** - ピアアシスト導入 (PAD) は、ベースイメージやアドオンなどのアップデートを WDM サーバを介して管理されるシンクライアントデバイスに提供するメカニズムです。このメカニズムは、デバイスが複数のサブネットに分散している環境で最適です。
 PAD 機能は、次のプラットフォームに適用できます。
 - Windows 10 IoT Enterprise
 - SUSE Linux
 - Windows Embedded Standard 7 (WES7)
 - Windows Embedded 8 Standard (WE8S)
 - ThinLinux
- プロファイル マネージャ** - PM を使用すると、指定されたデバイスグループに事前定義済みの設定を導入できます。これらの設定は、Dell Wyse Configuration Manager (WCM) を使用して作成し、指定されたリポジトリに保存したものです。プロファイルマネージャの設定はオペレーティングシステムに固有のものであり、いつでもデバイスの 1 つのグループに 1 つの設定のみ適用できます。
- チャージバックアカウントिंग** - この機能は、Wyse Thin OS (ThinOS) デバイスでサポートされます。シンクライアントからのリモートセッション情報を収集し保存します。

サポートマトリックス

表 1. サポートマトリックス

WDM サーバの対応オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1 • Windows Server 2012 Standard • Windows Server 2012 R2 • Windows Server 2016 • Windows 7 Enterprise SP1—64 ビット
すべての WDM コンポーネントのアップグレードに対応するオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> • Windows 2008 R2 SP1 Enterprise • Windows 2008 Service Pack 2 32 ビット • Windows 7 Enterprise SP1—32 ビット • Windows Server 2012 Standard • Windows Server 2012 R2
サポートされているデータベース	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft SQL Server 2008 R2 (英語バージョン) • Microsoft SQL Server 2008 Enterprise—32 ビット • Microsoft SQL Server 2012 • Microsoft SQL Server 2014 • Microsoft SQL Server 2016 • Microsoft SQL Server 2012 Enterprise Edition for High Availability • Microsoft SQL Server 2016 Express SP1
サポートされる Thin Client	Wyse ThinOS <ul style="list-style-type: none"> • Wyse 3010 シンクライアント (ThinOS) • Wyse 3020 シンクライアント (ThinOS) • Wyse 3040 シンクライアント (ThinOS) • Wyse 5010 シンクライアント (ThinOS) • Wyse 5040 シンクライアント (ThinOS) • Wyse 3030 LT シンクライアント (ThinOS) • Wyse 5060 シンクライアント (ThinOS)

- Wyse 7010 シンククライアント (ThinOS)

Wyse ThinOS PCoIP

- Wyse 5040 AIO シンククライアント (PCoIP)
- Wyse 5010 シンククライアント (PCoIP)
- Wyse 3030 LT シンククライアント (PCoIP)
- Wyse 5060 シンククライアント (PCoIP)

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded Standard 7— Build 818 以降

- Wyse 5010 シンククライアント (WES7)
- Wyse 5020 シンククライアント (WES7)
- Wyse 7010 シンククライアント (WES7)
- Wyse 7020 シンククライアント (WES7)
- Wyse 7010 拡張シャーシシンククライアント (WES7)
- Wyse 3030 シンククライアント (WES7)

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded Standard 7P— Build 850 以降

- Wyse 7010 シンククライアント (WES7P)
- Wyse 7010 拡張シャーシシンククライアント (WES7P)
- Wyse 5020 シンククライアント (WES7P)
- Wyse 7020 シンククライアント (WES7P)
- Wyse 7040 シンククライアント (WES7P)
- Dell Latitude E7270 モバイル Thin Client
- Wyse 5060 シンククライアント (WES7P)
- Dell Latitude 3460 モバイル Thin Client

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded 8 Standard—64 ビット

- Wyse 5010 シンククライアント (WE8S)
- Wyse 5020 シンククライアント (WE8S)
- Wyse 7010 シンククライアント (WE8S)
- Wyse 7020 シンククライアント (WE8S)

Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット)

- Wyse 5020 シンククライアント (Win10 IoT)
- Wyse 7020 シンククライアント (Win10 IoT)
- Wyse 7040 シンククライアント (Win10 IoT)

Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise

- Wyse 5010 シンククライアント (Linux)
- Wyse 5020 シンククライアント (Linux)
- Wyse 7010 シンククライアント (Linux)
- Wyse 7020 シンククライアント (Linux)

ThinOS Lite

- Citrix 用 Wyse 3010 ゼロクライアント

- Citrix 用 Wyse 3020 ゼロクライアント
- Citrix 用 Wyse 5010 ゼロクライアント

ThreadX/View Zero Client

- Wyse 5030 ゼロクライアント
- Wyse 7030 ゼロクライアント
- Wyse 5050 AIO ゼロクライアント (PCoIP)

ThinLinux

- Wyse 3030 LT シンククライアント (ThinLinux)
- Wyse 3040 シンククライアント (ThinLinux)
- Wyse 7020 シンククライアント (ThinLinux)
- Wyse 5020 シンククライアント (ThinLinux)
- Wyse 5060 シンククライアント (ThinLinux)

対応する EOL Dell Wyse シンククライアントプラットフォーム

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded Standard 7—Build 818 以降

- C90LE7
- R90L7
- R90LE7
- X90c7
- X90m7
- Z90s7

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded Standard 7P

- X90m7P
- Z90s7P

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded 8 Standard—32ビット

- Wyse 5010 シンククライアント (WE8S)
- Wyse 7010 シンククライアント (WE8S)
- Z90D8E

Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise

- C50LE
- R50L
- R50LE
- X50c
- X50M
- Z50S

ThinOS Lite

- C00X
- R00X

ThreadX/View Zero Client

- P20

Wyse ThinOS

- C10LE
- R10L

Wyse Enhanced Microsoft Windows Embedded Standard 2009 —Build 641 以降

- C90LEW
- 5010
- R90LW
- R90LEW
- V90LEW
- X90CW
- X90MW
- 7010
- Z90SW

Dell Wyse テクニカルサポート

テクニカルリソースのセルフサービスポータル、ナレッジベース、ソフトウェアダウンロード、登録、保証の延長 / RMA、リファレンスマニュアルなどへのアクセス方法については、www.dell.com/wyse/support を参照してください。カスタマーサポートについては、www.dell.com/support/contents/us/en/19/article/Contact-Information/International-Support-Services/international-contact-center?ref=contactus を参照してください。基本サポートおよびプロサポートの電話番号については、www.dell.com/supportcontacts を参照してください。

メモ：次に進む前に、お使いの製品に Dell のサービスタグが付属していることを確認してください。Dell のサービスタグ付き製品の詳細については、www.dell.com/support/contents/us/en/19/article/Product-Support/Dell-Subsidiaries/wyse を参照してください。

関連マニュアルとサービス

ハードウェア製品の特徴が記載されているファクトシートは、Dell Wyse Web サイトでダウンロードできます。<http://www.dell.com/wyse> にアクセスし、お使いのハードウェア製品を選択すると、ファクトシートをダウンロードできるようになります。

Wyse 製品のサポートを受けるには、製品のサービスタグまたはシリアル番号を確認します。

- デルサービスのタグ付き製品の場合は、Dell Wyse 製品ページでナレッジベースの記事や ドライバを検索します。
- デルサービス以外のタグ付き製品については、Wyse サポートドメインにアクセスして必要なすべてのサポートを検索してください。

Dell Wyse オンラインコミュニティ

Dell Wyse ではオンラインコミュニティを提供しています。ここでは、ユーザーフォーラムを通して弊社製品についての検索や情報交換が行えます。en.community.dell.com/techcenter/enterprise-client/wyse_general_forum/ の Dell Wyse オンラインコミュニティフォーラムにアクセスしてください。

WDM へのアクセス

WDM UI にアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 WDM UI をサポートしたブラウザを開きます。以下は WDM Web UI へのアクセスをサポートしている Web ブラウザです。
 - Internet Explorer 11
 - Chrome v40 以降のバージョン
 - Firefox v43 以降のバージョン
 - Microsoft Edge
- 2 ブラウザに以下の URL を入力します。
https://<WDM Server Host Name/IP Address>/WebUI/app/indexf.html#
- 3 **Enter** キーを押します。
- 4 WDM UI にログインするには、以下の手順を実行します。
 - デフォルトでは、同じ認証情報を使用する WDM UI の既存ユーザー名を使用できます。
 - 追加されたユーザーはローカルまたはドメインユーザーである可能性があります。
 - Web UI でドメインユーザーとしてログインするには、ユーザー名とともにドメイン名を指定する必要があります。たとえば、ドメイン名 \ ユーザー名のように入力します。
① | メモ: ユーザー名@ドメイン名はサポートされていません。
 - ローカルユーザーの場合は、ユーザー名のみ指定します。たとえば、**ユーザー名** のように入力します。**local user** (ローカルユーザー) は、管理サーバがインストールされているマシン上でローカルに作成されたユーザーです。
① | メモ: Web UI を参照する前に、cookie とキャッシュをクリアします。

WDM Web UI アプリケーションの機能：

- ダッシュボード
- デバイス
- アプリケーション
- アップデート
- レポート
- システム

ダッシュボード

ダッシュボードページでは、サーバのステータス、デバイスの正常性、ジョブのリスト、アラート、イベント、チェックインされたサーバに関する情報を閲覧することができます。システムの各機能領域の情報の概要をすばやく確認することができます。以下の属性の情報が表示されます。

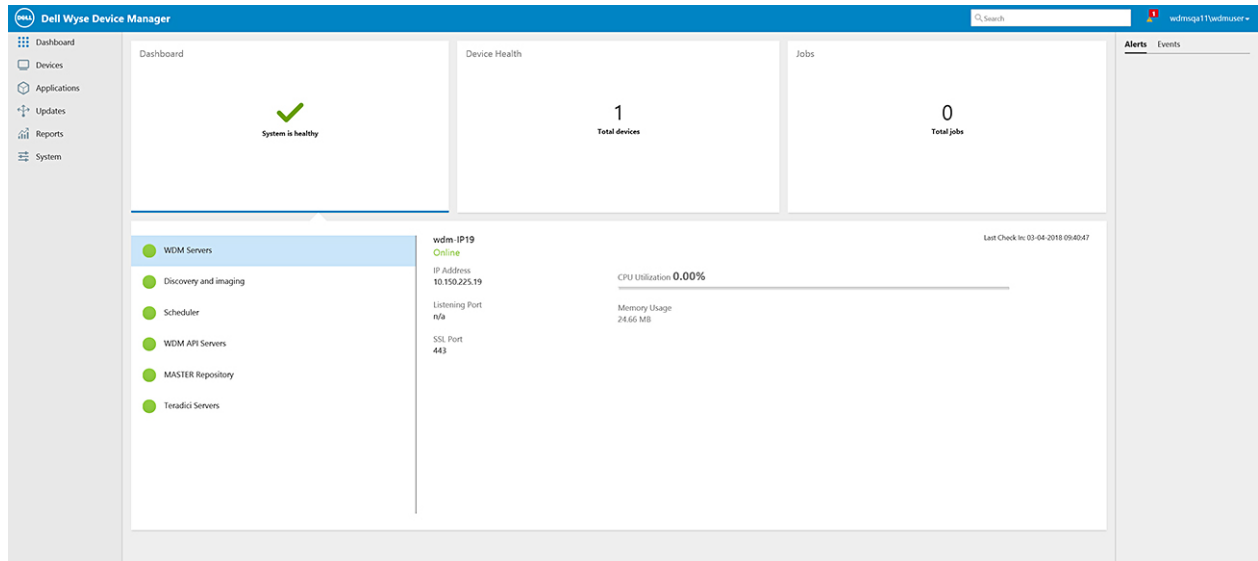


図 1. ダッシュボード

- サーバのステータス
- デバイスの正常性
- ジョブ

前回サーバにチェックインした日付と時刻が表示されます。

ダッシュボードページの右上にある以下のタブをクリックすると、システムのアップデートを確認することができます。

- アラート
- イベント

アップデートの選択、選択解除、削除を行うには、システム管理者権限が必要です。アラートまたはイベントを削除する手順は以下のとおりです。

- アラートまたはイベントを選択します。
- **Select all** (すべて選択) または **Deselect all** (すべて選択解除) をクリックすると、アラートまたはイベントのリスト全体を選択または選択解除できます。
- **Clear** (クリア) をクリックして、選択したアラートまたはイベントを削除します。

表 2. ダッシュボード

パラメータ	説明
Server Status (サーバのステータス)	Server Status (サーバのステータス) タイルをクリックすると、サーバのステータスが表示され、実行中のサービスに関する情報が表示されます。

パラメータ	説明
	<p>次のサービスは UI にリストされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WDM サーバ • 検出およびイメージング • スケジューラ • WDM API サーバ • マスターリポジトリ • Teradici サーバ <p>何らかの理由でサービスが停止している場合は、サーバのステータスは System is down (システムダウン) と表示されます。サービスが稼働している場合は、サーバのステータスは System is healthy (システム正常) と表示されます。</p>
Device Health (デバイスの正常性)	<p>Device Health (デバイスの正常性) タイルをクリックすると、WDM サーバに登録されているデバイスの合計数が表示されます。Device Health (デバイスの正常性) ページの下のペインに、各プラットフォームの正常性ステータス (横方向に表示) と WDM サーバに接続されたデバイス (ハードウェアバージョンのアプリケーション) のリスト (縦方向に表示) が表示されます。</p> <p>デバイスのステータスは次のように分類されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Healthy (正常) • Busy (ビジー) • Offline (オフライン) • Sleeping (スリープモード)
Jobs (ジョブ)	<p>Jobs (ジョブ) タイルをクリックすると、スケジュール済みのジョブの合計数が表示されます。また、以下のようにスケジュール済みのジョブのステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Waiting (待機中) • Running (実行中) • With errors (エラーあり)
Alerts (アラート)	<p>このパラメータで、システムイベントやライセンスエラーなどのアラートを表示し監査できます。</p> <p>① メモ: Threadx 5.x デバイスの場合、WDM 導入時に使用可能な Teradici プロキシサーバの最大容量に達すると、以下の警告アラートが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 15000 デバイスでは、容量上限のアラートが表示されます。 • 18000 デバイスでは、エラーアラートが表示されます。
Events (イベント)	<p>ダッシュボード画面の右上に、デバイスの自動追加、リアルタイムコマンド、パッケージの配布などの実行されたイベントまたはアクションのリストを表示できます。</p>

Logged in Username (ログインしているユーザー名) ドロップダウンリストオプションをクリックして、WDM アプリケーションで次のアクションを実行します。

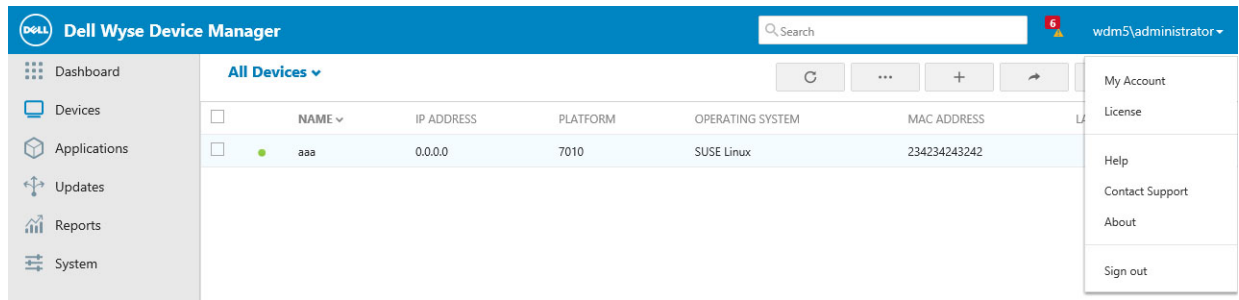


図 2. All Devices (すべてのデバイス)

- **My Account** (マイアカウント) - このオプションをクリックしてチェックインしたユーザーのプロファイルを表示します。
- **License** (ライセンス) - このオプションをクリックして WDM ライセンスの詳細を表示します。詳細については、「[ライセンス](#)」を参照してください。
- **Help** (ヘルプ) - このオプションをクリックして管理者ガイドをダウンロードします。
- **Contact Support** (お問い合わせサポート) - このオプションをクリックしてデルサポートサイトに移動すると、適切なお問い合わせ先が提供されます。
- **About** (バージョン情報) - このオプションをクリックして WDM のバージョンビルド、hotfix、説明およびインストール詳細を表示します。
- **Sign out** (サインアウト) - このオプションをクリックして WDM Web UI アプリケーションからログアウトします。

トピック：

- [ライセンス](#)
- [ライセンスのないデバイス](#)
- [WDM ユーティリティ](#)

ライセンス

Licenses (ライセンス) ページには、セールスキー、非アクティブ化キー、アクティベーションコード、ライセンス、その説明など WDM のエンタープライズライセンスの詳細が記載されています。

試用版ライセンス期間はデフォルトでは 30 日間です。試用ライセンスの期間を 30 日から 60 日に延長することができます。

① | **メモ:** ワークグループライセンスをアクティブ化する必要があります。

ライセンス利用開始から 29 日目、もしくは 30 日目より前に、試用期間が終了します。ライセンスの利用期間を延長するには、License (ライセンス) ページの **Extend License** (ライセンスの延長) をクリックします。試用期間がさらに 30 日間延長されます。

ワークグループライセンスの追加

- 1 **Add license** (ライセンスの追加) をクリックします。
- 2 ライセンスを 7 文字 - 6 文字 - 6 文字 - 7 文字形式で入力するか、コピーしたライセンスをペーストします。
- 3 **Save** (保存) をクリックします。

ワークグループライセンスのアクティブ化

- 1 アクティブ化されていないワークグループライセンスを選択します。
- 2 ライセンスページの右上隅にある **Activate License** (ライセンスのアクティブ化) をクリックします。

① **メモ:** アクティブ化されていないライセンスをメモして、オンラインの WDM ライセンスのフォームで使用します。アクティブ化されていないライセンスをコピーして、オンラインの WDM ライセンスのフォームにペーストすることもできます。

- 3 **Get Activation code** (アクティベーションコードの取得) ウィンドウで、WDM ライセンスの詳細を入力します。フォームへの入力を完了するには、以下の情報が必要です。
 - 連絡先の会社名
 - 会社の電子メールアドレス
 - 会社住所
 - WDM セールスキーと非アクティブ化キー
- 4 アクティベーションコードが表示されます。アクティベーションコードの記載された電子メールを送信することも可能です。
- 5 **Add Activation Code** (アクティベーションコードを追加) フィールドにアクティベーションコードを入力またはコピーし、**Activate Key** (アクティブ化キー) をクリックします。
Licenses (ライセンス) ページでライセンスの詳細を確認することができます。

① **メモ:** WDM サーバにインターネット接続がない場合は、以下の URL にアクセスして WDM セールスキーを有効にします。<https://www.rapportlicensing.com/clientframe/rapport.aspx>

ワークグループライセンスからエンタープライズライセンスへのアップグレード

アクティブまたは非アクティブなワークグループライセンスを WDM インストールに追加すると、ライセンスをエンタープライズライセンスにアップグレードできます。

① **メモ:** エンタープライズライセンスにアップグレードすると、すべてのワークグループライセンスは削除されます。

- 1 **Add license** (ライセンスの追加) をクリックします。
- 2 新しいエンタープライズライセンスを入力またはコピーしてペーストします。
- 3 **Save** (保存) をクリックします。
- 4 アップグレードが完了すると、**Licenses** (ライセンス) ページには、新しいアクティブ化されていないエンタープライズライセンス情報が表示されます。
- 5 「[ワークグループライセンスのアクティブ化](#)」セクションの手順に従ってライセンスをアクティブ化します。

ライセンスのないデバイス

検出されたデバイスの数が WDM で使用可能なライセンスの数を超えると、余分に検出されたデバイスはライセンスのないデバイスページにリストされます。これらのデバイスを選択してライセンスされたデバイスに移し、**Add to Licensed Devices** (ライセンスされたデバイスに追加) オプションをクリックすることができます。

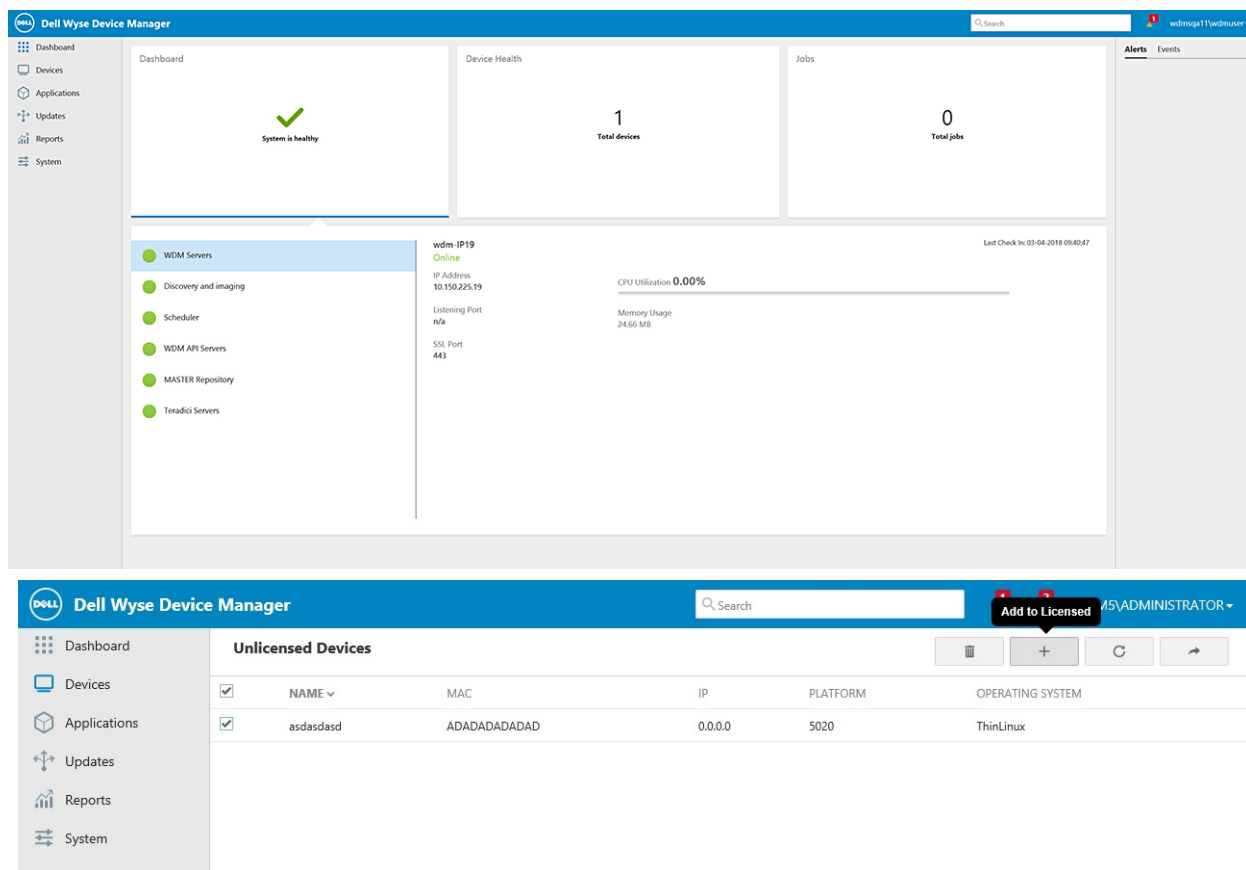


図 3. ライセンスのないデバイス

① メモ:

- ライセンスのないデバイスをライセンスされたデバイスに移すには、WDM 管理者から十分な数のライセンス提供を受ける必要があります。
- 十分なライセンスもなく、ライセンスのないデバイスをライセンスされたデバイスに移そうとすると、次のメッセージが表示されます。You have no license for the vendor(このベンダーのライセンスがありません)。それでもデバイスをライセンスページに追加したい場合は、より多くのデバイスに適用できるライセンスを追加するか、またはライセンスページにすでにあるデバイスを削除します。

WDM ユーティリティ

WDM には多くのユーティリティがあり、高可用性の設定、データベースへのデータのインポート、アカウント管理、DNS-DHCP 検索など、多くの追加機能を実行することができます。

ユーティリティにアクセスするには、次のタスクを実行します。

- 1 **Logged in Username (ログインしているユーザー名) > My Account (マイアカウント) > WDM Utilities (WDM ユーティリティ のドロップダウンリストをクリックします。**
WDM Utilities (WDM ユーティリティ) ウィンドウが表示され、WDM ユーティリティをダウンロードおよび設定するオプションが表示されます。
- 2 **Configure WDM Utilities (WDM ユーティリティの設定)** をクリックします。
- 3 カスタムプロトコルファイルを保存します。このファイルは CustomProtocolforWDMUtilities.exe としてダウンロードされます。
- 4 管理者としてファイルを実行します。
- 5 ダウンロードしたファイルを解凍して内容を展開します。
 ① **メモ: CustomProtocolforWDMUtilities.exe** ファイルがダウンロードされている同じ場所に内容を抽出します。
- 6 次の WDM ユーティリティが表示されます。
 - **HA (高可用性設定ユーティリティ)**

- **Import** (インポート) (データベースへのデータのインポート)
- **Account** (アカウント) (アカウントユーティリティ)
- **DNS-DHCP** (DNS-DHCP Lookup ユーティリティ)

インポートユーティリティを使用したデータのインポート

WDM Common Utilities (WDM 共通ユーティリティ) セクションでは、**コンマ区切り** ファイルと **タブ区切り** ファイルからデータをインポートできます。このユーティリティを使用すると、デバイス、サブネット、IP レンジ、リポジトリ、またはデフォルトのサブネットグループを、ファイルから WDM データベースにインポートすることができます。データはフラットファイルからインポートする必要があります。区切られたフラットファイルは、コンマやタブなどの特定の区切り文字もしくは区切り記号で区切られた 1 レコード以上のレコードで構成されます。

データをインポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
Import Category (カテゴリのインポート) ドロップダウンリストには、以下のオプションがあります。
 - デバイス
 - サブネット
 - IP レンジ
 - リポジトリ
 - サブネットのデフォルトグループ
- 2 フォルダに移動してファイルを保存します。
Import File Name (ファイル名のインポート) フィールドにファイル名が表示されます。
- 3 **Import** (インポート) をクリックしてデータファイルをインポートします。
- 4 入力内容をクリアするには、**Clear** (クリア) をクリックします。

フラットファイルからデバイス設定をインポートするためのフォーマット

デバイス設定用フラットファイルのデータのフォーマットは、以下のとおりです。

クライアント名;MAC アドレス;プラットフォーム;カスタムフィールド 1;カスタムフィールド 2;カスタムフィールド 3;連絡先;場所;OS

- クライアント名は、デバイスの名前です。例：W1009341019
- デバイスの MAC アドレス。例：0080646A1144
- デバイスのプラットフォーム。例：VX0
- カスタムフィールド 1
- カスタムフィールド 2
- カスタムフィールド 3
- 連絡先は、デバイスに関する連絡先となる人の情報です。例：管理者
- デバイスの場所。例：サンノゼオフィス
- OS は、デバイスのオペレーティングシステムコードです。このフィールドは、新しいデルのネーミングスキームを持つデバイスのみにも適用されます。

以下はオペレーティングシステムのコードです。

- Wyse Xenith - XEN
- WTOS - BL
- WTOS PCoIP - BLP
- PCoIP (ThreadX) - TDC
- SUSE Linux - SLX
- Red Hat Linux 6.x, 7.x, 8.x – RLX

- Windows XP - XP
- Windows Embedded Standard - WES
- Windows Embedded Standard 7 - WES7
- Windows Embedded Standard 7 P - WES7P
- Windows Embedded 8 Standard 32 - WE8Sx
- Windows Embedded 8 Standard 64 - WE8SEmbedded 8 Standard 64 - WE8S
- Windows 10 IoT Enterprise - WIE10

デバイス設定データの例は、以下のとおりです。

```
D90Q8;A02040401050;5020;XYZ;MN;OP;WE8S;W1009341019;0080646A1144;VX0;ABCD;EFGH;IJKL;Administrator;San Jose Office;WES
```

フラットファイルからサブネットデータをインポートするためのフォーマット

サブネット用フラットファイルのデータのフォーマットは、以下のとおりです。

ブロードキャストアドレス, 説明, ソフトウェアリポジトリ, デフォルトのオーバーライドパラメータ, IP アドレス, サブネットマスク, 最大値.Web サービスの同時更新, Wake on LAN のタイムアウト (秒), Wake on LAN の試行回数, TFTP タイムアウト (秒), TFTP の再試行回数, ネットワークカードの速度

- デバイスのブロードキャストアドレス。例：10.10.10.255
- 説明とは、GUI に表示されるサブネット名です。
- ソフトウェアリポジトリは、ソフトウェアリポジトリの名前です。例：マスターソフトウェアリポジトリなしでサブネットを追加することはできません。
- デフォルトのオーバーライドパラメータ - グローバル環境設定を上書きします (これはエンタープライズライセンスにのみ適用されます)。
- IP アドレスは、サブネットの有効な IP アドレスです。例：199.199.10.2
- デバイスのサブネットマスク。例：255.255.255.0
- 最大.Web サービスの同時更新は、同時更新の最大数の上限です。例：5
- Wake on LAN タイムアウト (秒) は、Wake on LAN のタイムアウトまでの時間です。例：2
- Wake on LAN 試行回数は、WOL の再試行回数の上限です。例：3
- TFTP タイムアウト (秒)。例：10
- TFTP 再試行回数は、TFTP の再試行回数の上限です。例：3
- デバイスのネットワークカードのスピード。例：1 (自動) 2 (100M-F) 3 (100M-H)

サブネットデータの例は次のとおりです。

```
10.10.10.255,Subnet1,MASTER,False,199.199.10.2,255.255.255.0,6,2,1,1,7,2.
```

この例では、199.10.0.1 から 199.10.0.254 の間で IP アドレスを割り当てたクラス C サブネット上のデバイスを、検出および管理するサブネットの定義を追加します。カラムヘッダーは存在しない、もしくは上記の適切な順序で存在します。

ⓘ | メモ: サブネットを使用する前に、WDM データベースにリポジトリに関する情報が少なくとも 1 つは存在している必要があります。

フラットファイルから IP レンジのデータをインポートするためのフォーマット

IP レンジ用フラットファイルのデータのフォーマットは、以下のとおりです。

先頭 IP アドレス, 終了 IP アドレス, 除外レンジの先頭 IP アドレス, 除外レンジの終了 IP アドレス, 説明

- 先頭 IP アドレス - IP レンジの最初の IP アドレス
- 終了 IP アドレス - IP レンジの最後の IP アドレス

- 除外レンジの先頭 IP アドレス - 除外 IP レンジの最初の IP アドレス
- 除外レンジの終了 IP アドレス - 除外 IP レンジの最後の IP アドレス
- 説明 - GUI に表示されている IP レンジの名前を入力します。

IP レンジのデータの例を次に示します。

```
My IP Range 10.10.10.10 10.10.10.200 10.10.10.20 10.10.10.30
```

IP レンジの定義がデータベースに追加され、10.10.10.10 ~ 10.10.10.19 および 10.10.10.31 ~ 10.10.10.200 の範囲のすべてのデバイスが検出されます。この IP レンジの定義は、WDM GUI で **My IP Range** (My IP 範囲) として表示されます。

フラットファイルからソフトウェアリポジトリデータをインポートするためのフォーマット

ソフトウェアリポジトリ用フラットファイルのデータのフォーマットは、以下のとおりです。

リポジトリの名前, リポジトリの IP アドレス, 転送タイプ, 相対パス, コンテキスト, FTP ポート番号, HTTP ポート番号, FTP ユーザー名, FTP パスワード, HTTP ユーザー名, HTTP パスワード, HTTP のセキュア化, CA での HTTPS 検証, リモートサーバ名, CIFS ユーザー名, CIFS パスワード

- GUI に表示されるソフトウェアリポジトリの名前
- 位置は、FTP サーバの IP アドレスです。
- 転送タイプは、使用中の転送プロトコルのタイプです。FTP、HTTP、またはその両方を使用できます。
- 相対パスは、ルートディレクトリに関するソフトウェアリポジトリへのパスです。この設定のデフォルト値は、/rapport です。
- コンテキストは、仮想ディレクトリの名前で、HTTP 通信に有効です。デフォルトでは、HTTP コンテキストは MyWDM です。
- FTP ポート番号は、FTP 通信用のポート番号です。デフォルト値は 21 です。
- HTTP ポート番号は、HTTP/HTTPS 通信用のポート番号です。デフォルト値は、HTTP 通信の場合は 80、HTTPS 通信の場合は 443 です。
- FTP ユーザー名は、リポジトリに接続するために使用する IIS FTP または FTP サービスによって設定された FTP アカウントのユーザー名です。
- FTP パスワードは、リポジトリに接続するために使用する IIS FTP または FTP サービスによって設定された FTP アカウントのパスワードです。
- HTTP ユーザー名は、リポジトリに接続するために使用する IIS HTTP または HTTP サービスによって設定された HTTP アカウントのユーザー名です。
- HTTP パスワードは、リポジトリに接続するために使用する IIS HTTP または HTTP サービスによって設定された HTTP アカウントのパスワードです。
- セキュア (HTTPS) - **Secure** (セキュア) をオンにする場合 (HTTPS サポート対象) は -1 を、**Secure** (セキュア) をオンにしない場合 (HTTPS ではなく HTTP のサポート対象) は 0 を入力します。
- CA での HTTPS 検証 - **Validate Certificate with CA** (CA を使用した証明書の検証) が確認済みの場合は -1、確認済みではない場合は 0 になります。

ソフトウェアリポジトリのデータの例は、以下のとおりです。

- 転送タイプが HTTP および FTP の場合
RemoteHTTPFTP, 10.10.11.9, HTTP and FTP, /rapport, MyWDM, 21, 80, FTPUserName, FTPPassword, HTTPUserName, HTTPPassword, 0, 0
- 転送タイプが HTTP の場合
RemoteHTTP, 10.10.11.9, HTTP, /rapport, MyWDM, , 80, , , HTTPUserName, HTTPPassword, 0, 0
- 転送タイプが HTTP で、セキュアフラグが確認済みの場合
RemoteHTTP, 10.10.11.9, HTTP, /rapport, MyWDM, , 443, , , HTTPUserName, HTTPPassword, -1, -1 or
RemoteHTTP, 10.10.11.9, HTTP, /rapport, MyWDM, , 443, , , HTTPUserName, , -1, -1
- 転送タイプが FTP の場合
RemoteFTP, 10.10.11.9, FTP, /rapport, , 21, , FTPUserName, FTPPassword, , , 0, 0
- 転送タイプが CIFS の場合
RemoteCIFS, 10.150.112.3, SMB, /rapport, MyWDM, , , , , , ,
0, 0, RemoteServerName, CIFSUsername, CIFSPassword
- 転送タイプが FTP、HTTP、CIFS の場合

```
FTPHTTPandCIFS,10.150.112.3,HTTP and FTP and SMB,/Rapport,MyWDM,  
21,80,FTPusername,FTPpassword,Httpusername,Httppassword,  
0,0,RemoteServerName,CIFSusername,CIFSpassword
```

- 転送タイプが FTP、HTTPS、CIFS の場合

```
FTPHTTPSandCIFS,10.150.112.7,HTTP and FTP and SMB,/Rapport,MYWDM,  
21,443,FTPUsername,FTPPassword,HttpUsername,HttpPassword,-1,0,RemoteServerName,CIFSUserName,CIFSPassword
```

ソフトウェアリポジトリの定義がデータベースに追加され、10.10.11.9 のサーバのリポジトリを定義します。FTP サービスのルートディレクトリのデフォルトのパスは、/rapport です。このリポジトリにアクセスするには、ユーザーのユーザー名を使用します。FTP は転送プロトコルとして使用され、WDM にリモートと表示されます。

フラットファイルからサブネットのデフォルトグループをインポートするためのフォーマット

サブネットのデフォルトグループ用フラットファイルのデータのフォーマットは、以下のとおりです。

ブロードキャストアドレス, デフォルトグループ, デフォルトグループの値

- デバイスのブロードキャストアドレス。例：10.10.10.255
- デフォルトグループ。例：State
- デフォルトグループの値。例：California

例 1：10.150.115.255;States;California

例 2：10.150.115.255;Department;Sales

例 3：10.150.116.255;States;California

① **メモ:** WDM データベースには、サブネット、グループ、グループの値が含まれている必要があります。

Default Groups for Subnets (サブネットのデフォルトグループ) が選択されている場合は、**Update Existing Default Groups for Subnets** (既存のサブネットのデフォルトグループのアップデート) とタグ付けされたチェックボックスが、ページの下部に表示されます。

このチェックボックスにチェックが入っていないと、サブネットにすでに割り当てられたデフォルトグループが存在していても、グループ名の値のインポートを行うことはできません。

このチェックボックスにチェックが入っていると、インポートされたファイルグループ名の値とともに、グループ値がアップデートされます。

高可用性設定ユーティリティ

高可用性設定ユーティリティは、高可用性環境をセットアップし、データベースをクラスタ化する際に使用します。このユーティリティを使用すると、WDM をクラスタに接続してクラスタ内で機能させることが可能になり、ダウンタイムをゼロにできます。このユーティリティは、WDM をインストールした後に利用できます。

- 1 次の詳細を入力します。

- **Database Name (データベース名)** – デフォルトで表示され、これを編集することはできません。
- **Database Server (データベースサーバ)** – データベースクラスタのホスト名を指定します。
- **Database Port (データベースポート)** – ポート番号を指定します。
- **Database User Name (データベースのユーザー名)** – データベースユーザーを指定します。
- **Database Password (データベースのパスワード)** – データベースユーザーのパスワードを指定します。

- 2 **Provision (プロビジョニング)** をクリックします。

接続の詳細がユーティリティの右側のペインに表示されます。

① **メモ:** プロビジョニングによりライセンスが変更されるため、ライセンスを再入力する必要があります。非 HA 環境では HA ユーティリティを実行しないでください。

アカウントユーティリティ

アカウントユーティリティを使用すると、WDM データベースの詳細を表示したり、データベースにアクセスするための認証情報を作成したりできます。

- 1 アカウントユーティリティでは、次の情報が表示されます。
 - **Server Port (サーバポート)** — WDM データベースサーバの IP アドレスとポート番号。
 - **Database Name (データベース名)** — WDM データベースの名前。
 - **ユーザー名** — WDM データベースにアクセスするためのユーザー名。これは、WDM のインストール時に指定されたユーザー名です。
- 2 データベースにアクセスするための認証情報を変更するには、次の手順を実行します。
 - a **New credentials for WDM database (WDM VXC-M データベース用の新しい認証情報)** の下の **ユーザー名** に新しいユーザー名を入力します。
 - b データベースにアクセスするためのパスワードを **Password (パスワード)** に入力します。
 - c **Confirm Password (パスワードの確認)** フィールドにパスワードを再入力します。
 - d ドメインのユーザー名とパスワードを使用したい場合は、**Connect as domain user (ドメインユーザーとして接続)** を選択してします。
- 3 新しい認証情報を入力した場合は **アップデート** をクリックします。新しい認証情報を入力せずにウィンドウを閉じる場合は、**Clear (クリア)** をクリックします。

DNS-DHCP ルックアップユーティリティ

このユーティリティを使用すると、当該ネットワークに設定されている、クライアント側からの WDM 検出方法を確認できます。

WDM サーバに対する DNS および DHCP ルックアップの結果を確認できます。

デバイス

デバイスページに自動または手動で検出されたすべてのデバイスを表示することができます。また、デバイス情報の詳細を表示したり、新しいデバイスを手動で追加するなどのタスクを実行したり、リアルタイムのコマンドなどを実行することもできます。

表 3. Devices (デバイス)

パラメータ	説明
Name (名前)	デバイスの名前を表示します。
IP address (IP アドレス)	デバイスの IP アドレスを表示します。
Platform (プラットフォーム)	デバイスのプラットフォームを表示します。
Operating system (オペレーティングシステム)	デバイスで実行中のオペレーティングシステムを表示します。
MAC address (MAC アドレス)	デバイスの MAC アドレスを表示します。
Last check in (最近のチェックイン)	デバイスが WDM サーバに報告するときに、タイムスタンプを表示します。

① **メモ:** すべてのデバイスでは、その名前の横にヘルスステータスが表示されます。ヘルスステータスアイコンの上にポインタを置くと、その特定のデバイスのヘルスステータスが表示されます。

デバイスの詳細な概要は、ページの左上にある **All Devices** (すべてのデバイス) タブの下に表示されます。

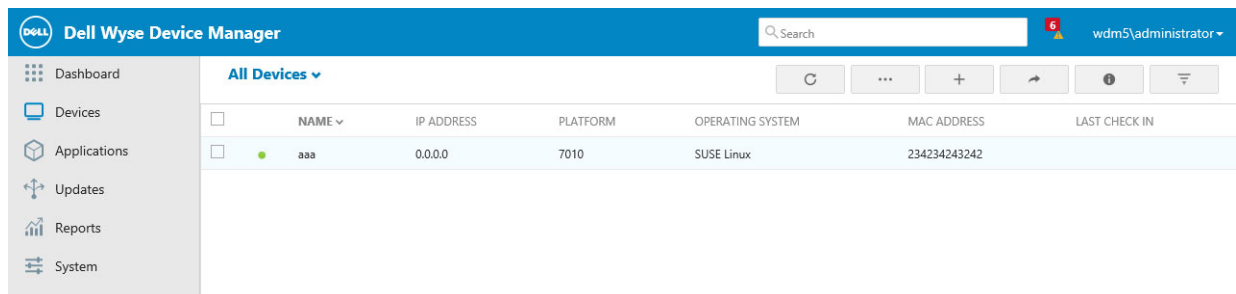


図 4. All Devices (すべてのデバイス)

検出されたデバイスのリアルタイムコマンドを実行するには、次のタスクを完了させます。

一般的なリアルタイムコマンドのオプション：

- 1 リアルタイムコマンドは画面の上部にあります。
 - a ページを更新するには、**Refresh** (更新) をクリックします。
 - b **More** (詳細) をクリックして、デバイスの名前を変更し、**Rename Device** (デバイスの名前変更) フィールドに新しい名前を入力します。
 - c **Add or find Device** (デバイスの追加または検索) をクリックして、手動でデバイスを WDM に追加したり、手動検出で複数のデバイスを検索したりします。

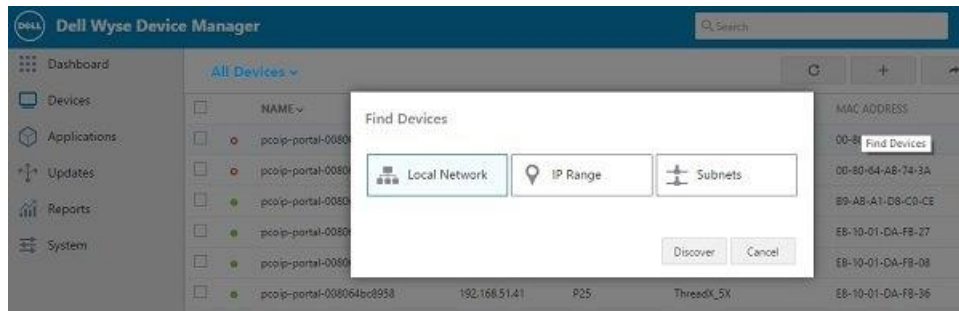


図 5. デバイスの検索

デバイスを検出するには、次のタスクを実行します。

- 1 **Find Devices** (デバイスの検索) オプションをクリックします。**Local Network** (ローカルネットワーク)、**IP Range** (IP 範囲)、**Subnet** (サブネット) を使用してデバイスを検索できます。
- 2 **IP Range** (IP 範囲) オプションをクリックし、IP 範囲を使用してデバイスを検出し、提供されるフィールドに IP アドレスの範囲を入力します。
- 3 **Subnets** (サブネット) オプションをクリックして、サブネットを使用してデバイスを検出します。**Global Search** (グローバル検索) バーでサブネットを検索できます。
- 4 **Local Network** (ローカルネットワーク) オプションをクリックして、ローカルネットワークからデバイスを検出します。
- 5 **Discover** (検出) をクリックします。

デバイスを手動で追加するには、次の手順を実行します。

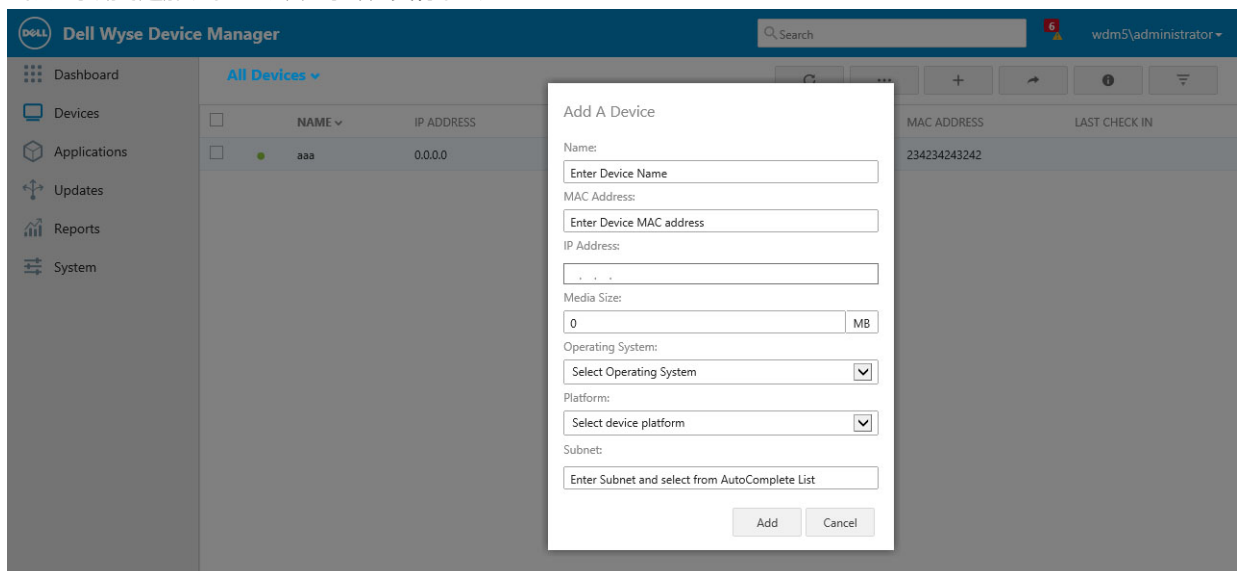


図 6. デバイスの追加

- 1 **Add A Devices** (デバイスの追加) オプションをクリックします。
- 2 **Name** (名前) フィールドにデバイス名を入力します。
- 3 デバイスの MAC アドレスを **MAC address** (MAC アドレス) フィールドに入力します。
- 4 デバイスの IP アドレスを **IP Address** (IP アドレス) フィールドに入力します。
- 5 デバイスのメディアサイズ (MB で指定) を **Media Size** (メディアサイズ) フィールドに入力します。
- 6 ドロップダウンリストから、**Operating System** (オペレーティングシステム) とデバイス **Platform** (プラットフォーム) を選択します。
- 7 **Subnet** (サブネット) を入力して、オートコンプリートリストからサブネット IP を選択します。
- 8 **Add** (追加) をクリックします。

- d **Export** (エクスポート) をクリックして、デバイスのリストを .csv または .txt (タブ区切り) 形式でエクスポートします。
- e **View Details** (詳細の表示) をクリックして、選択したデバイスの完全な概要、ステータス、ネットワーク、ハードウェア、ログを表示します。
 - **Overview** (概要): 選択したデバイスの **System** (システム)、**Location** (場所)、**Capabilities** (機能)、**Network** (ネットワーク)、**Drives** (ドライブ) の完全な概要が表示されます。
 - **Status** (ステータス) - 次の情報が表示されます。
 - システムでインストールおよび実行されているアプリケーション。
 - プロセッサとシステムのパフォーマンス。
 - 選択したデバイスのリモートセッション。
 - ThinOS デバイスに接続されている USB デバイス。
 - **Network** (ネットワーク): 選択したデバイスの **NIC card** (NIC カード) の詳細と **Network Details** (ネットワークの詳細) が表示されます。
 - **Hardware** (ハードウェア): 次の属性の詳細が表示されます。
 - **Disks** (ディスク): デバイスで使用可能なパーティションの数とそのメモリサイズを表示します。
 - **Drives** (ドライブ): ドライブの数とそのメモリサイズを表示します。
 - **Systems** (システム): ハードウェア関連の詳細情報と、ThinOS デバイスの接続されているモニタを表示します。
 - **Logs** (ログ): 選択したデバイスの **Audit Trails** (追跡記録) および **Deployed Packages** (導入されたパッケージ) の詳細が表示されます。
- f **Add/Modify Filter** (フィルタの追加 / 変更) をクリックして、名前、IP アドレス、オペレーティングシステム、プラットフォーム、最近のチェックイン、MAC アドレスに応じてデバイスページをフィルタにかけます。次のガイドラインを使用します。



図 7. フィルタの追加 / 変更

- 1 デバイス名に応じてデバイスページにフィルタをかけるには、**Name** (名前) フィールドにデバイス名を入力して、**Update** (アップデート) をクリックします。
 - ① **メモ:** 名前の一部でデバイスを検索している場合は、**Partial Name of the device** (デバイス名の一部) を使用します。
- 2 IP アドレスに応じてデバイスページにフィルタをかけるには、**IP Address** (IP アドレス) フィールドにデバイスの IP アドレスを入力して、**Update** (アップデート) をクリックします。
- 3 ドロップダウンリストから **Operating System** (オペレーティングシステム) とデバイスの **Platform** (プラットフォーム) を選択して、そのオペレーティングシステムとプラットフォームに応じてデバイスページにフィルタをかけます。
- 4 **Last Check-in** (最近のチェックイン) ドロップダウンリストから、選好に基づいて「後」または「間」のいずれかを選択し、デバイスにチェックインした日付と時刻を MM/DD/YYYY hh:mm 形式で指定します。
- 5 デバイスの **MAC address** (MAC アドレス) を入力して **Update** (アップデート) をクリックし、デバイスの MAC アドレスに応じてデバイスページにフィルタをかけます。
- 6 ページに表示する **Number of Devices** (デバイスの数) を入力します。
- 7 **Reset** (リセット) をクリックして、入力した値をリセットします。
- 8 **Update** (アップデート) をクリックして、デバイスページにフィルタを追加します。
- 9 フィルタ処理された属性上でマウスポインタを停止し、フィルタの横に表示された **x** アイコンをクリックして、適用されたフィルタを削除します。

希望するデバイスを選択して、次のリアルタイムコマンドを実行します。

- a 特定のデバイスにパッケージを転送するには、**Update** (アップデート) をクリックします。

- b 選択したデバイスを再起動するには、**Reboot Device**（デバイスの再起動）をクリックします。
- c 選択したデバイスをシャットダウン、または停止するには、**Shutdown**（シャットダウン）をクリックします。
- d 選択したデバイスにメッセージを送信するには、**Send Message**（メッセージを送信）をクリックします。**Send Message**（メッセージを送信）画面が表示されます。
 - 1 表示されたメッセージタイプのオプションから、希望するメッセージのラジオボタンを選択します。メッセージのタイプは次のとおりです。
 - 情報
 - 警告
 - 重要
 - 2 **Message Title**（メッセージのタイトル）フィールドにメッセージのタイトルを入力します。
 - 3 **Message Body**（メッセージの本文）フィールドにメッセージの内容を入力します。
 - 4 **Send**（送信）ボタンをクリックして、メッセージを送信します。
- e **More**（詳細）をクリックして追加のタスクを実行します。次のタスクを実行できます。

表 4. More（詳細）



パラメータ	説明
Rename Device（デバイス名の変更）	Rename Device （デバイス名の変更）フィールドに新しい名前を入力します。
Update Device Information（デバイス情報のアップデート）	デバイスの詳細を入力して、デバイスの情報を更新します。デバイス情報を更新するには、次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの場所 • 連絡先 • カスタムタグの追加 Update （アップデート）オプションをクリックして、デバイス情報をアップデートします。
Execute Commands（コマンドの実行）	コマンドを実行するには、 Execute Commands （コマンドの実行）フィールドにコマンドまたはパスを入力し、 Execute （実行）オプションをクリックして入力したコマンドを実行します。
Wake on LAN	WDM がインストールされている同じサブネットでシャットダウンされたデバイスをウェイクアップするには、 Wake on LAN をクリックします。
Relay Wake on LAN（Wake on LAN の中継）	サブネットを超えてデバイスをウェイクアップするには、 Relay Wake on LAN （Wake on LAN の中継）をクリックします。
Get Image（イメージの取得）	イメージの名前と、それぞれのフィールドに関連する説明を入力します。 Compress image （イメージを圧縮）ボタンをクリックして、イメージの圧縮を有効にします。 ⓘ メモ: イメージを圧縮すると処理時間が長くなります。
View Logs（ログの表示）	デバイスのログを表示するにはこのオプションを使用します。独自のログを作成するには、 Create Log （ログを作成）ボタンをクリックしてログの名前を指定し、 Create （作成）をクリックします。
Include to PAD Repository（PAD リポジトリに組み込む）	PAD リポジトリから除外されているデバイスを組み込むには、 Include （組み込む）をクリックします。
Exclude from PAD Repository（PAD リポジトリから除外）	デバイスを PAD リポジトリから除外するには、 Exclude （除外する）をクリックします。
Delete（削除）	WDM データベースからデバイスを削除するには、 Force-delete （強制削除）をクリックします。エージェントからサーバの詳細を削除することでデバイスを削除するには、 Delete （削除）をクリックします。
Remote Shadow（リモートシャドウ）	デバイスのリモートシャドウ機能を有効にするにはこのオプションを使用します。これによりデバイスをリモートで表示、制御する（デバイスをシャドウイングする）ことができます。

グループタイプを管理するには、次のタスクを実行します。

Manage Group Types

Groups

Add custom groups

G1	 

Add value for G1





A1	 
A	 

図 8. グループタイプの管理

- 1 **All Devices** (すべてのデバイス) オプションをクリックして **Manage Group Types** (グループタイプの管理) オプションを選択します。 **Manage Group Types** (グループタイプの管理) ページが表示されます。
- 2 **Groups** (グループ) フィールドにカスタムグループの名前を入力します。
- 3 **Add** (追加) オプションをクリックして、選択したカスタムグループを追加します。
- 4 リストから追加したグループを選択し、特定のグループの値を追加します。
- 5 **Add** (追加) オプションをクリックして、選択したグループの値を追加します。
- 6 **Save** (保存) オプションをクリックして、変更を保存します。

新しいビューを作成するには、次のタスクを実行します。

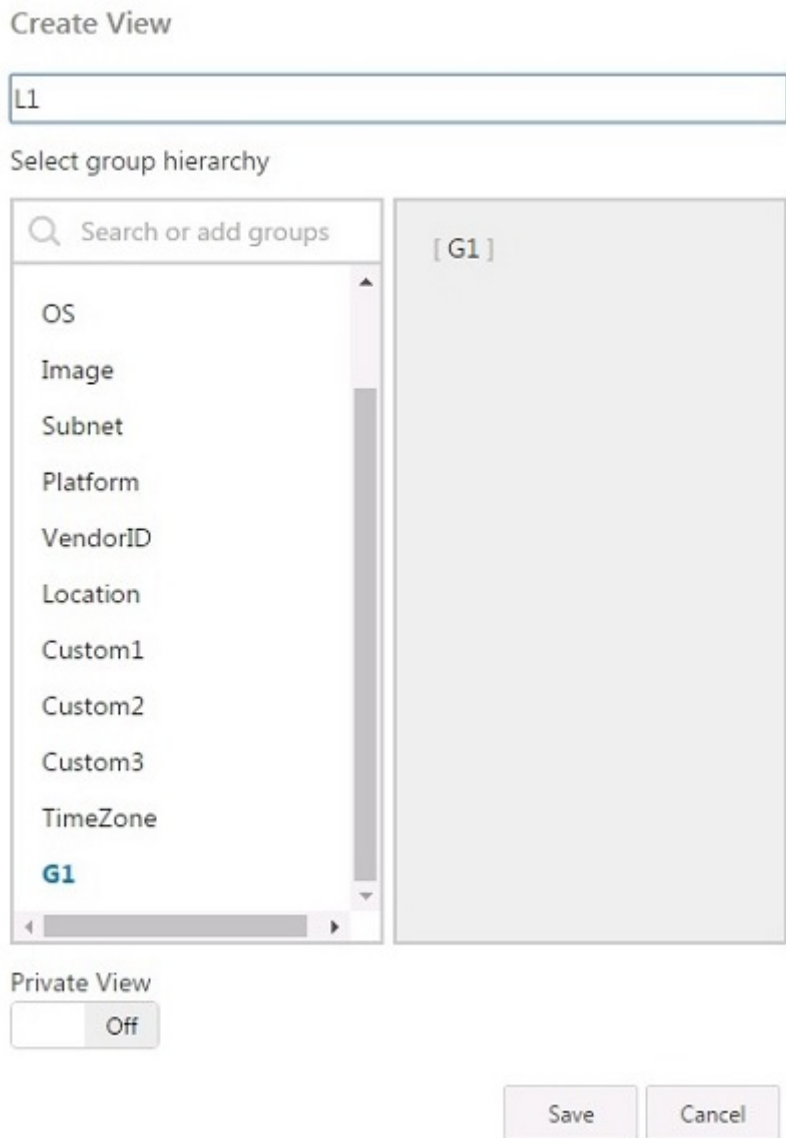


図 9. ビューの作成

- 1 **All Devices** (すべてのデバイス) オプションをクリックして **Create View** (ビューの作成) オプションを選択します。**Create View** (ビューの作成) ページが表示されます。
- 2 **New view** (新しいビュー) フィールドにビューの名前を入力します。
- 3 画面の左側に表示されるグループを優先度順に選択します。

① **メモ:** カスタムグループを追加するには、+ **Add custom group** (カスタムグループの追加) オプションをクリックします。グループの名前を入力し、チェックマークを選択してカスタムグループをグループ階層のリストに追加します。選択したグループの階層の順序を表示することができます。

- 4 **ON/OFF** (オン/オフ) ボタンをクリックして **Private View** (個人ビュー) オプションを有効または無効にします。
- 5 **Save** (保存) オプションをクリックして、変更を保存します。

デバイスをカスタムグループに割り当てるには、以下を実行します。

- 1 **All devices** (すべてのデバイス) をクリックして、作成されたカスタムビューを選択します
- 2 **Unassigned** (割り当て解除) をクリックします。

- 3 デバイスを選択し、**Assign Group**（グループの割り当て）をクリックします。

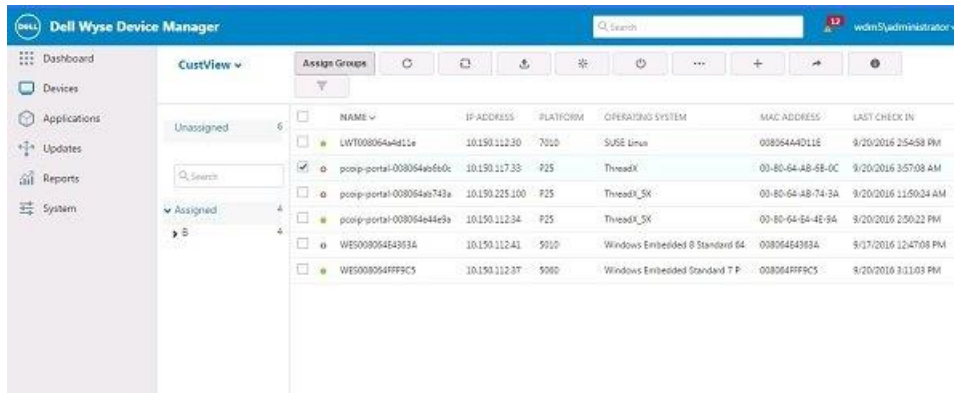


図 10. グループの割り当て

- 4 デバイスを割り当てるグループの値を選択します。

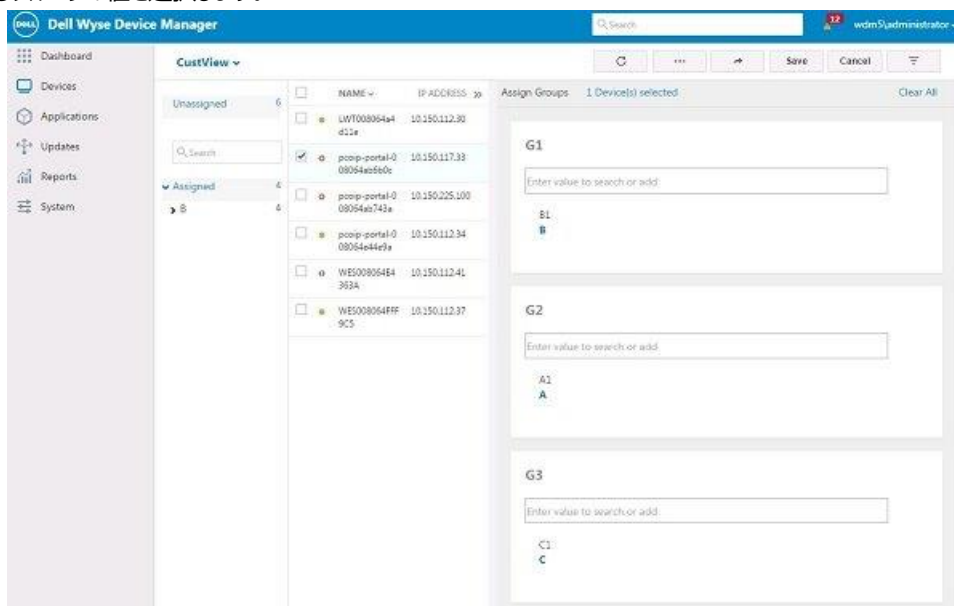


図 11. グループの割り当て

- 5 **Save**（保存）をクリックします。

アプリケーション

アプリケーションページでは、次のタスクを実行できます。

- パッケージを WDM マスターリポジトリに登録します。
- パッケージをデバイスに導入します。
- ネットワークのデバイスから登録、作成、取得したパッケージイメージおよび / または構成パッケージを手動で登録します (他のデバイスに配布するため)。
- 事前登録済みの WDM エージェントおよび Boot Agent パッケージをアップグレードします。
- パッケージを機能カテゴリで整理して、選択したデバイスに配布します (すぐに、またはスケジュール通りに)。

デフォルトでは、WDM には、デバイスに導入できる標準パッケージがいくつかあります。これらのパッケージは、5 つのカテゴリに分かれています。

- Agent Update (エージェントのアップデート)
- Device Configuration (デバイス設定)
- Images (イメージ)
- Other Packages (その他のパッケージ)
- PCoIP デバイス設定
- **Agent Update** (エージェントのアップデート) - エージェントのアップデートページに、利用可能なエージェントパッケージのリストを表示します。それぞれのエージェントパッケージの説明が、これらのパッケージを登録できるオペレーティングシステムの詳細とともに表示されます。

NAME	DESCRIPTION	OPERATING SYSTEM	CREATED AT
SUSELXAgentUpgrade	SLETC HAgent Supported: SLED12(Ver-4.2.0), SLED11SP3(Ver-5.5.38), SLED11SP2(Ver-5.3.07)	SUSE Linux	2018-04-02 09:20:02.713
ThinLXAgentUpgrade	SLETC HAgent Supported: SLED12 (Ver-5.4.47)	ThinLinux	2018-04-02 09:20:02.887
ThinLXAgentUpgrade2	SLETC HAgent Supported: SLED12 (Ver-5.4.54)	Thin Linux 2.0	2018-04-02 09:20:08.190
UbuntuHAgentUpgrade	Ubuntu Linux HAgent Upgrade (Ver-5.0.39)	Wyse Enhanced Ubuntu Linux	2014-07-31 12:00:00.200
WES7WDAAgentUpgrade	WES7 WDAAgent Upgrade (Ver-14.1.1.3)	Windows Embedded 8 Standard 64	2018-04-02 09:20:09.663
WES7WDAAgentUpgrade	WES7 WDAAgent Upgrade (Ver-14.1.1.3)	Windows Embedded Standard 7 P	2018-04-02 09:20:09.453
WES7WDAAgentUpgrade	WES7 WDAAgent Upgrade (Ver-14.1.1.3)	Windows Embedded Standard 7	2018-04-02 09:20:09.323
WIE10WDAAgentUpgrade	WIE10 WDAAgent Upgrade (Ver-14.1.1.3)	Windows 10 IoT Enterprise	2018-04-02 09:20:09.790

図 12. エージェント

- **SUSELXAgentUpgrade** — このパッケージは、SUSE Linux OS を実行しているデバイスにのみスケジュールできます。このパッケージを使用して、既存の HAgent を WDM に組み込まれる HAgent バージョンにアップデートできます。
- **ThinLXAgentUpgrade** — Thin Linux OS を実行しているデバイスにのみスケジュールできます。このパッケージを使用して、既存の HAgent を WDM に組み込まれる HAgent バージョンにアップデートできます。
- **ThinLXAgentUpgrade2** — Thin Linux 2.0 OS を実行しているデバイスにのみスケジュールできます。このパッケージを使用して、既存の HAgent を WDM に組み込まれる HAgent バージョンにアップデートできます。
- **UbuntuHAgentUpgrade** - Wyse Enhanced Ubuntu Linux OS を実行しているデバイスでのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent を、WDM に組み込まれている HAgent バージョンに更新するために使用することができます。

- **WE8SWDAAgentUpgrade** - Windows Embedded 8 Standard 64 ビット OS を実行しているデバイスに対してのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent および WDA を WDM に組み込まれている WDA バージョンに更新するために使用することができます。
- **WES7WDAgentUpgrade** - WES7 OS を実行しているデバイスでのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent および WDA を WDM に組み込まれている WDA バージョンに更新するために使用することができます。
- **WES7PWDAgentUpgrade** - WES7P OS を実行しているデバイスでのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent および WDA を WDM に組み込まれている WDA バージョンに更新するために使用することができます。
- **WESHAgentUpgrade** - WES OS を実行しているデバイスでのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent を、WDM に組み込まれている HAgent バージョンに更新するために使用することができます。
- **WIE10WDAgentUpgrade** - WIE10 OS を実行しているデバイスでのみスケジュールできます。このパッケージは、既存の HAgent および WDA を WDM に組み込まれている WDA バージョンに更新するために使用することができます。

表 5. Agents update (エージェントのアップデート)

パラメータ	説明
Name (名前)	パッケージの名前を表示します。
Description (説明)	パッケージの説明を表示します。
Operating System (オペレーティングシステム)	登録済みパッケージのオペレーティングシステムを表示します。
Created At (作成日時)	パッケージを作成した日付と時刻を表示します。

- **Device Configuration (デバイス設定)** — デバイス設定のページは、新しいアプリケーション構成パッケージの作成および登録に使用します。

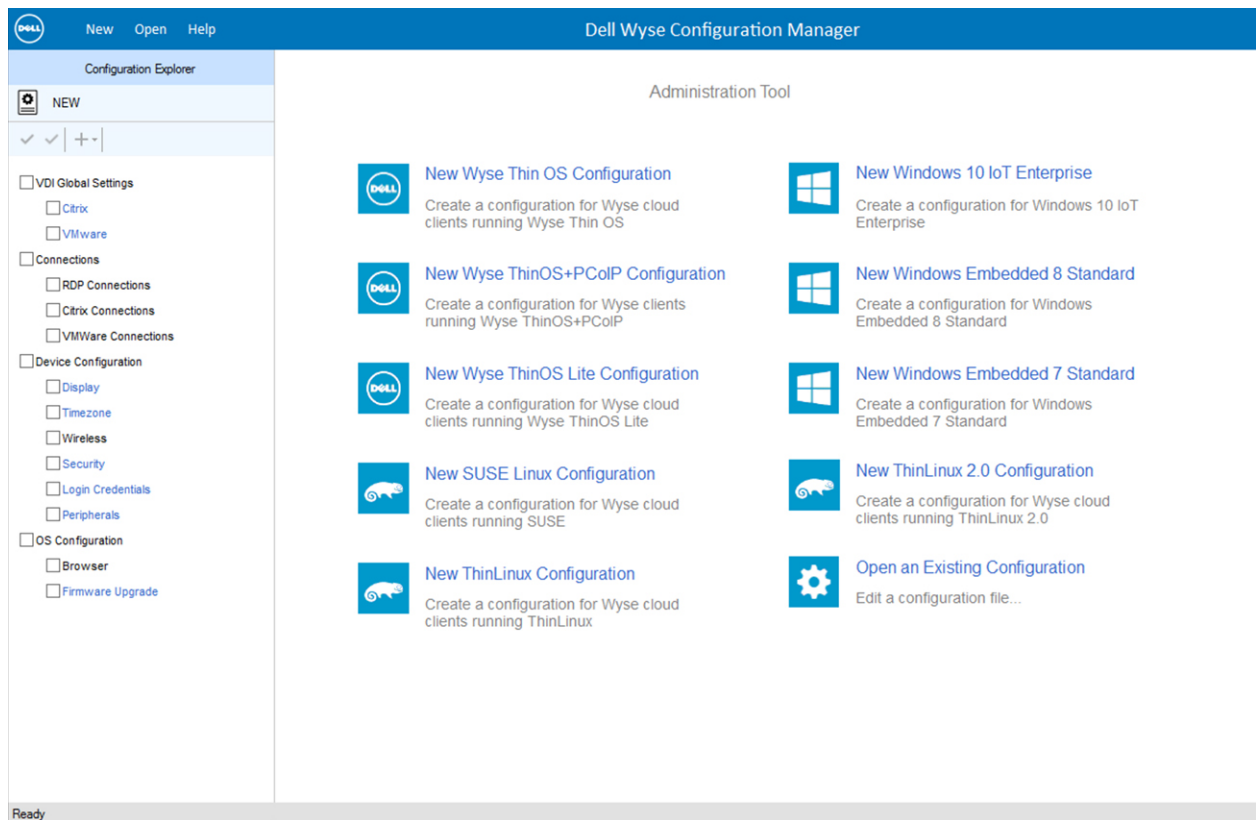


図 13. Device Configuration (デバイス設定)

- WCM アプリケーションを開始するには、**create package (パッケージの作成)** オプション、または **[+]** アイコンをクリックします。Wyse Configuration Manager アプリケーションのダウンロードと設定に関するオプションとともに、**Register Configuration (レジスタ設定)** ウィンドウが表示されます。

- b **Configure Wyse Configuration Manager** (Wyse Configuration Manager の設定) をクリックします。WCM ユーティリティファイルがダウンロードされます。
- c WCM ファイルを保存します。このファイルは **CustomProtocolforWCM.exe** としてダウンロードされます。
- d 管理者としてファイルを実行します。
- e **Create Package** (パッケージの作成) をクリックします。
Dell Wyse Configuration Manager ウィンドウが表示されます。
- f WCM アプリケーションの GUI で必要な構成を選択、更新することでデバイス設定を作成してから、その構成を保存します。**Device Configuration** (デバイス設定) ノードを選択すると、構成パッケージは WDM リポジトリに保存され、WDM コンソールの右側のペインに一覧表示されます。

WCM 構成の作成に関する詳細については、「*Dell Wyse Configuration Manager* 管理者ガイド」を参照してください。

- **Images** (イメージ) - イメージページを使用して、登録されているイメージパッケージのリストを表示します。それぞれのイメージパッケージの説明が、オペレーティングシステム、イメージタイプ、パッケージのサイズの詳細とともに表示されます。登録されているイメージパッケージとプルされたイメージパッケージが、イメージページに表示されます。

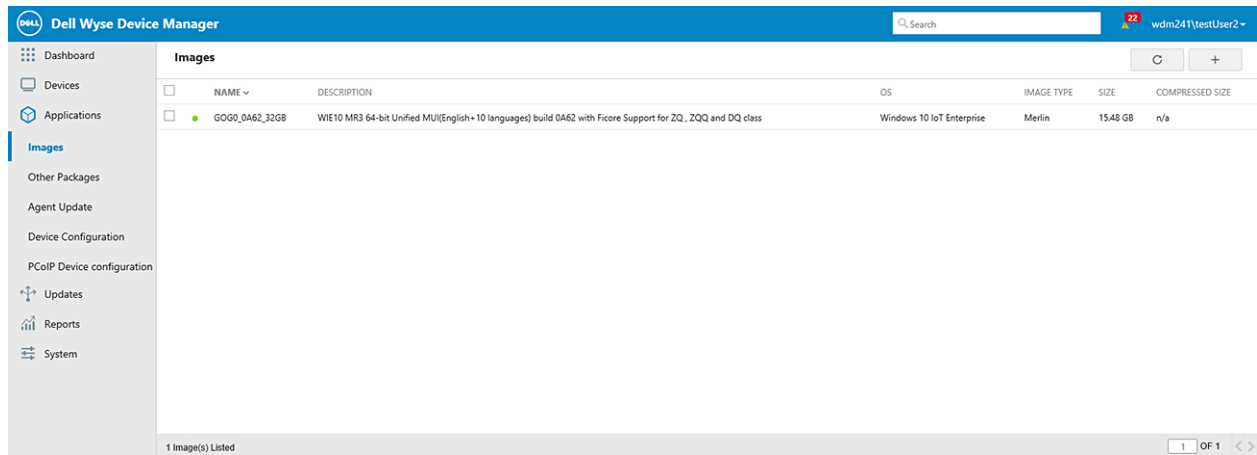


図 14. Images (イメージ)

表 6. Images (イメージ)

パラメータ	説明
Name (名前)	パッケージの名前を表示します。
Description (説明)	パッケージのバージョンを表示します。
Operating System (オペレーティングシステム)	登録済みパッケージのオペレーティングシステムを表示します。
Image Type (イメージタイプ)	パッケージのイメージのタイプを表示します。
Size (サイズ)	イメージのサイズを表示します。
Compressed Size (圧縮サイズ)	圧縮されたイメージのサイズを表示します。

- **Other Packages** (その他のパッケージ) - その他のパッケージページには、AgentUpgrade パッケージとその他のパッケージのリストが表示されます。各 AgentUpgrade パッケージとその他のパッケージの説明が、パッケージが登録されているオペレーティングシステムとともに表示されます。その他のパッケージカテゴリには、すべてのオペレーティングシステムのためのデフォルト Boot Agent アップグレードパッケージが含まれています。また、デフォルトの再起動、シャットダウン、Wake on LAN、ResetOSsetting パッケージも含まれています。

NAME	DESCRIPTION	OPERATING SYSTEM	CREATED AT
BootAgentUpgradeLinux	Boot Agent Upgrade for SLETC SPL/SP2 (3.3.9)	SUSE Linux	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeThinLinux	Boot Agent Upgrade for ThinLinux (3.3.9)	ThinLinux	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeWE8S	Boot Agent Upgrade for WE8S (Ver-3.3.9)	Windows Embedded 8 Standard 64	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeWE8Sx	Boot Agent Upgrade for WE8Sx (Ver-3.3.9)	Windows Embedded 8 Standard 32	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeWE7	Boot Agent Upgrade for WE7 (Ver-3.3.9)	Windows Embedded Standard 7	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeWE7P	Boot Agent Upgrade for WE7P (Ver-3.3.9)	Windows Embedded Standard 7 P	2016-07-31 12:00:00.200
BootAgentUpgradeWIE10	Boot Agent Upgrade for WIE10 (Ver-3.3.9)	Windows 10 IoT Enterprise	2016-07-31 12:00:00.200
PADService_SysprepScript_WE8S	PADService_SysprepScript_WE8S	Windows Embedded 8 Standard 64	2016-09-16 08:56:48.373
Reboot	Device Reboot	ALL	2011-12-19 12:50:16.970
ResetOSSettings	Resets OS configuration to factory default	ALL	2013-10-29 16:08:57.000
Shutdown	Device Shutdown	ALL	2011-12-19 12:50:17.093
WakeOnLAN	Device WOL	ALL	2011-12-19 12:50:17.017

図 15. Other Packages (その他のパッケージ)

- **BootAgentUpgradeLinux** - SUSE Linux Enterprise OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeThinLinux** - ThinLinux OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeThinLinux2** - ThinLinux 2.0 OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeWE8S** - Windows Embedded 8 Standard 64 ビット OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeWE8Sx** - Windows Embedded 8 Standard 32 ビット OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeWE7** - Windows Embedded Standard 7 OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeWE7P** - Windows Embedded Standard 7P OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **BootAgentUpgradeWIE10** - Windows 10 IoT Enterprise OS を実行しているデバイスの Boot Agent をアップグレードします。
- **Reboot** - デバイスにスケジュールされる時に、デバイスを再起動します。
- **ResetOSSettings** - デバイスの OS 設定を工場出荷時の設定にリセットします。
- **Shutdown** - デバイスにスケジュールされる時に、デバイスをシャットダウンします。
- **WakeOnLAN** - デバイスにスケジュールされる時に、デバイスに WOL コマンドを送信します。

表 7. Other Packages (その他のパッケージ)

パラメータ	説明
Name (名前)	パッケージの名前を表示します。
Description (説明)	パッケージの説明を表示します。
Operating System (オペレーティングシステム)	登録済みパッケージのオペレーティングシステムを表示します。
Created At (作成日時)	パッケージを作成した日付と時刻を表示します。

- **PCoIP Device Configuration** (PCoIP デバイス設定) - PCoIP デバイスの設定ページで、PCoIP デバイスパッケージのリストを表示します。それぞれの PCoIP デバイスパッケージの説明が、オペレーティングシステムとともに表示されます。登録済みの PCoIP 設定パッケージは、PCoIP デバイス設定の下に表示されます。

デフォルトの使用可能なパッケージは ThreadX 4.x ファームウェアにのみ適用可能です。

- ThreadX : パッケージは ThreadX 4.x ファームウェアに属しています。
- ThreadX_5x : パッケージは ThreadX 5.x ファームウェアに属しています。

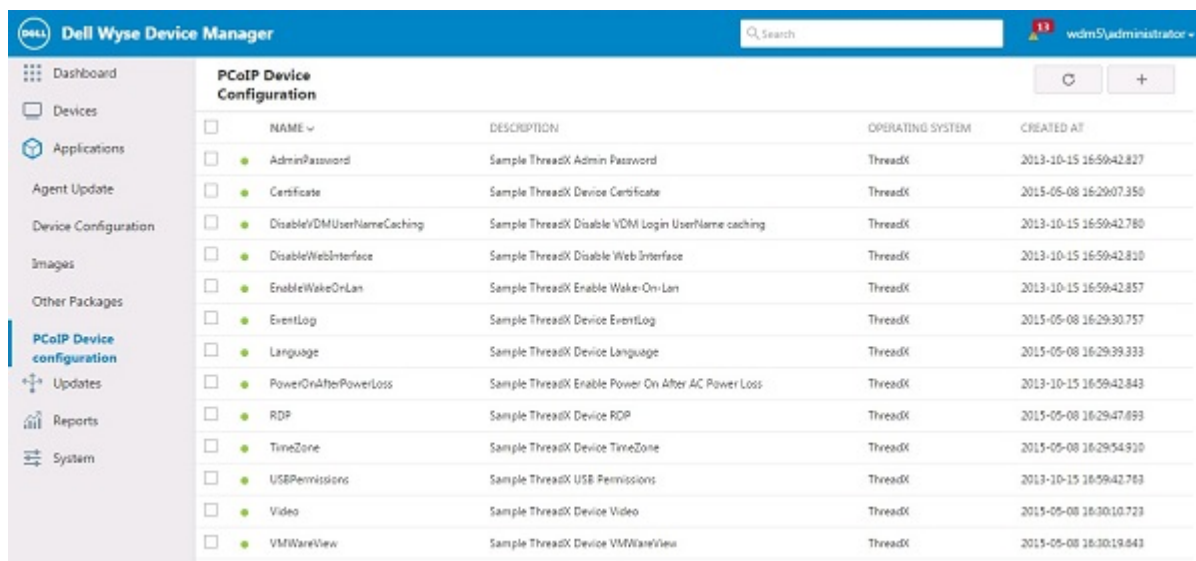


図 16. PCoIP デバイス設定

- **AdminPassword** — ThreadX デバイスの管理者パスワードを変更するためのサンプルパッケージです。
- **Certification** — ThreadX デバイスのデバイス認証を変更するためのサンプルパッケージです。
- **Disable VDMUserNameCaching** — ThreadX デバイスの VDM ログインユーザー名のキャッシングを無効にするためのサンプルパッケージです。
- **DisableWebInterface** — ThreadX デバイスの Web インタフェースを無効するためのサンプルパッケージです。
- **Enable WakeOnLan** — ThreadX デバイスの WakeOnLAN 機能を有効にするためのサンプルパッケージです。
- **EventLog** — ThreadX デバイスのイベントロギング用のサンプルパッケージです。
- **Language** — ThreadX デバイスの言語設定を変更するためのサンプルパッケージです。
- **PowerOnAfterPowerLoss** — ThreadX デバイスでの電力損失後の電源オンを有効にするためのサンプルパッケージです。
- **RDP** — ThreadX デバイスの RDP 設定を変更するためのサンプルパッケージです。
- **TimeZone** — ThreadX デバイスのタイムゾーン設定を変更するためのサンプルパッケージです。
- **USBPermissions** — ThreadX デバイスの USB アクセス許可を設定するためのサンプルパッケージです。
- **Video** - ThreadX デバイスのビデオ設定を変更するためのサンプルパッケージです。
- **Vmware View** - ThreadX デバイスの VMWare ビュー設定を変更するためのサンプルパッケージです。

表 8. PCoIP デバイス設定

パラメータ	説明
Name (名前)	パッケージの名前を表示します。
Description (説明)	パッケージのバージョンを表示します。
Operating System (オペレーティングシステム)	登録済みパッケージのオペレーティングシステムを表示します。
Created At (作成日時)	パッケージを作成した日付と時刻を表示します。

パッケージ / イメージを設定する一般的なオプション

- 1 一覧表示されたパッケージ / イメージのいずれかを選択します。
タスクを実行するためのオプションは、画面の右上隅にあります。

- a **Update** (アップデート) オプションをクリックして、選択したパッケージ/イメージをアップデートします。
- 1 アプリケーションリストから希望のパッケージを選択します。
 - 2 画面の上部に表示されるアップデートオプションをクリックします。
 - 3 **Select View** (ビューを選択) ドロップダウンリストから、希望するビューを選択します。
- ① | メモ:** パッケージ配布は、アプリケーションタブの大規模な導入プロセスです。個々のデバイスを選択してパッケージを導入することはできません。選択したパッケージが、選択したビュー全体に導入されます。
- 4 設定に基づきパッケージ配布をスケジュールします。以下の方法でパッケージを配布することができます。
- **One time distribution** (一括配布) オプションを選択する場合は、パッケージ配布の詳細を入力します。パッケージを配布したい場合は配布オプションを **Now** (今すぐ) として選択するか、**A specific date and time** (特定の日時) として配布オプションを選択してパッケージの配布の希望の日時を入力できます。**On/Off** (オン/オフ) オプションをクリックして、**Retry failed updates** (失敗したアップデートの再試行) オプションを有効または無効にします。
 - **Recurring distribution** (定期的な配布) オプションを選択する場合は、次のパッケージ配布の詳細を入力します。
 - 1 定期スケジューラの名前を入力します。
 - 2 **Recur** (繰り返し) ドロップダウンリストで、パッケージの配布日を選択します。
 - 3 パッケージ配布の開始日と終了日を入力します。
 - 4 パッケージ配布の継続期間を入力します。
- 5 画面の上部に表示される **Save** (保存) オプションをクリックして、変更を保存します。
- b **Disable Distribution** (配布の無効化) オプションをクリックして、パッケージの配布を無効にします。
- c **Package Script** (パッケージスクリプト) オプションをクリックして、選択したパッケージのスクリプトを表示、またはエクスポートします。
- 詳細については、「[登録済みパッケージのパッケージスクリプトのエクスポート](#)」と「[登録済みのパッケージのパッケージスクリプトの編集](#)」を参照してください。
- d **Refresh** (更新) オプションをクリックして、ページを更新します。
- e **Register Package** (パッケージの登録) オプションはパッケージの登録に使用されます。
- 1 **Register Package** (パッケージの登録) オプションをクリックして、パッケージ登録ユーティリティをダウンロードします。WDM パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスが表示されます。
 - 2 WDM サーバ、ユーザー名、およびパスワードフィールドに、WDM サーバアドレスと認証情報を入力します。
 - 3 **On/Off** (オン/オフ) オプションをクリックして、**Save credentials (encrypted)** (認証情報を保存 (暗号化)) オプションを有効または無効にします。
 - 4 パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスを使用して 2 種類のパッケージを登録することができます。
 - **Register RSP** (RSP の登録): .rsp パッケージを選択し、それを WDM サーバにアップロードすることができます。詳細については、「[スクリプトファイル \(.RSP\) からのパッケージの登録](#)」を参照してください。
 - **Register EXE** (EXE の登録): .exe、.msi、.msu、.bat ファイルを選択し、それを WDM サーバにアップロードすることができます。詳細については、「[パッケージを登録してファイルをインストールする](#)」を参照してください。(exe、msi、msu、bat ファイルのみ)
 - 5 **Upload** (アップロード) をクリックします。
- f (このオプションは、イメージにのみ適用されます) **Deploy via peers** (ピアによる導入) をクリックしてパッケージをデバイスに導入します。パッケージをデバイスに導入するには、以下のタスクを完了します。
- 1 ドロップダウンリストから、希望するプラットフォームを選択します。
 - 2 開始日、終了日、時刻 (hh:mm:ss 形式) を入力して導入予定を決めます。
 - 3 サブネット IP を入力して利用可能なサブネットから選択します。
- ① | メモ:** PAD スケジュールを作成するには、少なくとも 1 つのサブネットを選択する必要があります。
- 4 **Deploy** (導入) をクリックします。

トピック:

- [登録済みパッケージのパッケージスクリプトの編集](#)
- [登録済みパッケージのパッケージスクリプトのエクスポート](#)
- [スクリプトファイルからのパッケージの登録 \(.RSP\)](#)
- [パッケージの登録 \(exe、msi、msu、bat ファイルのみ\)](#)

登録済みパッケージのパッケージスクリプトの編集

ソフトウェアパッケージのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **パッケージスクリプト** オプションをクリックします。
パッケージスクリプトのウィンドウが表示されます。
- 2 **編集** オプションをクリックして、スクリプトを編集します。
- 3 **Save (保存)** をクリックします。

① | **メモ:** デフォルトパッケージのスクリプトを変更することはできません。これはカスタムパッケージに対してのみ有効です。

登録済みパッケージのパッケージスクリプトのエクスポート

登録済みソフトウェアパッケージのパッケージスクリプトをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **パッケージスクリプト** オプションをクリックします。パッケージスクリプトウィンドウが表示されます。
- 2 **エクスポート** オプションを選択し、パッケージスクリプトをエクスポートします。
- 3 スクリプトを保存するパスを参照し、**OK** ボタンをクリックして保存します。
- 4 確認ウィンドウが表示されます。**OK** をクリックして指定した場所にスクリプトを保存します。

スクリプトファイルからのパッケージの登録 (.RSP)

.rsp ソフトウェアパッケージを登録するには、次の手順を実行します。

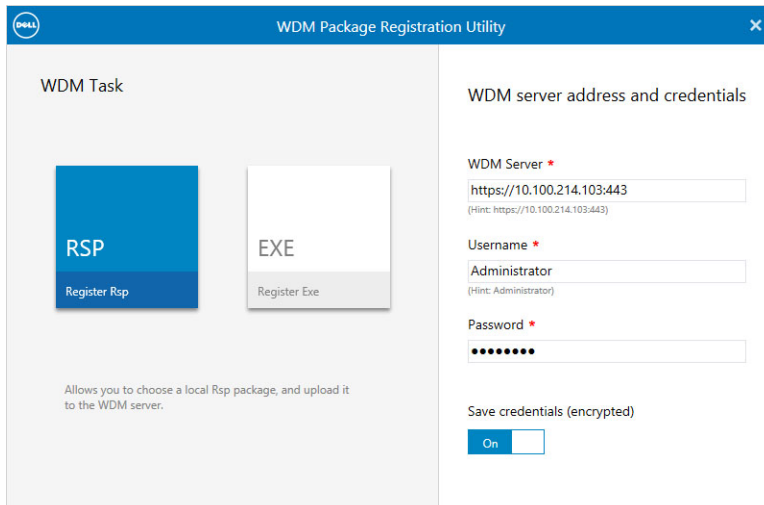
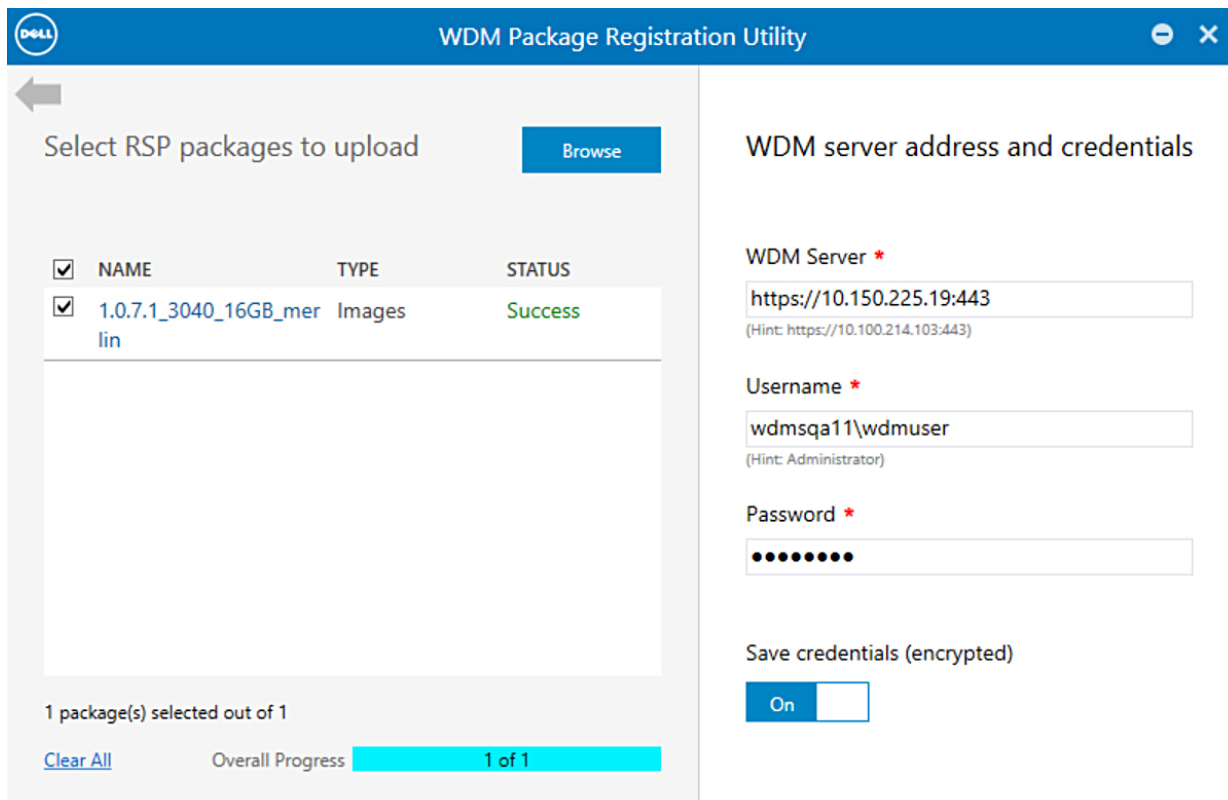


図 17. Rsp の登録



✓ Please use the Browse button above, and choose one or more Rsp files. A maximum of 20 packages can be registered at a time.

図 18. WDM パッケージ登録

- 1 パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスをダウンロードして開きます。
- 2 WDM パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスに表示される **RSP** タイルをクリックします。
- 3 アップロードする .rsp ファイルまたはパッケージへ移動します。最大 20 個のパッケージを一度にアップロードできます。RSP パッケージの次の詳細が表示されます。

- 名前
- タイプ
- 状態

パッケージ名の上にマウスを置くと、ツールチップが以下の情報とともに表示されます。

- パッケージパス
- OS (オペレーティングシステム)
- 説明
- イメージサイズ

- 4 **Upload** (アップロード) をクリックします。
アップロードが完了した後、ステータスが **Success** (完了) に変更されます。

パッケージの登録 (exe、msi、msu、bat ファイルのみ)

パッケージを登録するには、次の手順を実行します。

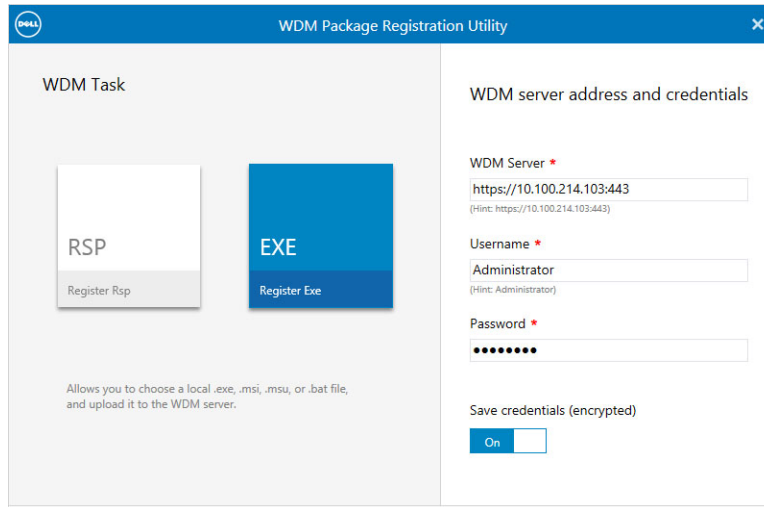


図 19. WDM パッケージ登録ユーティリティ

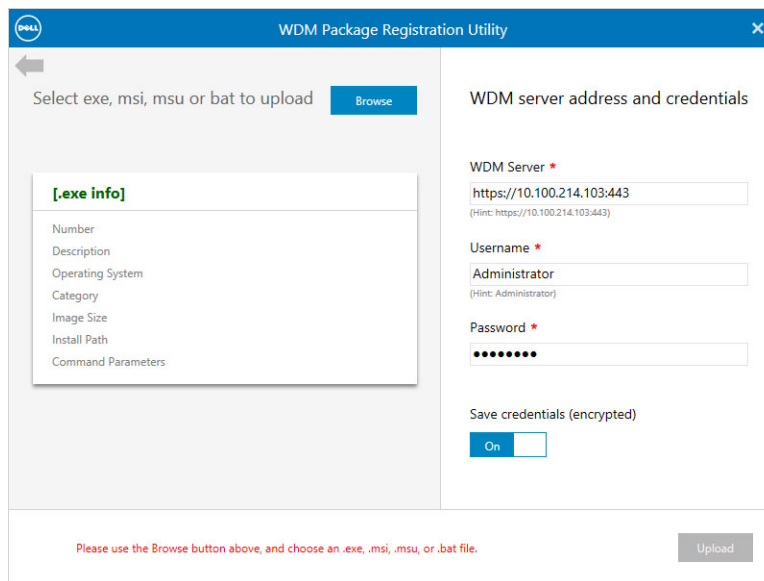


図 20. WDM パッケージ登録ユーティリティ

- 1 パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスをダウンロードして開きます。
- 2 WDM パッケージ登録ユーティリティのダイアログボックスに表示される **EXE** タイルをクリックします。
- 3 exe、msi、msu、bat ファイルのみ、またはパッケージを確認してアップロードします。
選択したパッケージの次の詳細が表示されます。
 - 名前
 - 説明
 - オペレーティングシステム
 - カテゴリ
 - イメージサイズ
 - インストールパス
 - コマンドパラメータ
- 4 オペレーティングシステムドロップダウンリストから、オペレーティングシステムを選択します。
- 5 有効なシンクライアントパスを入力して、表示されたフィールドにパッケージをインストールします。
- 6 表示されたフィールドにコマンドパラメータを入力します。

7 Upload (アップロード) をクリックします。

PCoIP デバイス設定

PCoIP device configuration (PCoIP デバイス設定) ページを使用して、新しい PCoIP デバイス設定パッケージを作成し導入します。

新しい PCoIP デバイス設定パッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1 **Register PCoIP Package** (PCoIP パッケージの登録) オプションをクリックして、PCoIP デバイス設定ユーティリティをダウンロードします。画面に次のメニューオプションが表示されます。

- ページの右上隅で、次の ThreadX バージョンのどちらか新しい PCoIP デバイス設定パッケージを作りたい方をクリックします。
 - Version 4.X (バージョン 4.X)
 - Version 5.X (バージョン 5.X)
- **Package Name** (パッケージ名) と **Description** (説明) フィールドにパッケージ名と詳細な説明を入力します。
- **System** (システム)

The screenshot displays the 'PCoIP Device Configuration' web application. At the top, there's a navigation bar with 'New', 'Register', and 'Help' buttons, and a user login status 'Logged On As: wdmisqa11\wdmuser'. Below this is a form for creating a package, with 'Package Name' set to 'TestPackage1' and 'Description' set to 'Package Description'. The 'Version' is set to 'Version 4.X'. Below the form are three tabs: 'System', 'Connections', and 'Security'. The 'System' tab is selected, showing several configuration panels:

- Time Zone:** Includes options for 'Disable NTP', 'Identify NTP Host by' (IP Address or FQDN), 'NTP Server', 'Port' (123), 'Query Interval' (24), 'Hours(s)', 'Enable Daylight', and 'Time Zone' (GMT-12:00 International Date Line West).
- Language for the Local GUI:** 'Language' is set to 'English' and 'Keyboard Layout' is 'Belgian ISO-8859-1'.
- Company Logo:** Includes a field for the logo file location and a checkbox for 'Use Logo for View Banner'.
- Video:** Includes a checkbox for 'Enable local cursor', 'Minimum Image Quality' (40), and 'Maximum Image Quality' (40).
- Power:** Includes 'Client Display Suspend Timeout' (0) and 'Osd Screen Saver Timeout' (0).
- RDP (Version 4.X only):** Includes 'Resolution' (Native Resolution), 'Bit depth' (16), and 'Port' (3389). There is also a checkbox for 'Reboot (Version 5.X only)'.

On the right side, there is a summary table of the current settings:

Video	
Enable local cursor	True
Maximum Image Quality	40
Minimum Image Quality	40
Time Zone	
Enable NTP	True
Port	123
NTP Server	255.255.255.255
NTP Server	255.255.255.255
Use FQDN	True
Use IP	False
Enable Daylight Saving TL...	False
Query Interval Units	Hour(s)
Query Interval	24
Time Zone	(GMT-12:00) Internati...
Company Logo	
Use Logo for Banner	False
Company Logo	
Language for the Local GUI	
Keyboard Layout	Belgian ISO-8859-1
Local GUI Language	English
RDP	
RDP Port	3389
Bit Depth	16
Resolution	Native Resolution
Power	
Screen Saver Timeout	0

図 21. システムバージョン 4.X

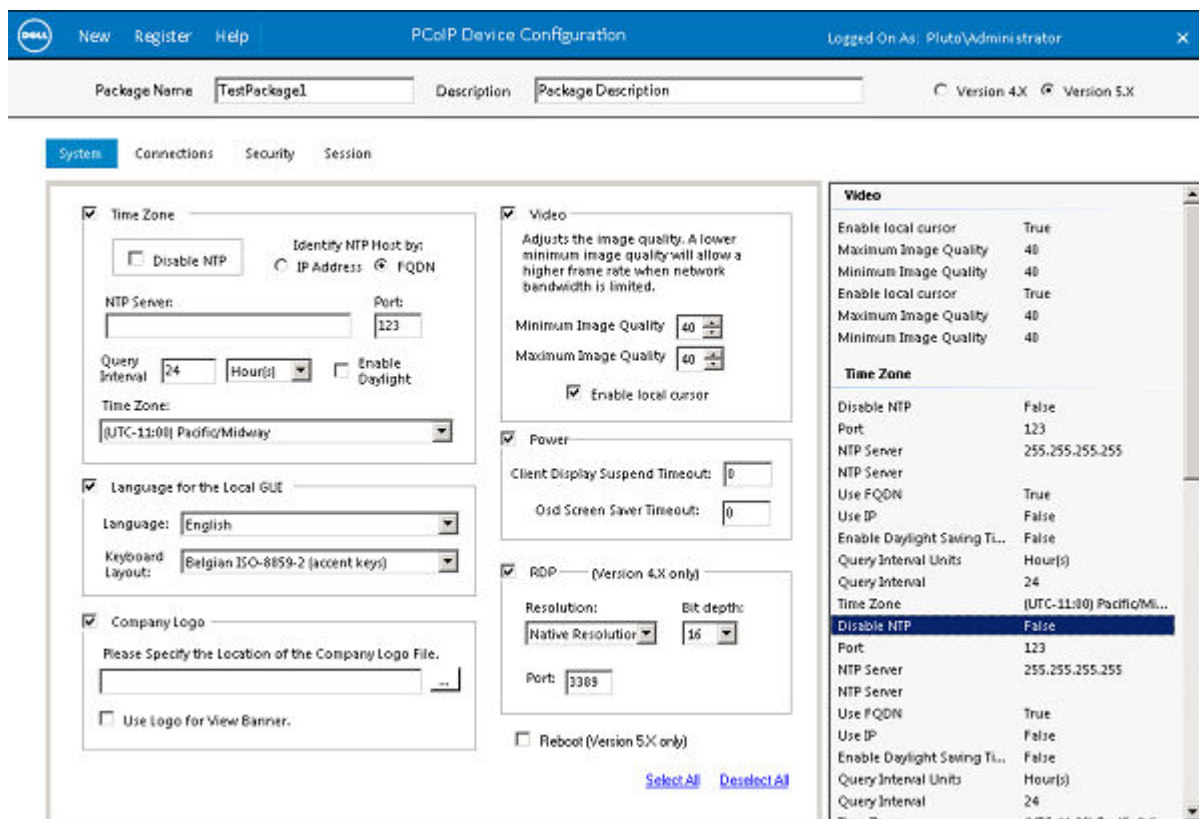


図 22. システムバージョン 5.X

表 9. System (システム)

<p>Time Zone Configuration (タイムゾーンの設定)</p>	<p>次の詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークタイムプロトコル (NTP) ホストを識別する時のモードを選択します。 NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 ポート番号とクエリ間隔を分単位で入力し、Enable Daylight Saving Time (サマータイムを有効にする) を選択します (選択しているタイムゾーンに適用される場合)。 ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。
<p>Language for the Local GUI (ローカル GUI 用の言語)</p>	<p>ローカライズされた GUI 用のローカル言語とキーボードの詳細を入力します。</p>
<p>Company Logo (会社のロゴ)</p>	<p>会社のロゴを追加するオプションを選択します。特定の場所に移動して、.BMP ファイルを選択します。</p> <p>会社のロゴは、64 ピクセルで 256 ピクセルを超えないように 24 bmp ビットマップである必要があります。</p>
<p>Video (ビデオ)</p>	<p>画質の最小値と最大値を指定します。ローカルカーソル機能を有効または無効にするには、このチェックボックスを選択します。</p>
<p>Power (電源)</p>	<p>オプションを選択して、クライアントディスプレイのサスペンドタイムアウトと Osd スクリーンセーバーのタイムアウトを設定します。</p> <p>時間の単位は秒単位にします。</p>

	この設定を有効にするには、タイムアウトの範囲を 10 ~ 14400 秒にし、無効にするには 0 を入力します。
RDP このオプションは ThreadX v4.X にのみ適用可能です。	RDP 接続の詳細を入力します。
Reboot (再起動) このオプションは ThreadX v5.X にのみ適用可能です。	Company Logo (会社のロゴ) チェックボックスと共にこのチェックボックスを選択します。すると、会社のロゴが含まれているパッケージを導入した後、ThreadX デバイスが再起動されます。

• **Connections (接続)**

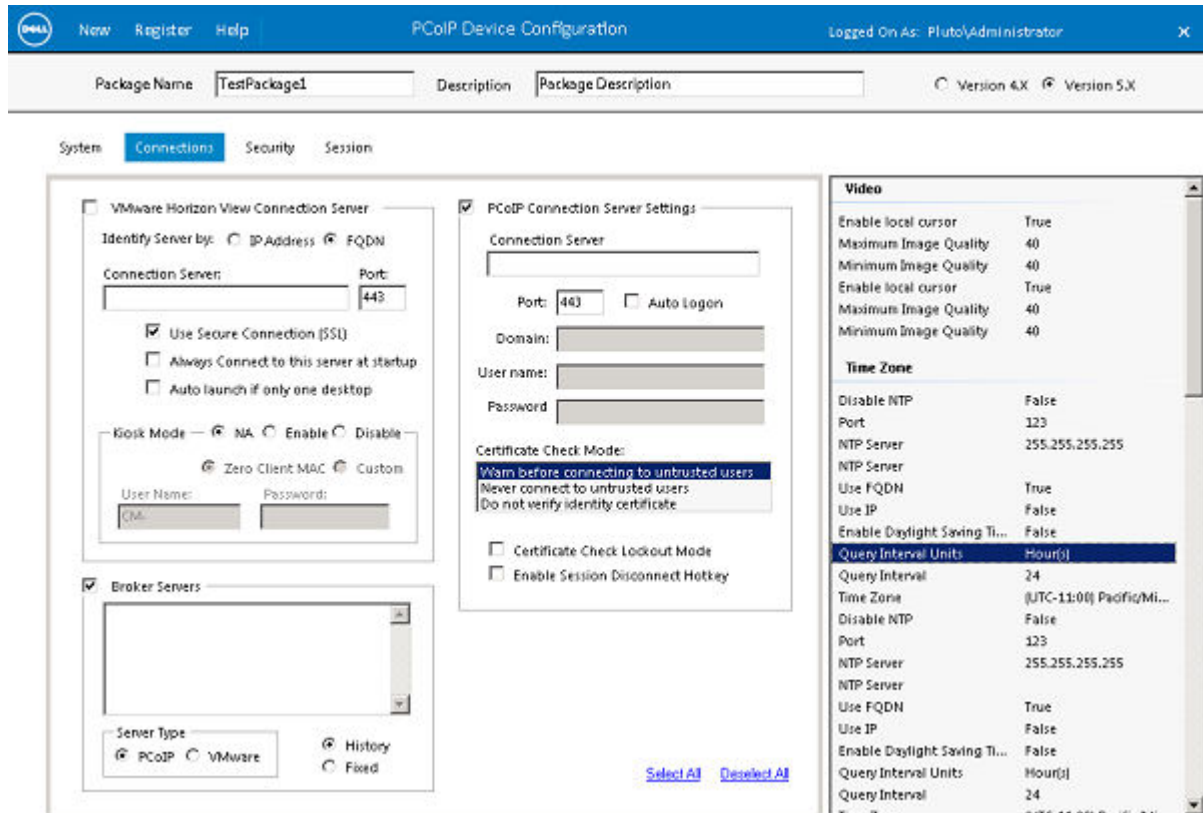


図 23. Connections (接続)

表 10. Connections (接続)

VMware Horizon View	<p>VMware Horizon View 接続サーバの次の詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 接続サーバを識別する時のモードを選択します。 – 接続サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 – 接続ポート番号を入力し、必要に応じて接続オプションを選択します。 – デバイスが Kiosk タイプ端末として機能する場合は、Kiosk Mode (Kiosk モード) をクリックします。
PCoIP 接続サーバの設定	<p>オプションを選択して次の詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – 接続サーバ – ポート番号

	<ul style="list-style-type: none"> - ドメイン - ユーザー名 - パスワード - 証明書チェックモード <p>要件に基づいて、次のチェックボックスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 証明書チェックのロックアウトモード - セッション切断ホットキーを有効にする
PCoIP または VMware	サーバの種類は、PCoIP または VMware を選択することができます。VMware と PCoIP の両方に最大 25 台のサーバを追加できます。

• Security (セキュリティ)

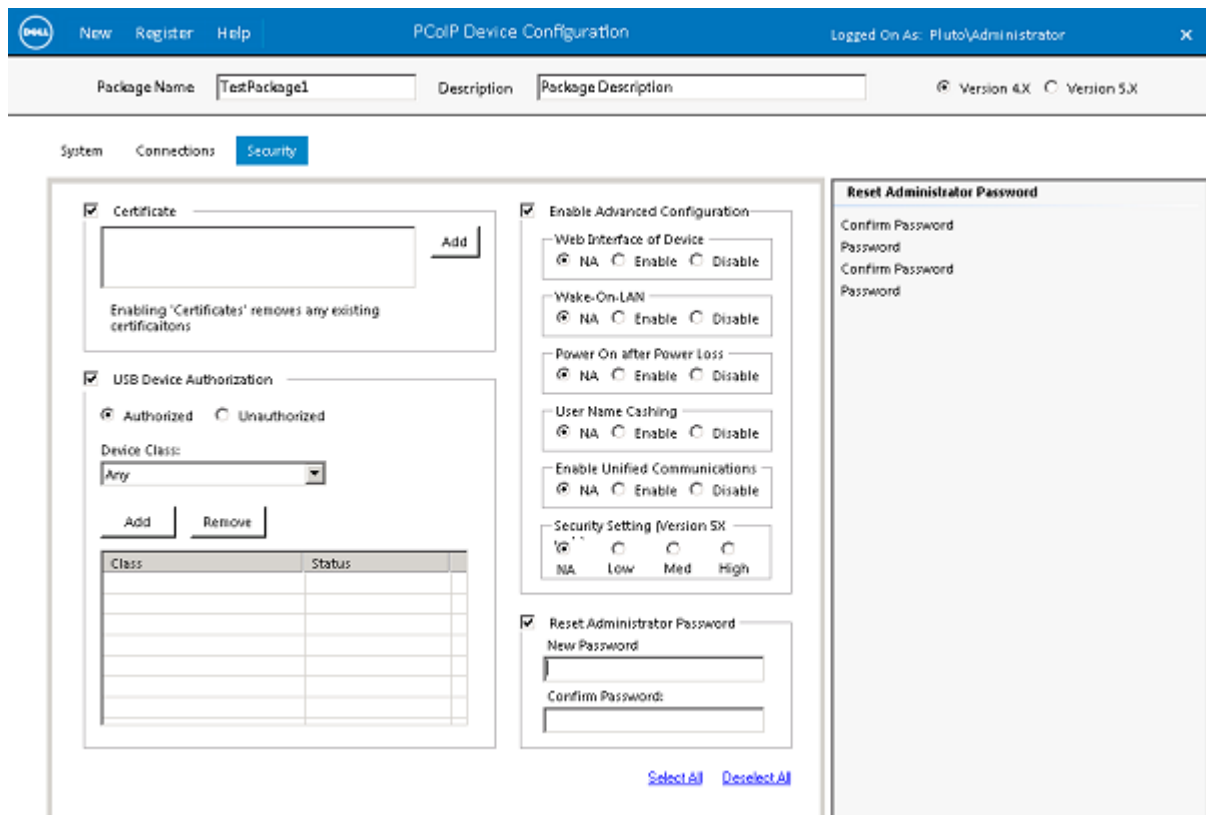


図 24. Security (セキュリティ)

表 11. Security (セキュリティ)

Certificate (証明書)	オプションを選択して証明書の内容を入力します。
USB Device Authorization (USB デバイス認証)	デバイス用の USB アクセス許可の詳細 (許可ありおよび許可なし) を入力します。
Enable Advanced Configuration (詳細設定を有効にする)	デバイスの Web インタフェース、Wake on LAN、電力損失後の電源オン、ユーザー名キャッシング、統合通信の有効化を有効にする場合に、オプションを選択します。

Reset Administrator Password (管理者パスワードのリセット)

デバイス管理者のパスワードをリセットする場合は、オプションを選択して新しいパスワードを入力します。

• Session (セッション) (バージョン 5.x)

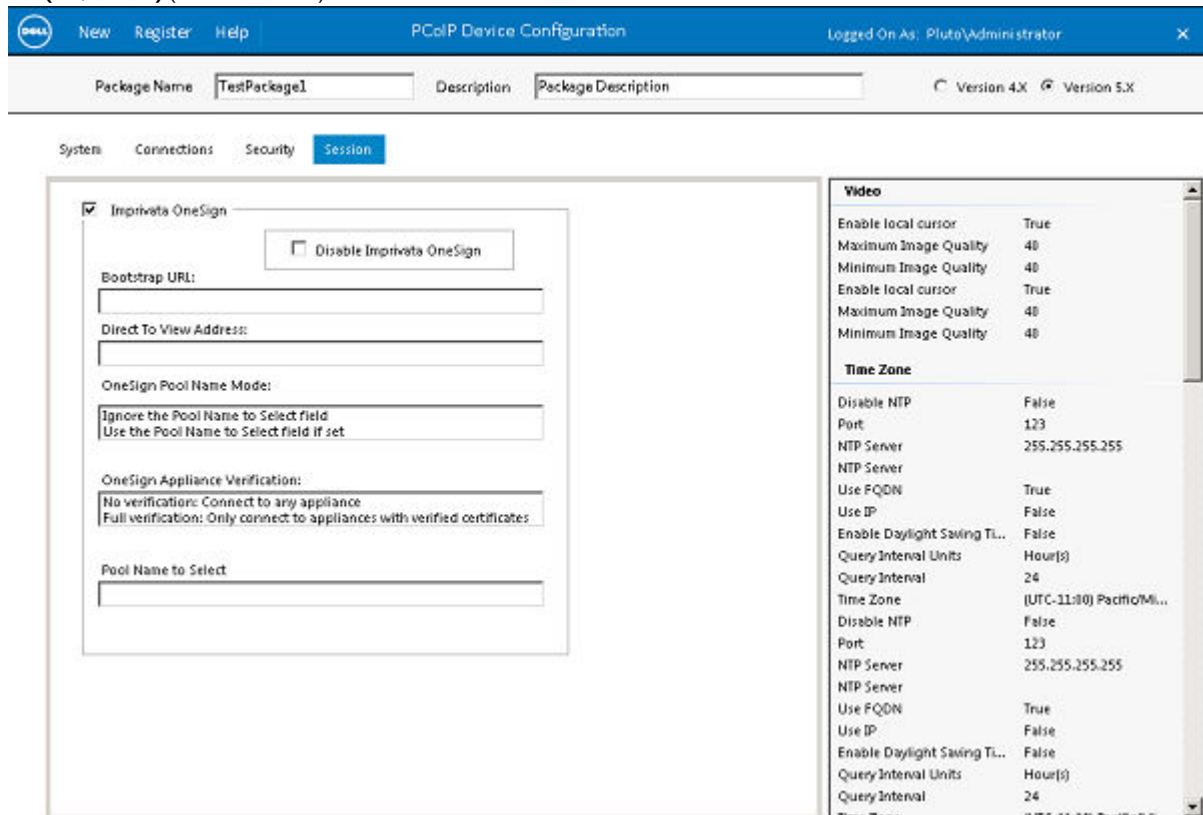


図 25. Session (セッション)

表 12. Session (セッション)

Imprivata OneSign	Imprivata OneSign を有効にするには、このオプションを選択します。
Disable Imprivata OneSign (Imprivata OneSign を無効にする)	Imprivata OneSign を無効にするには、このオプションを選択します。
Bootstrap URL (ブートストラップ URL)	表示されたフィールドにブートストラップ URL を入力します。
OneSign Pool Name Mode (OneSign プール名モード)	適切なオプションを選択します。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Ignore the Pool Name to Select field(選択するプール名フィールドを無視する) Use the Pool Name to Select field if set (設定されている場合は選択するプール名フィールドを使用する)
OneSign Applicable Verification (OneSign の適用可能な検証)	適切なオプションを選択します。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> No verification: Connect to any appliance (検証なし : すべてのアプライアンスに接続します) Full verification: Only connect to appliance with verified certificates (フル検証 : 検証済み証明書のあるアプライアンスにのみ接続します)

Pool Name to Select (選択するプール名)

表示されたフィールドにプール名を入力します。

- 2 **Register** (登録) タブをクリックして、現在の設定を保存しプロセスを終了します。
- 3 **New** (新規) タブをクリックして、新しい PCoIP デバイス設定パッケージを作成します。

① **メモ:** バージョン 4.X からバージョン 5.X への ThreadX デバイスのアップグレードに関する詳細については、「[WDM からの ThreadX 4.x デバイスの threadx 5 へのアップグレード](#)」を参照してください。

アップデート

アップデートページには、スケジュールされたジョブ、定期的なアップデート、リポジトリ同期ジョブ、ピアアシスト配信詳細の概要が記載されています。プロファイルと DDC を作成することもできます。

トピック：

- ジョブ
- 定期的なアップデート
- リアルタイムコマンド
- リポジトリの同期
- ピアアシスト配信
- プロファイル
- プロファイルマネージャ対応デバイスの識別
- プロファイルマネージャを使用した構成パッケージの導入
- PM 構成パッケージの削除

ジョブ

このパラメータを使用すると、デバイスまたはアプリケーションのページから、スケジュールエージェントの更新、イメージ、構成、またはその他のパッケージを表示することができます。スケジュール済みのジョブの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

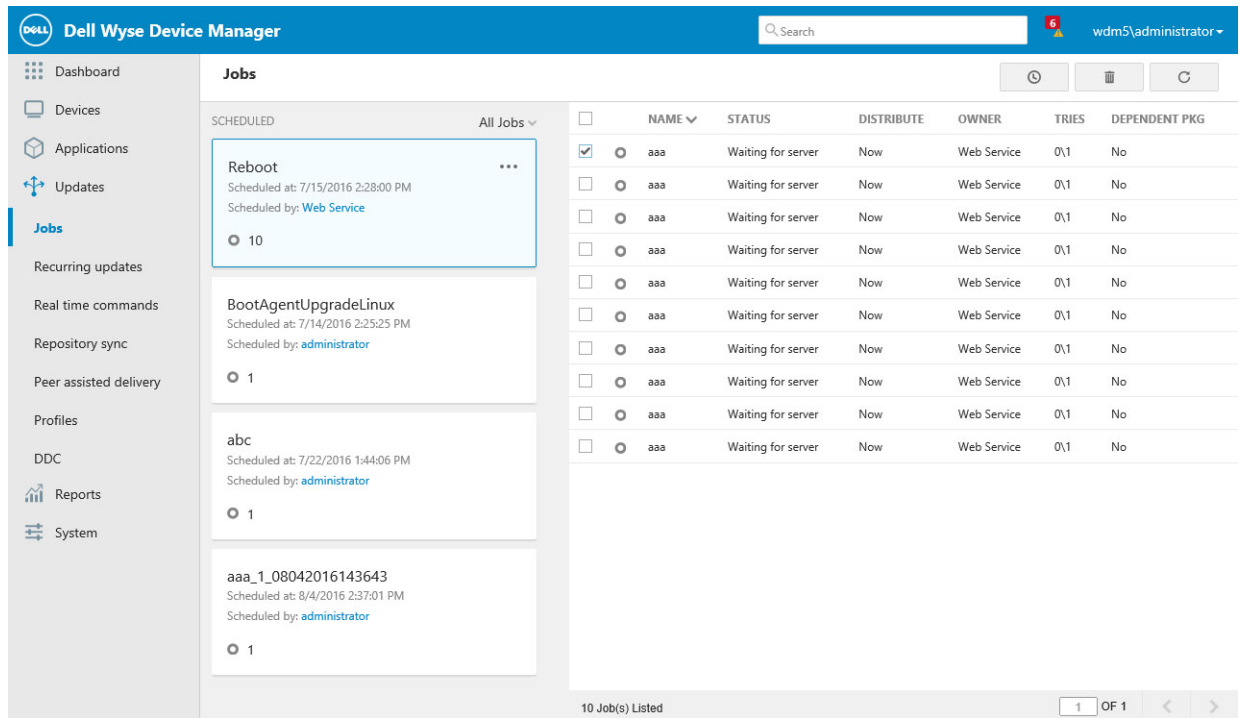


図 26. ジョブ

- すべてのジョブ — すべてのジョブを選択すると、すべてのユーザーのスケジュール済みジョブが一覧表示されます。
 - マイジョブ — マイジョブを選択すると、ログインしたユーザーのスケジュール済みジョブのみ一覧表示されます。
- 1 パッケージを配布したい場合は配布オプションを **Now**（今すぐ）として選択するか、**A specific date and time**（特定の日時）として配布オプションを選択してパッケージの配布の希望の日時を入力して、ジョブを再スケジュールします。**On/Off**（オン/オフ）オプションをクリックして、**Retry failed updates**（失敗したアップデートの再試行）オプションを有効または無効にします。
 - 2 **Reschedule**（再スケジュール）をクリックします。
 - 3 **Delete**（削除）をクリックして、ジョブを削除します。

定期的なアップデート

このパラメータは、デバイスまたはアプリケーションページからの定期的なアップデートとして、エージェントアップデートのスケジュール、イメージ、設定、その他のパッケージを表示するのに便利です。

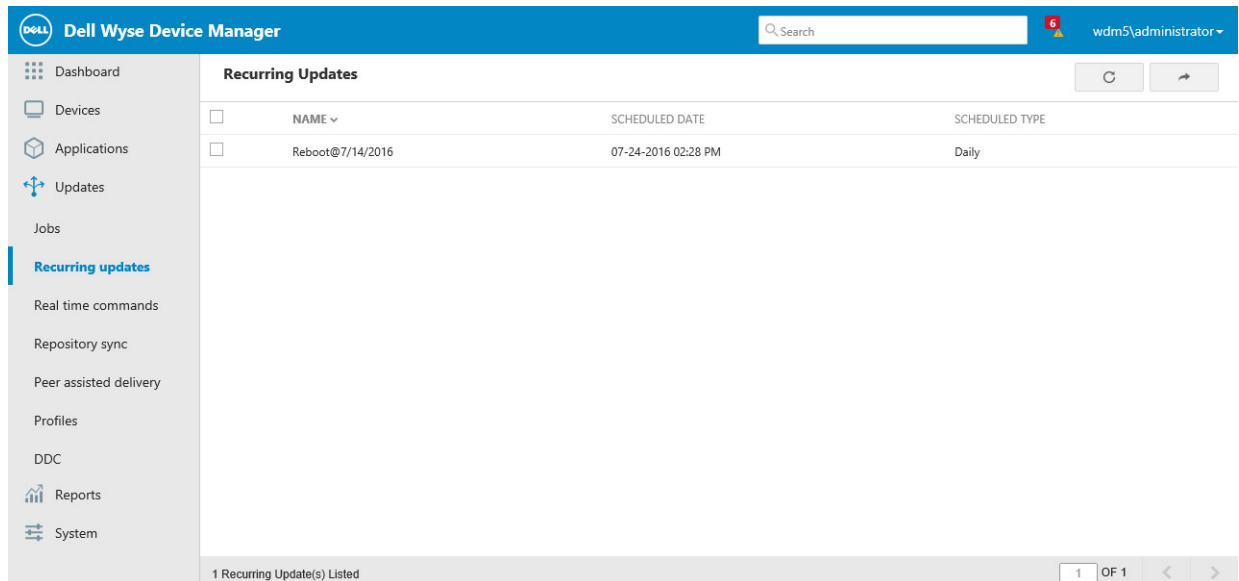


図 27. 定期的なアップデート

- 1 **Refresh** (更新) オプションをクリックして、ページを更新します。
- 2 **Reschedule** (再スケジュール) オプションをクリックして、パッケージの配布を再スケジュールします。
 - a 次のパッケージ配布の詳細を入力します。
 - 1 定期的なアップデートの名前。
 - 2 **Recur** (繰り返し) ドロップダウンリストで、パッケージの配布日を選択します。
 - 3 パッケージ配布の開始日と終了日を入力します。
 - 4 パッケージ配布の継続期間を入力します。
 - 5 **Reschedule** (再スケジュール) をクリックします。
- 3 **Delete** (削除) オプションをクリックして、ジョブを削除します。
- 4 **Export** (エクスポート) オプションをクリックして、デバイスを .csv または .txt (タブ区切り) 形式でエクスポートします。

リアルタイムコマンド

このカテゴリでは、デバイスにスケジュールされているリアルタイムコマンドの詳細を表示することができます。次の操作を実行することができます。

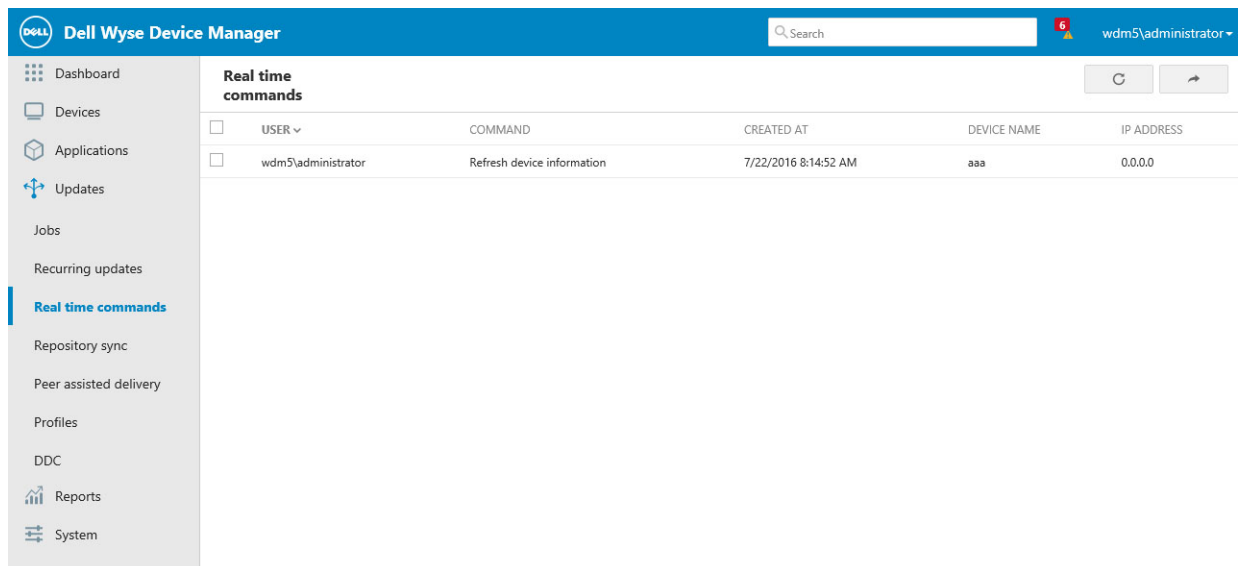


図 28. リアルタイムコマンド

- 1 **Refresh** (更新) オプションをクリックして、ページを更新します。
- 2 **Delete** (削除) オプションをクリックして、コマンドを削除します。
- 3 **Export** (エクスポート) オプションをクリックして、デバイスを .csv または .txt (タブ区切り) 形式でエクスポートします。

リポジトリの同期

このカテゴリでは、作成されたリモートリポジトリにスケジュールされているリモート同期ジョブを表示できます。

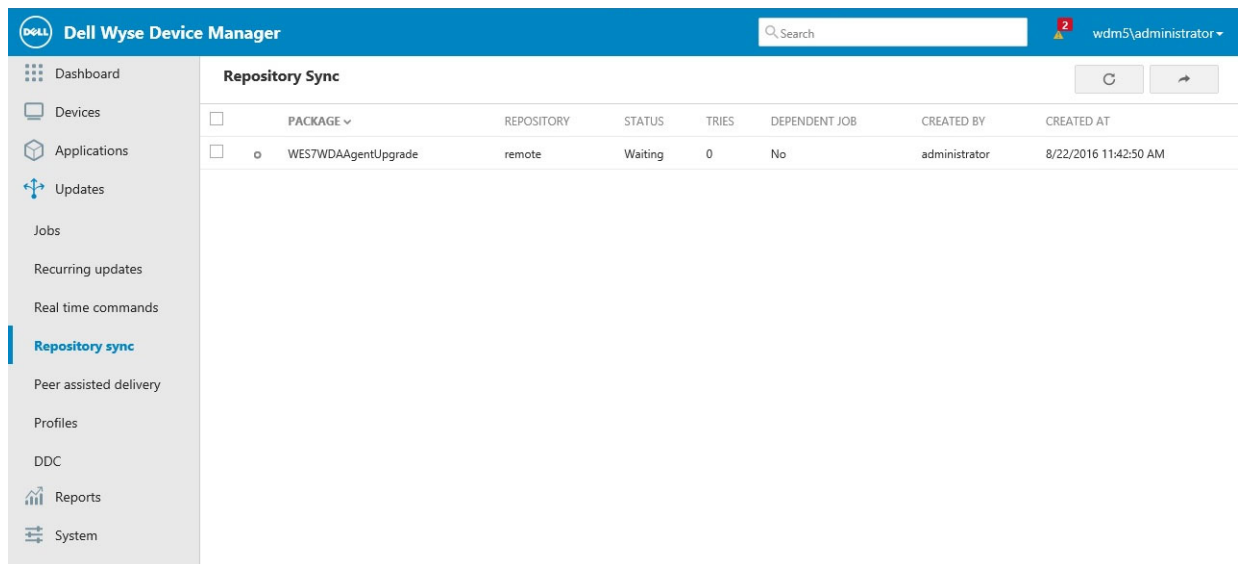


図 29. リポジトリの同期

ピアアシスト配信

このカテゴリでは、サブネットのピアアシスト導入スケジュールの詳細を説明します。ピアアシスト配信の詳細については、「[ピアアシストの導入](#)」と「[PAD の設定](#)」を参照してください。

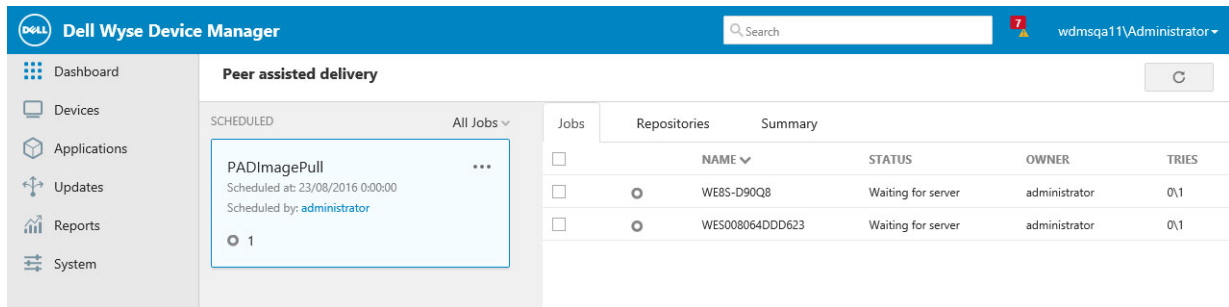


図 30. ピアアシスト配信

プロファイル

Profiles (プロファイル) ページでは、指定したデバイスのグループに定義済みの設定を導入できます。Dell Wyse Configuration Manager (WCM) を使用して設定を作成し、指定されたリポジトリに保存することができます。リポジトリとは、設定が保存されているシステムのことです。シンクライアントデバイスは、HTTP (S)、FTP、または CIFS を介してこれらのリポジトリに接続し、設定をダウンロードします。詳細については、Dell Wyse サポートサイトにある『Dell Wyse Configuration Manager 管理者ガイド』を参照してください。プロファイルはオペレーティングシステムに固有のものであり、いつでもデバイスの1つのグループに1つの設定のみ適用できます。

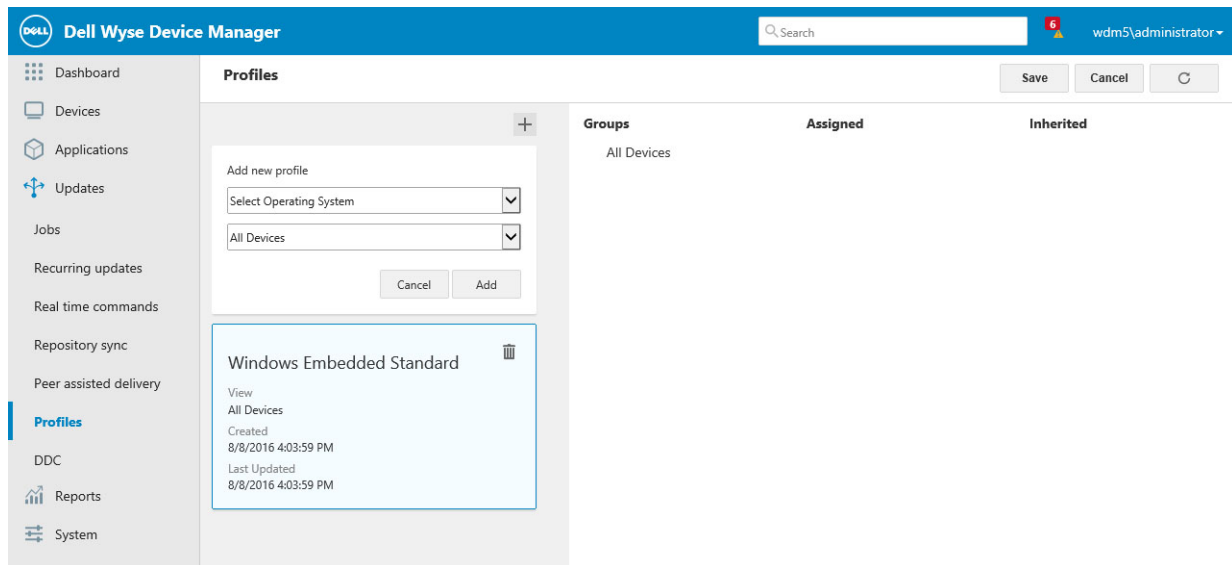


図 31. プロファイル

このパラメータは、新しいプロファイルの追加に便利で、**Groups** (グループ)、**Assigned** (割り当て)、**Inherited** (継承) のような詳細を提供します。

新しいプロファイルを追加するには、次のタスクを完了します。

- 1 **Select Operating System** (オペレーティングシステムの選択) ドロップダウンリストから、目的のオペレーティングシステムを選択します。
- 2 ドロップダウンリストから、特定のプロファイル用に導入される優先ビューを選択します。
- 3 **Add** (追加) をクリックして、グループに新しいプロファイルを含めます。

PM 対応デバイス、構成パッケージの導入、プロファイル構成パッケージの削除に関する詳細は、「PM 対応デバイスの識別」、「プロファイルマネージャを使用した構成パッケージの導入」、「デバイス設定パッケージの作成」、「システムでのプロファイルマネージャの有効化」、「PM 構成パッケージの削除」を参照してください。

プロファイルマネージャ対応デバイスの識別

- 1 **Device** (デバイス) ページでデバイスを選択します。
- 2 詳細の表示オプションをクリックし、機能セクションを確認します。
- 3 機能セクションで WCM サポートを検索します。
- 4 次の条件にある場合、デバイスはプロファイルマネージャに対応します。
 - 緑色：デバイスはプロファイルマネージャ対応です。
 - 赤色：デバイスはプロファイルマネージャ対応ではありません。
- 5 デバイスをプロファイルマネージャ対応にするには、WDM に使用可能な最新の WDA エージェントを導入します。

① **メモ:** HAgent 対応デバイスの場合、WCM クライアントパッケージを登録して、HAgent を持つデバイスに転送します。

これらのデバイスが WDM サーバにチェックインすると、WCMSUPP タグで送信される値に基づいて Hserver サービスがこれらのデバイスを認識します。

プロファイルマネージャを使用した構成パッケージの導入

プロファイルマネージャを使用して構成パッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM Web UI で、**Updates (更新) > Profiles (プロファイル)** をクリックします。
Profiles (プロファイル) ページが表示されます。
- 2 **Select Operating System** (オペレーティングシステムの選択) ドロップダウンリストから、希望のオペレーティングシステムを選択します。
ドロップダウンボックスには、構成パッケージを作成していないオペレーティングシステムのみが表示されます。オペレーティングシステムごとに、作成できるプロファイルは1つだけです。リーフ構成は親に優先しますが、WTOS は例外です。
- 3 ドロップダウンリストから、特定のプロファイルを導入する必要がある優先ビューを選択します。
- 4 **Add** (追加) をクリックして、グループに新しいプロファイルを含めます。
- 5 **Assigned** (割り当て済み) ドロップダウンリストから WCM 構成を選択します。
このリストには、WCM アプリケーションを使用して選択したオペレーティングシステム用に作成された構成パッケージがすべて表示されます。
- 6 **Save** (保存) をクリックします。

クライアント上の既存の構成から変更があると必ず、PM はクライアントがチェックインしたらすぐにアップデートされた構成を適用します。**Update Now** (今すぐアップデート) ウィンドウがクライアントに表示され、**OK** をクリックすると、更新された設定が適用されます。

① **メモ:** XML 設定と JSON 設定の違いに注意してください。

表 13. XML 設定と JSON 設定の違い

XML 設定	JSON 設定
MMC UI からのみ作成できます。	Web UI と MMC UI から作成することができます。
Windows OS 用のみ作成できます。	Windows、WTOS、Linux OS 用に作成することができます。
HAgent のあるデバイスにのみ導入できます。	WDA のあるデバイスに導入できます。
Web UI では割り当てられたドロップダウンリストには表示されません。	

PM 構成パッケージの削除

構成パッケージを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM Web UI で、**アップデート > プロファイル** をクリックします。
既存のプロファイルがページに一覧表示されます。
- 2 プロファイルを選択して、**削除** アイコンをクリックします。

削除操作を続行するか、またはキャンセルするかプロンプトが表示されます。

3 **削除**をクリックして、構成パッケージを削除します。

① **メモ:** いつでも特定のオペレーティングシステムに対して1つのプロファイルのみ作成できます。同じオペレーティングシステムに別のプロファイルを作成する場合は、既存のパッケージを削除して、新規に作成する必要があります。

デフォルトのデバイス設定 - DDC

WDM では、DDC を簡単に作成して管理できます。DDC を使用して、イメージや複数のソフトウェアパッケージ、あるいはその両方を、デバイスに適用することができます。DDC により、DDC が割り当てられたグループのすべてのデバイスが、同一のイメージや設定を持つことになります。

このパラメータは、新しいデフォルトのデバイス設定 (DDC) の追加と、**Groups** (グループ)、**Image** (イメージ)、**Packages** (パッケージ)、**Execute DDC** (DDC の実行) などの詳細の提供に便利です。

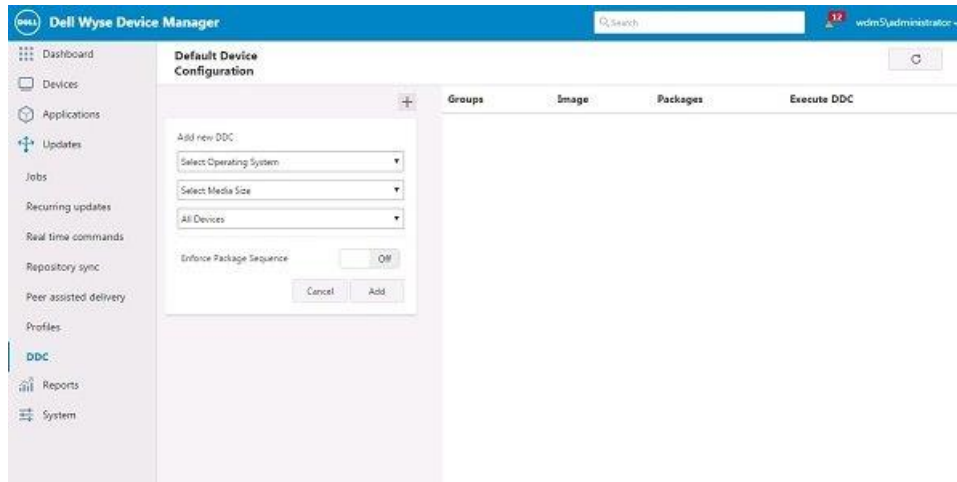


図 32. DDC

新しい DDC を追加するには、次のタスクを完了します。

- 1 **Select Operating System** (オペレーティングシステムの選択) ドロップダウンリストから、目的のオペレーティングシステムを選択します。
- 2 **Select Media Size** (メディアサイズの選択) ドロップダウンリストから、メディアサイズを選択します。
- 3 ドロップダウンリストから、特定のプロファイル用に導入される優先ビューを選択します。
- 4 **On/Off** (オン/オフ) オプションをクリックして、**Enforce Sequence** (実行シーケンス) オプションを有効または無効にします。DDC の一部であるパッケージをデバイスに対して許可される唯一のパッケージにする (他のパッケージはデバイスに送信できません) かどうかによって、実行シーケンスを選択またはクリアします。

① メモ: 実行シーケンスを選択すると、DDC プロセス外のデバイスに送信またはスケジュールされているすべてのパッケージに干渉する場合があります。

- 5 **Add** (追加) をクリックして、グループに新しい DDC を含めます。
- 6 イメージのドロップダウンリストからイメージを選択します。

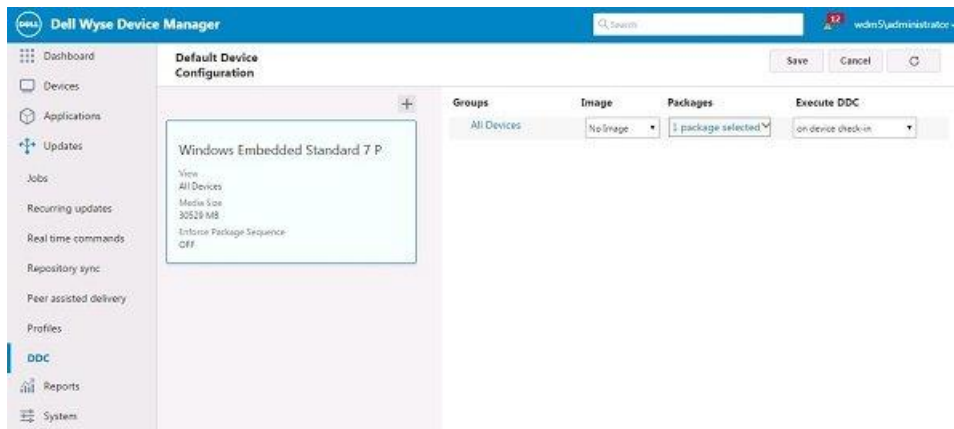


図 33. DDC

- 7 パッケージドロップダウンリストからソフトウェアパッケージを選択します。
- 8 DDC の実行をデバイスのチェックインまたは毎日特定の時刻のいずれかで指定します。
- 9 **Save** (保存) をクリックします。

Web UI では、ログレポートを毎日、週ごと、月ごとに生成できます。生成されたレポートは表示、編集、保存できます。

トピック：

- ログレポートの作成
- アプリケーションレポートの作成
- リモートセッションレポートの作成

ログレポートの作成

ログレポートには、WDM コンポーネントに関連する WDM サーバでのイベントまたはアクティビティに関する重要な情報が記載されています。これにより必要なものを必要なときに簡単に参照できます。レポートを作成すると、WDM がレポートタブにレポートを自動的に保存するため、いつでも必要なときに再利用できます。いったんレポートを作成したら同じレポートを作成する必要はありません。レポートを表示するたびに、レポートで設定した基準に応じて最新情報が表示されます。

① **メモ:** レポートは静的ではありません。情報が変更された場合（たとえば、新しい装置が検出された場合、または新しくログされた情報が生成された場合）、レポートに新しい情報が表示されます（レポートの基準に適合すると仮定します）。

次のガイドラインを使用して、ログレポートを作成、表示、保存します。

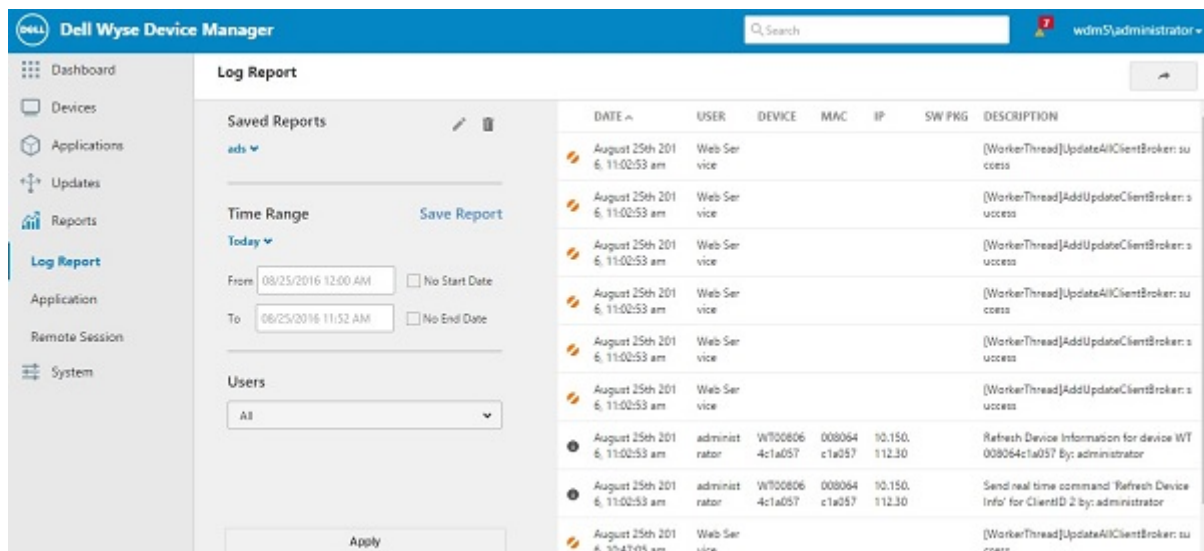


図 34. ログレポート

- 1 **レポート (Reports) > ログレポート (Log Report)** をクリックします。
- 2 対象範囲を選択し、アクティビティをログレポートに含めるユーザー数を選択します。レポートを特定のユーザーのアクティビティに制限したい場合は下のユーザーを選択し、すべてのユーザーのアクティビティを表示したい場合は、ドロップダウンリストの **All (すべて)** を選択します。
- 3 **Apply (適用)** をクリックします。
ログレポートはコンパイルされると、そのページの右ペインに表示されます。
- 4 レポートを保存するには、**Time Range (時間範囲)** エリアの **Save Report (レポートの保存)** リンクをクリックします。

- 5 **Save Report** (レポートの保存) ダイアログボックスにレポート名を入力し、**Save** (保存) をクリックします。

保存されたレポートは、**Saved Reports** (保存済みレポート) ドロップダウンリストにリストされます。

- ① **メモ:** ログレポートを .txt ファイルまたは .csv ファイルとして保存するには、ページの右上隅にある **Export** (エクスポート) アイコンをクリックし、好みに応じて .csv または .txt (tab delimited) (.txt (タブ区切り)) のいずれかを選択します。今後レポートを使用するには、**Saved Reports** (保存済みレポート) からレポートを選択します。保存済みレポートは必要に応じて編集したり削除したりできます。

アプリケーションレポートの作成

これによりユーザーは、特定のソフトウェアがインストールされユーザーが選択したバージョンを持つデバイスをリストアップするためのレポートを作成できます。

- 1 **Reports** (レポート) > **Application** (アプリケーション) をクリックします。
Application Report (アプリケーションレポート) ページが表示されます。

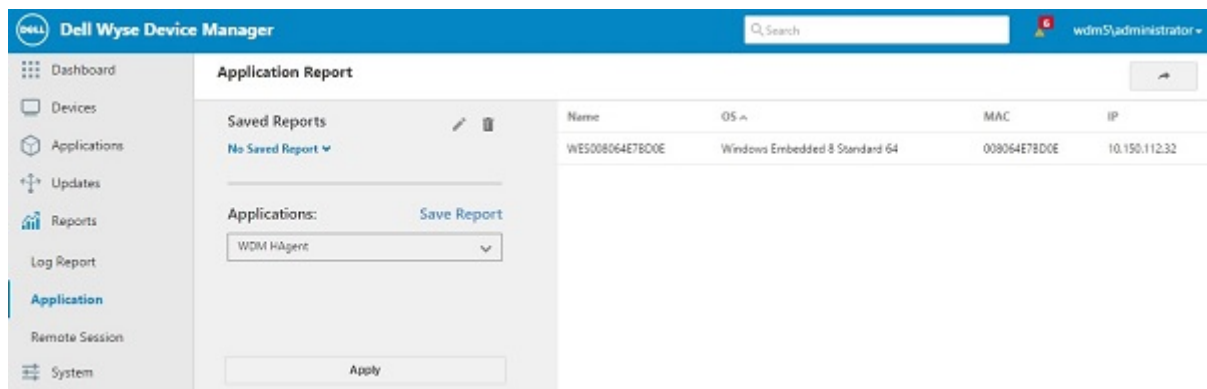


図 35. アプリケーションレポート

- 2 **Applications** (アプリケーション) ドロップダウンリストから、レポートを表示するアプリケーションを選択し、**Apply** (適用) をクリックします。
アプリケーションレポートはコンパイルされると、そのページの右ペインに表示されます。
- 3 レポートを保存するには、**Applications** (アプリケーション) エリアの **Save Report** (レポートの保存) リンクをクリックします。
- 4 **Save Report** (レポートの保存) ダイアログボックスにレポート名を入力し、**Save** (保存) をクリックします。
保存されたレポートは、**Saved Reports** (保存済みレポート) ドロップダウンリストにリストされます。

- ① **メモ:** アプリケーションレポートを .txt ファイルまたは .csv ファイルとして保存するには、ページ右上隅にある **Export** (エクスポート) アイコンをクリックし、好みに応じて .csv または .txt (tab delimited) (.txt (タブ区切り)) のいずれかを選択します。今後レポートを使用するには、**Saved Reports** (保存済みレポート) からレポートを選択します。保存済みレポートは必要に応じて編集したり削除したりできます。

リモートセッションレポートの作成

リモートセッションレポートは、レポートの生成時に定義されたフィルタ基準に基づいて、WDM 内のすべてのデバイスの接続情報をレポートします。どのユーザーがどれくらいの時間、どの種類のブローカー接続に接続されているかを確認することができます。レポートは作成後に、ページの右側のペインに表示されます。このレポートをエクスポートして、後で使用することができます。

次のガイドラインを使用して、リモートセッションレポートを作成、表示、保存します。

- 1 **Reports** (レポート) > **Remote Session** (リモートセッション) をクリックします。
Remote Session Report (リモートセッションレポート) ページが表示されます。

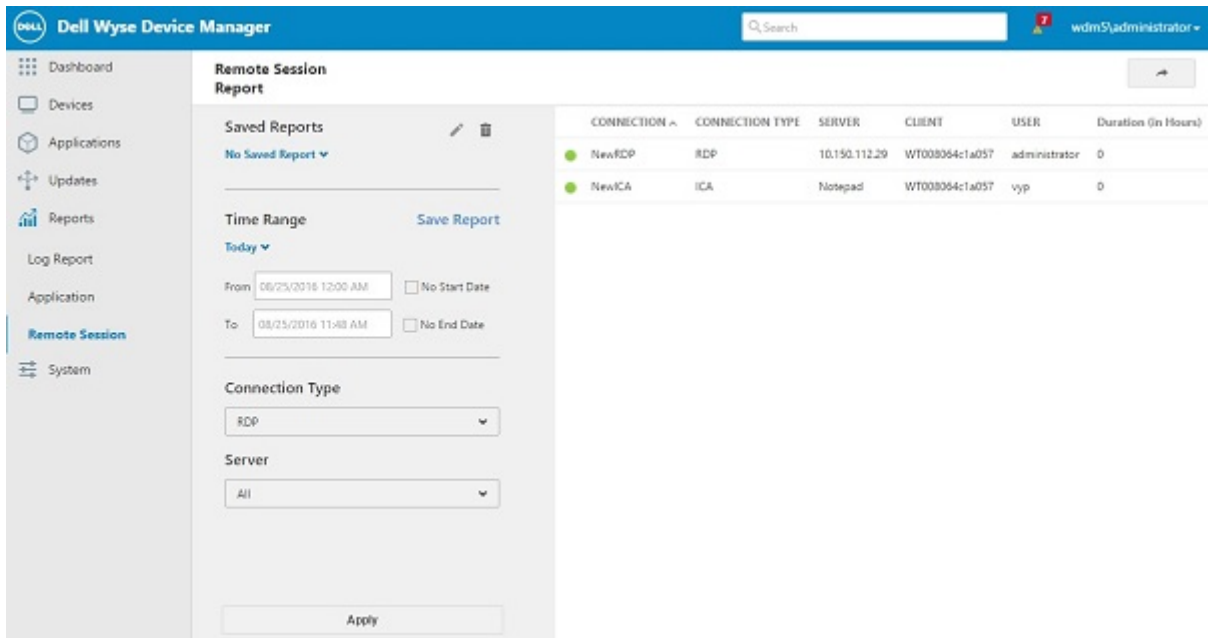


図 36. リモートセッション

- 2 **Time Range** (時間範囲) ドロップダウンリストから、レポートを生成する時間範囲または期間を選択します。レポートは、今日、前日、過去 7 日間、過去 30 日間、またはすべての期間で生成できます。時間範囲を指定するには、**Custom** (カスタム) をクリックし、開始日と終了日を指定します。
 - 3 次の検索基準に基づいてレポートを生成できます。
 - **Connection Type** (接続タイプ) ドロップダウンリストから、希望の接続タイプを選択します。
 - **Server** (サーバ) ドロップダウンリストから、希望のサーバ名または IP を選択します。
 - 4 **Apply** (適用) をクリックします。
アプリケーションレポートはコンパイルされると、そのページの右ペインに表示されます。
 - 5 レポートを保存するには、**Time Range** (時間範囲) エリアの **Save Report** (レポートの保存) リンクをクリックします。
 - 6 **Save Report** (レポートの保存) ダイアログボックスにレポート名を入力し、**Save** (保存) をクリックします。
保存されたレポートは、**Saved Reports** (保存済みレポート) ドロップダウンリストにリストされます。
- ① **メモ:** リモートセッションレポートを .txt ファイルまたは .csv ファイルとして保存するには、ページの右上隅にある **Export** (エクスポート) アイコンをクリックして、.csv または .txt (tab delimited) (.txt (タブ区切り)) から必要に応じて選択します。今後レポートを使用するには、**Saved Reports** (保存済みレポート) からレポートを選択します。保存済みレポートは必要に応じて編集したり削除したりできます。

システム

Web UI の **System** (システム) ページで、次のオプションを設定できます。

- **Subnets** (サブネット): このページは、システムブロードキャスト IP、アクティブ IP、サブネットマスク、説明の表示に便利です。サブネットは、デバイスが WDM サーバにチェックインするときに自動作成されます。サブネットを手動で設定することもできます。サブネットを手動で設定するには、「[サブネットの手動設定](#)」を参照してください。
- **Repositories** (リポジトリ): このページには、マスターリポジトリとリモートリポジトリの詳細が表示されます。リモートリポジトリを作成するには、「[リモートリポジトリの登録](#)」を参照してください。
- **Accounts** (アカウント): このページはユーザーの詳細の表示に便利です。次のタスクを実行することもできます。
 - [Active Directory](#) からのユーザーおよびグループの追加。
 - ローカルコンピュータアカウントからのユーザーの追加。
 - ユーザー権限の編集。
 - ユーザの削除。
- **Console** (コンソール): **Console** (コンソール) ページは次の詳細の表示に便利です。
 - デバイスのヘルスステータス
 - カスタムグループのフォルダ
 - リモートセッション
 - デフォルトのデバイス設定 (DDC)
 - プロファイルマネージャ
 - 管理サーバの別名

詳細については、「[コンソール](#)」を参照してください。

- **Device Discovery** (デバイスの検出): 管理サーバへの最初のチェックイン後のエージェントの検出動作と DHCP の検出詳細を表示するのに便利です。詳細については、「[デバイス検出の設定](#)」を参照してください。
- **Services** (サービス): TFTP サーバと Wake on LAN の詳細の表示に便利です。詳細に関しては、「[サービスについて](#)」を参照してください。
- **Logging** (ロギング): このパラメータを使用すると、さまざまな WDM コンポーネントのロギングレベルを設定できます。ロギングレベルを高くすると、データベースにより多くのデータが保存されます。このため、サーバの速度が低下する可能性があります。詳細については、「[ロギングレベルの設定](#)」を参照してください。
- **Scheduling** (スケジューリング): 最大同時アップデート、アップデートのスケジュールのタイムゾーン、失敗したアップデートの再スケジュールの最大再試行回数、リモートソフトウェアリポジトリの自動同期などの詳細の表示に便利です。詳細については、「[スケジューリング](#)」を参照してください。
- **Peer Assisted Deployment** (ピアアシスト導入): ピアアシスト導入ページは以下の実行に便利です。
 - [PAD の前提条件](#)。
 - [PAD の設定](#)。
- **Wyse ThinOS**: このパラメータは、WTOS INI ルートパスおよびチェックインパスの表示に便利です。詳細については、「[Wyse ThinOS](#)」を参照してください。

トピック:

- [サブネットの手動設定](#)
- [リモートリポジトリの登録](#)

- ローカルコンピュータアカウントからのユーザーの追加
- ドメインコントローラとグローバルカタログからのユーザーとグループの追加
- ユーザー権限の編集
- ユーザーの削除
- コンソール
- デバイス検出の設定
- サービスについて
- ログインレベルの設定
- スケジューリング
- ピアアシスト導入
- Wyse ThinOS

サブネットの手動設定

WDM があれば、サブネットを手動で追加して設定することができます。

Dell Wyse Device Manager Search wdm5administrator

Dashboard Devices Applications Updates Reports System **Subnets** Repositories Accounts Console Device Discovery Services Logging Scheduling Peer Assisted Deployment Wyse ThinOS

Subnets [Refresh] [Save] [Cancel] [Filter]

<input type="checkbox"/>	BROADCAST IP	ACTIVE IP	SUBNET MASK	DESCRIPTION
<input type="checkbox"/>	10.150.112.255	10.150.112.12	255.255.255.0	

1 Subnet(s) Listed 1 OF 1

Add subnet

Broadcast address

Manually Create

Active IP address

Subnet mask

Software repository MASTER FTP HTTPS CIFS [Edit](#)

Default groups [Edit](#)

Contiguous bits

If your network uses Classless Inter-Domain Routing or supernetting, type the number of contiguous bits to configure your subnet mask.

Description

Override global preferences

For WDM Enterprise Edition customers if you want to override the global preferences for this subnet

On

Maximum Simultaneous Updates

The maximum number of device updates you can perform at the same time in subnet

[Reset](#)

Wake on LAN time out

Dell Wyse Device Manager Search wdm5administrator

Dashboard Devices Applications Updates Reports System **Subnets** Repositories Accounts Console Device Discovery Services Logging Scheduling Peer Assisted Deployment Wyse ThinOS

Subnets [Refresh] [Save] [Cancel] [Filter]

<input type="checkbox"/>	BROADCAST IP	ACTIVE IP	SUBNET MASK	DESCRIPTION
<input type="checkbox"/>	10.150.112.255	10.150.112.12	255.255.255.0	

1 Subnet(s) Listed 1 OF 1

If your network uses Classless Inter-Domain Routing or supernetting, type the number of contiguous bits to configure your subnet mask.

Description

Override global preferences

For WDM Enterprise Edition customers if you want to override the global preferences for this subnet

On

Maximum Simultaneous Updates

The maximum number of device updates you can perform at the same time in subnet

[Reset](#)

Wake on LAN time out

The length of time WDM attempts to wake a device on the subnet before stopping

[Reset](#)

Network Card Speed

This field is valid only in case of Merlin. It defines the network card speed.

Auto 100M-H 100M-F

[Reset](#)

[Hide advance settings](#)

図 37. サブネットの追加

サブネットを追加し設定するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**System** (システム) を展開し、**Subnet** (サブネット) オプションをクリックします。
- 2 **Add subnet** (サブネットの追加) オプションをクリックします。
- 3 次のタスクのうちのいずれかを完了します。
 - サブネットのブロードキャストアドレスを手動で入力する場合は、**Manually create** (手動で作成) を選択し、**Broadcast Address** (ブロードキャストアドレス) を入力します。
 - サブネットのブロードキャストアドレスを手動で入力しない場合は、**IP Address** (IP アドレス) (サブネットからの有効な IP アドレスを入力)、**Subnet Mask** (サブネットマスク) (サブネット用のサブネットマスクを入力)、**Contiguous Bits** (連続ビット) (ネットワークで Classless Inter-Domain Routing またはスーパーネットティングを使用する場合は、連続ビットの数を入力してサブネットマスクを設定します) を入力します。
- 4 **Description** (説明) を入力して、WDM データベースのサブネットを識別します。
- 5 次のタスクのうちのいずれかを完了します。
 - このサブネットのグローバルプリファレンスを上書きしたくない場合は、**OK** をクリックします。
 - (**WDM Enterprise Edition のみ**) このサブネットのグローバルプリファレンスを上書きする場合は、**Override Global Preferences** (グローバルプリファレンスの上書き) を選択し、次のガイドラインを使用してサブネットプリファレンスを完了し、**OK** をクリックします。
 - **Maximum Simultaneous Updates** (最大同時アップデート): サブネットで同時に実行できるデバイスアップデートの最大数です。
 - **Wake On LAN Time Out (Secs.)** (Wake on LAN のタイムアウト (秒)): 停止する前に WDM がサブネット上のデバイスの起動を試行する時間の長さです。
 - **Network Card Speed** (ネットワークカードの速度) - このフィールドは、Merlin の場合にのみ有効です。ネットワークカードの速度を定義します。設定可能な値は、自動、100M-F、100M-H です。

サブネットとそのプリファレンスについての情報は現在 WDM データベースに保存され、WDM はサブネット上のデバイスを検出することができます。

① | **メモ:** サブネットは、指定された連続ビットと一致している必要があります

リモートリポジトリの登録

WDM Enterprise Edition ではネットワーク上に複数のリポジトリをインストールできます。リモートリポジトリは、ソフトウェアのアップデートをローカルに保存して、各リポジトリと同じサブネットに存在しているデバイスに配布しているため、ネットワーク回線容量の節約に役立ちます。

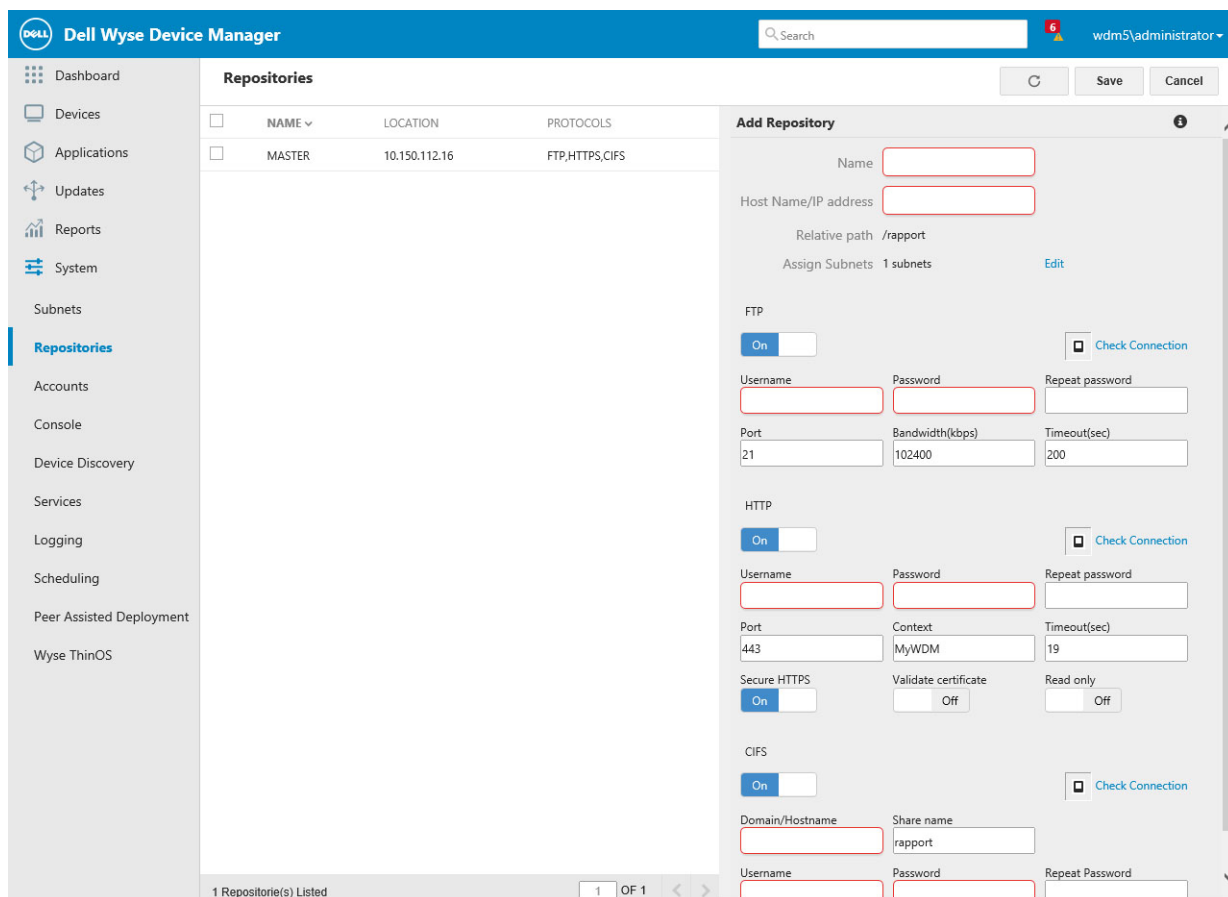


図 38. リモートリポジトリの登録

リモートリポジトリを登録する前に、次の点を設定する必要があります。

- WDM は必ず最初のリポジトリを **マスター** に指定します。インストールした追加のリモートリポジトリにはマスター以外を指定できます。
- 複数のリモートリポジトリをインストールしない場合、WDM はすべてのサブネットに対してマスターリポジトリを使用します。
- WDM コンポーネントを別々に導入した場合は、他の WDM コンポーネントをインストールしたのと同じサブネット上のマシンに、マスターリポジトリをインストールすることをお勧めします。

登録を行う前に、以下が正常にインストールされていることを確認します。

- ネットワーク上の WDM Enterprise Edition。
- すべてのリモートリポジトリ (接続できるように) 。

リモートリポジトリを登録するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**System** (システム) を展開します。
- 2 **Repositories** (リポジトリ) オプションをクリックします。新しいリポジトリを設定するには、**Add Repository** (リポジトリの追加) オプションをクリックし次のガイドラインを使用して設定を完了します。
 - **リポジトリ情報領域** :
 - **Name** (名前) - ソフトウェアリポジトリを識別するための名前を提供します。
 - **Host Name/ IP address** (ホスト名 /IP アドレス) - リポジトリを設定するサーバの **Host Name** (ホスト名) または **IP address**(IP アドレス) を提供します。
 - **Relative Path** (相対パス) - WDM ソフトウェアリポジトリのルートパスを提供します。

- **Assign Subnets** (サブネットの割り当て) - サブネットをリポジトリに割り当てることができます。
 - **FTP 領域 :**
 - **Username** (ユーザー名) - FTP リポジトリにアクセスするためのユーザー名です。
 - **Password** (パスワード) - FTP リポジトリにアクセスするためのパスワードです。
 - **Repeat Password** (確認用パスワード) - パスワードの確認のため FTP リポジトリにアクセスするためのパスワードを再度入力します。
 - **Bandwidth** (帯域幅) - ソフトウェアリポジトリ間のデータ転送に使用する帯域幅の量 (Kbps 単位) です。
 - **Timeout (sec)** (タイムアウト (秒)) - 各セッションの接続を開いたままにしておく時間 (秒単位) です。
 - **HTTP 領域 :**
 - **Username** (ユーザー名) - HTTP リポジトリにアクセスするためのユーザー名です。
 - **Password** (パスワード) - HTTP リポジトリにアクセスするためのパスワードです。
 - **Repeat Password** (確認用パスワード) - パスワードの確認のため HTTP リポジトリにアクセスするためのパスワードを再度入力します。
 - **Port Number** (ポート番号) - HTTP 通信用のポート番号を表示します。HTTP のデフォルトのポート番号は 80 で、HTTPS の場合は 443 です。
 - **Context** (コンテキスト) - HTTP 通信のための仮想ディレクトリパスを表示します。
 - **Timeout (sec)** (タイムアウト (秒)) - 各セッションの接続を開いたままにしておく時間 (秒単位) です。
 - **Secure HTTPS** (セキュア HTTPS) - チェックしている場合、リポジトリ用の HTTP 通信がセキュアになります。
 - **Validate Certificat** (証明書の検証) - チェックしている場合、HTTPS 通信用の証明書検証が有効になります。
 - **Read Only** (読み取り専用) - チェックしている場合、リポジトリは読み取り専用です。
 - **CIFS 領域 :**
 - **Domain/Host Name** (ドメイン/ホスト名) - リポジトリサーバのドメインまたはホスト名を付けます。
 - **Share Name** (共有名) - パッケージを導入する必要のある場所から共有フォルダの名前を付けます。
 - **Username** (ユーザー名) - 共有フォルダへのアクセス権を持つユーザーの名前を付けます。
 - **Password** (パスワード) - 共有フォルダへのアクセス権を持つ CIFS ユーザーのパスワードです。
 - **Repeat Password** (確認用パスワード) - 共有フォルダへのアクセス権を持つ CIFS ユーザーのパスワードを確認します。
- 3 **Save** (保存) をクリックします。

① **メモ:** WDM は、正しくセットアップされていることを確認するために追加したリモートリポジトリへの接続をテストします。Check Connection (接続の確認) をクリックすると、いつでもリモートリポジトリへの接続をテストすることができます。

これで新しいリモートリポジトリが正常にセットアップされ、WDM データベースに登録されました。今すぐリモートリポジトリをサブネットに割り当てることができます。

① **メモ:** WDM は、マスターリポジトリに登録するすべてのパッケージを保存します。ローカルリポジトリにアクセスできるサブネット上のデバイスの更新を実行するたびに、リモートリポジトリを同期できます。

ローカルコンピュータアカウントからのユーザーの追加

ローカルコンピュータのアカウントから WDM ユーザーを追加できます。

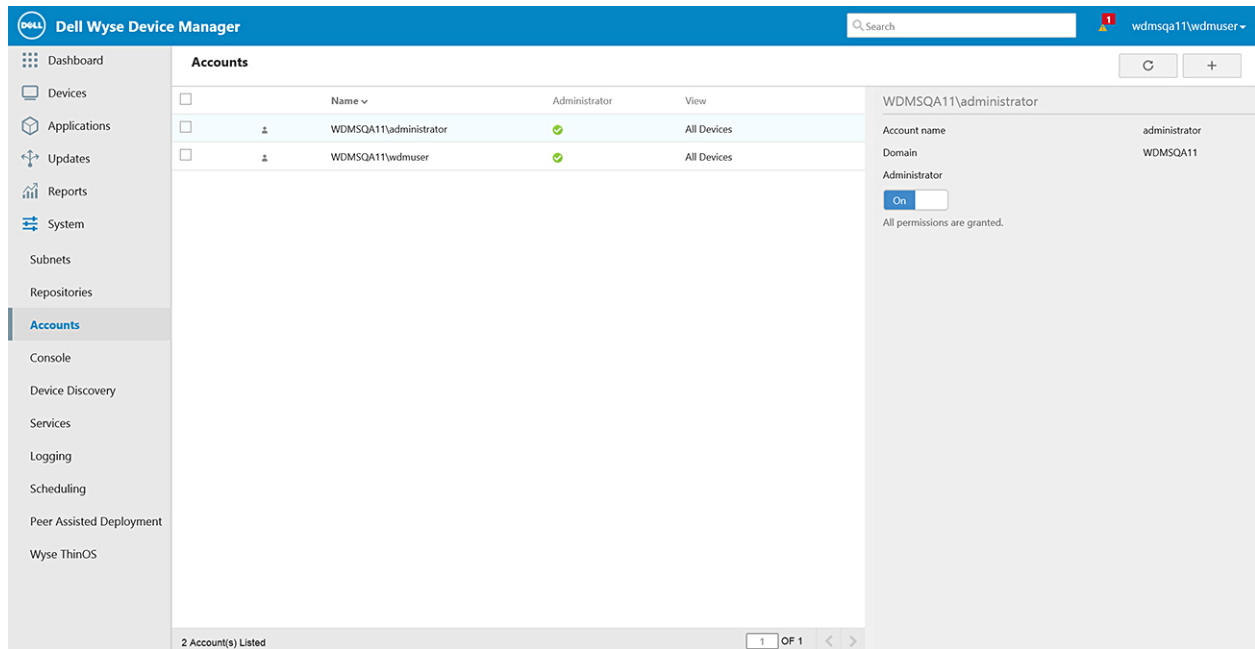


図 39. アカウント

① **メモ:** WDM ユーザーを追加する前に、WDM をインストールした Windows ドメインのユーザーのリストにそのユーザーが既に存在している必要があります。

ローカルコンピュータアカウントからユーザーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**System** (システム) を展開します。
- 2 WDM ユーザーとして追加するユーザーの名前を選択し、**Add** (追加) をクリックします。
- 3 **OK** をクリックして、新しいユーザーを WDM ユーザーのリストに追加します。

① **メモ:** ユーザーの権限を編集するまで、新しいユーザーに権限はありません。

ドメインコントローラとグローバルカタログからのユーザーとグループの追加

管理者として WDM ユーザーとグループを Active Directory から追加できます。

① **メモ:** WDM グループを追加する前に、グループが Active Directory にすでに存在している必要があります。

Active Directory からユーザーまたはグループを追加するには、次の手順を実行します。

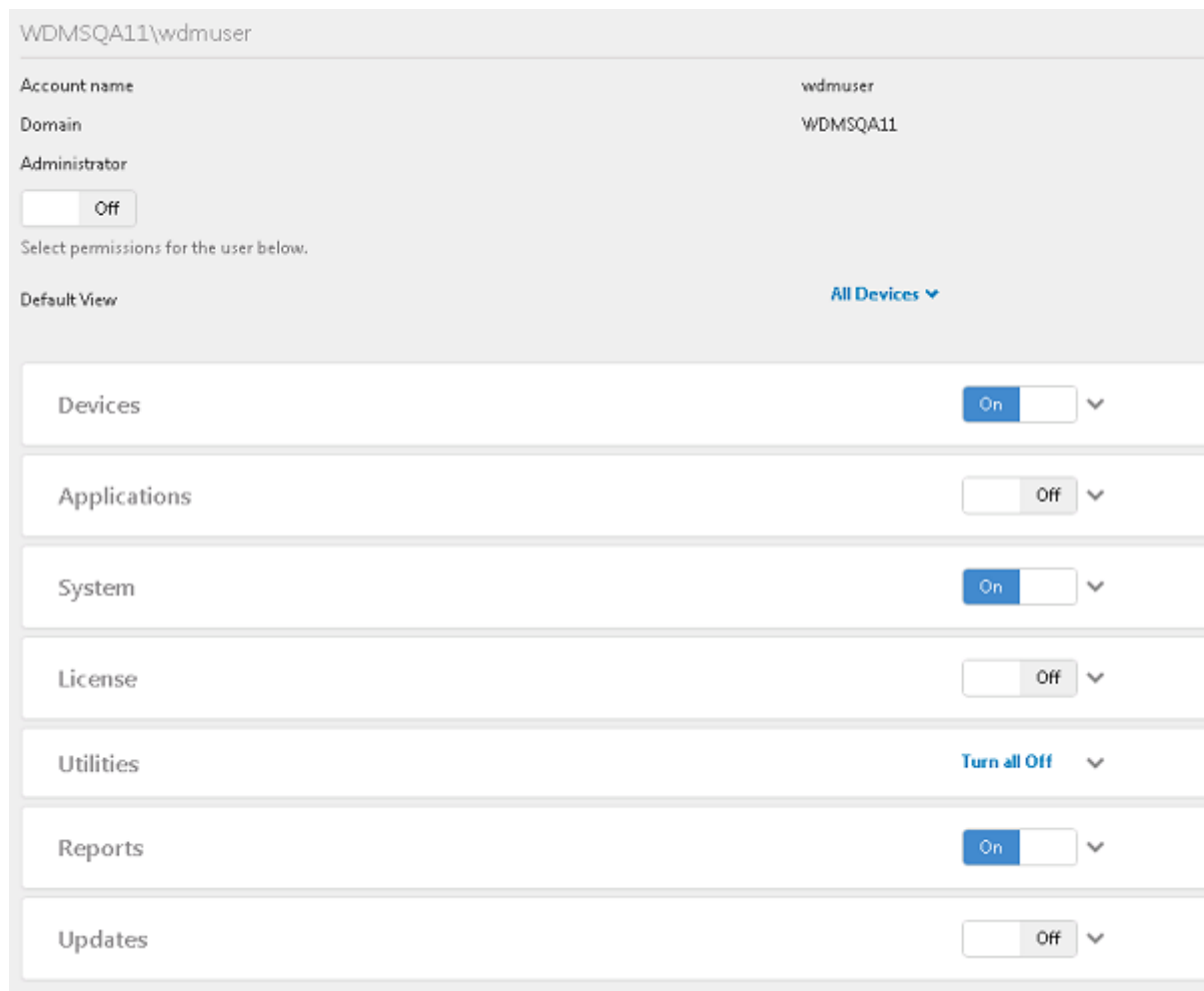
- 1 WDM コンソールで、**System** (システム) を展開します。
- 2 ドメインからユーザーを選択する場合は、**Domain Controller** (ドメインコントローラ) オプションを選択します。
- 3 IP アドレス / 名前を入力するか、リストからドメインコントローラを選択します。WDM をインストールしたサーバは、ドメインの一部である必要があります。
- 4 希望する検索基準オプションを選択します。

① **メモ:** Show user only (ユーザーのみ表示) を選択した場合は、アクティブになっているテキストボックスにユーザーの正確な名前を入力します。

- 5 **Search** (検索) をクリックして、基準に一致するユーザーとグループを表示します。
- 6 **Add** (追加) をクリックして、ユーザーとグループを WDM と統合します。

ユーザー権限の編集

管理者として WDM ユーザーの権限を編集できます。



WDMSQA11\wdmuser

Account name wdmuser
Domain WDMSQA11
Administrator Off

Select permissions for the user below.

Default View All Devices ▾

Devices	<input checked="" type="checkbox"/> On ▾
Applications	<input type="checkbox"/> Off ▾
System	<input checked="" type="checkbox"/> On ▾
License	<input type="checkbox"/> Off ▾
Utilities	Turn all Off ▾
Reports	<input checked="" type="checkbox"/> On ▾
Updates	<input type="checkbox"/> Off ▾

図 40. アカウント

① | **メモ:** 管理者として権限は編集できますが、デフォルトの管理者はすべての権限を持ち、それを変更することはできません。

ユーザーの権限を編集するには、以下を実行します。

- 1 WDM コンソールのツリーペインで **System** (システム) を展開し、**Accounts** (アカウント) オプションをクリックします。
- 2 **Add** (追加) オプションをクリックして、ユーザーまたはユーザーグループを追加します。
- 3 **Local** (ローカル) タブをクリックして、WDM ユーザーのリストを表示します。
- 4 ユーザーのリストから追加するユーザーを選択し、**Add** (追加) をクリックしてユーザー権限 ダイアログボックスを開きます。
- 5 On/Off (オン / オフ) オプションをクリックして、**Administrator** (管理者) オプションを有効または無効にします。

① | **メモ:** **Administrator** (管理者) オプションを有効にすると、すべての権限が選択されます。

- 6 On/Off (オン / オフ) オプションをクリックして、次のユーザー権限を有効または無効にします。

① **メモ:**

グループのオン / オフ権限は、グループの特定の権限で実行された変更に基づいて変更されます。

1つ以上の権限がオン状態からオフ状態に変更された場合、グループ権限はすべての状態をオフにするように設定されます。

すべての権限がオフ状態に設定されている場合、グループ権限はオフ状態に設定されます。

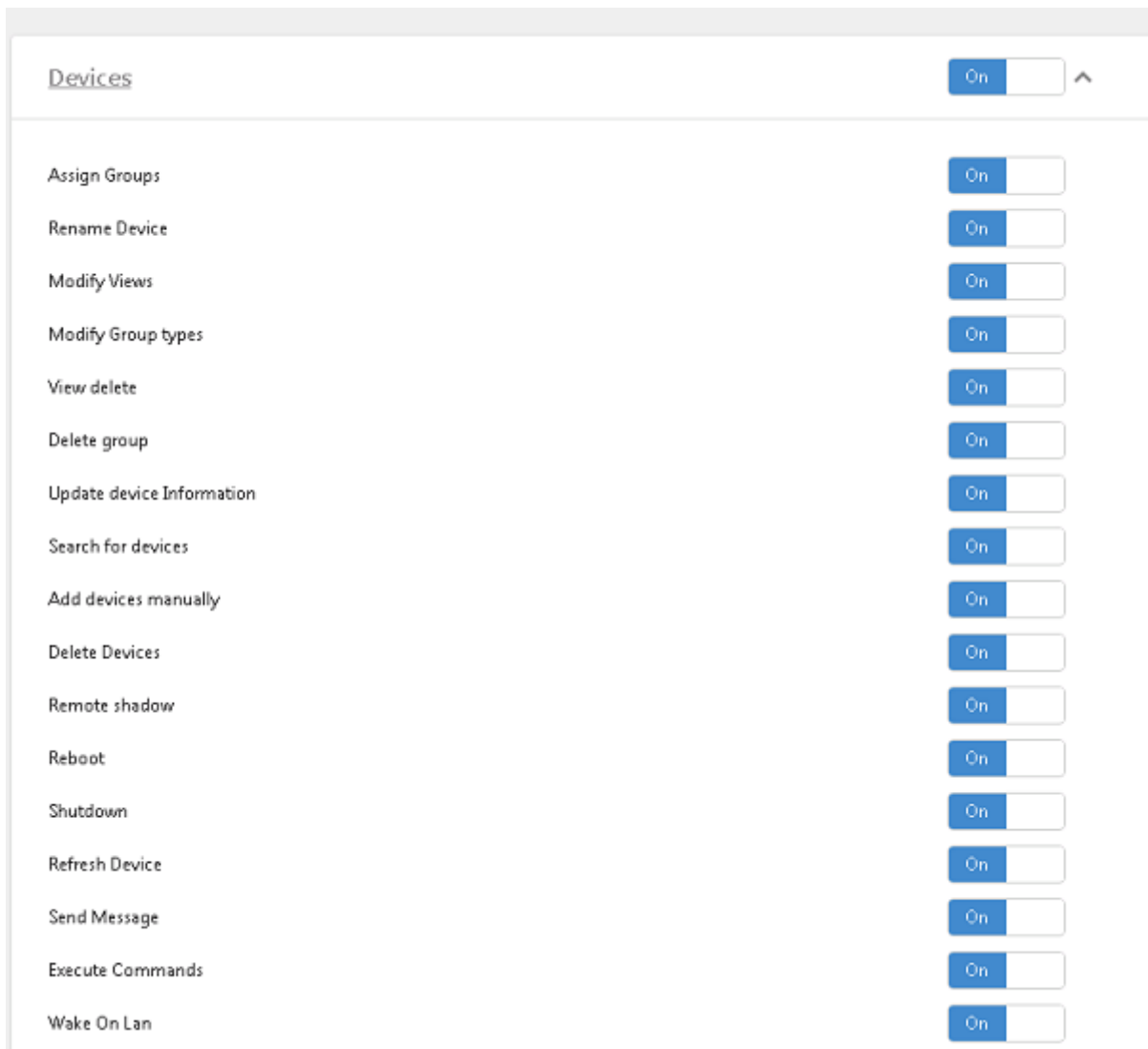


図 41. Devices (デバイス)

表 14. Devices (デバイス)

Devices (デバイス)
Assign Groups (グループの割り当て)
Modify Views (ビューの変更)
Modify Groups types (グループタイプの変更)
View Delete (削除の表示)
Update Device Information (デバイス情報のアップデート)

Devices (デバイス)
Search for devices (デバイスの検索)
Update (アップデート)
Add devices manually (手動によるデバイスの追加)
Delete Packages (パッケージの削除)
Delete Devices (デバイスの削除)
Remote shadow (リモートシャドー)
Reboot (再起動)
Shutdown (シャットダウン)
Refresh Device (デバイスの更新)
Send Message (メッセージの送信)
Execute Commands (コマンドの実行)
Wake on LAN
Relay Wake On Lan (Wake on LAN の中継)
Exclude from PAD Repository (PAD リポジトリから除外)
Include in PAD Repository (PAD リポジトリに組み込む)
Create and View Log (ログの作成と表示)
Get Device Log (デバイスログの取得)
Get Image (イメージの取得)

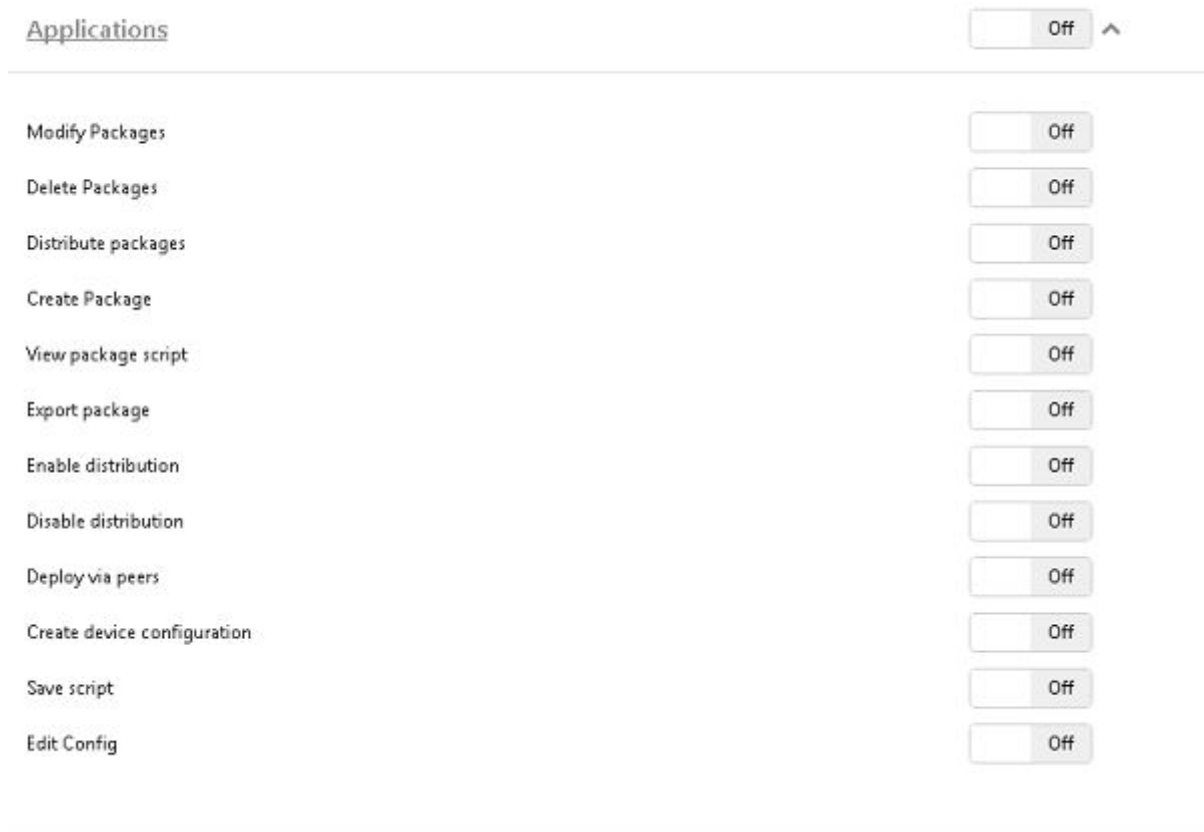


図 42. Applications (アプリケーション)

表 15. Applications (アプリケーション)

Applications (アプリケーション)
Create Packages (パッケージの作成)
Modify Packages (パッケージの変更)
Distribute Packages (パッケージの配布)
Configure Packages (パッケージの設定)
Register Packages (パッケージの登録)
View Packages Script (パッケージスクリプトの表示)
Export Packages (パッケージのエクスポート)
Disable distribution (配布の無効化)
Deploy via peers in subnet (サブネットのピアで導入)
Create new configuration (新しいプールの作成)
Save script (スクリプトの保存)
Edit Config (設定の編集)

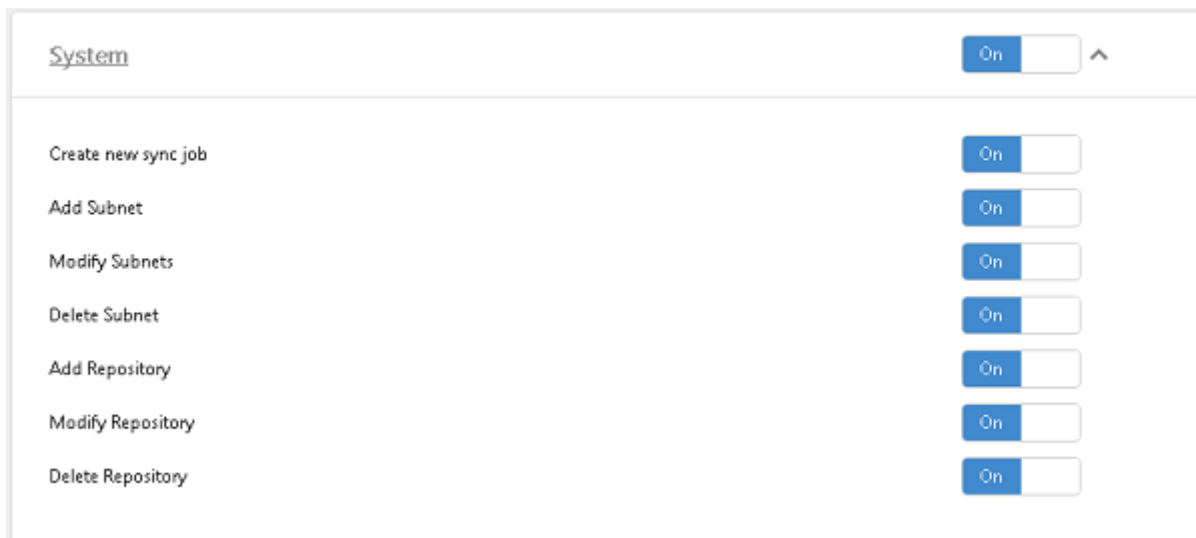


図 43. System (システム)

表 16. System (システム)

System (システム)
Create new sync job (新しい同期ジョブの作成)
Add Subnet (サブネットの追加)
Modify Subnets (サブネットの変更)
Delete Subnet (サブネットの削除)
Add repository (リポジトリの追加)
Modify Repository (リポジトリの変更)
Delete Repository (リポジトリの削除)



図 44. License (ライセンス)

表 17. License (ライセンス)

License (ライセンス)
Add License (ライセンスの追加)
Remove License (ライセンスの削除)

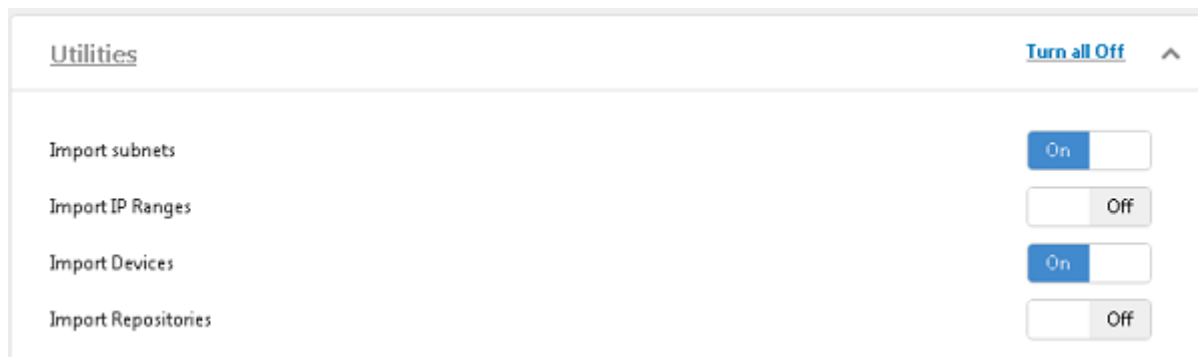


図 45. Utilities (ユーティリティ)

表 18. Utilities (ユーティリティ)

Utilities (ユーティリティ)
Import Subnets (サブネットのインポート)
Import IP Ranges (IP 範囲のインポート)
Import Devices (デバイスのインポート)
Import Repositories (リポジトリのインポート)

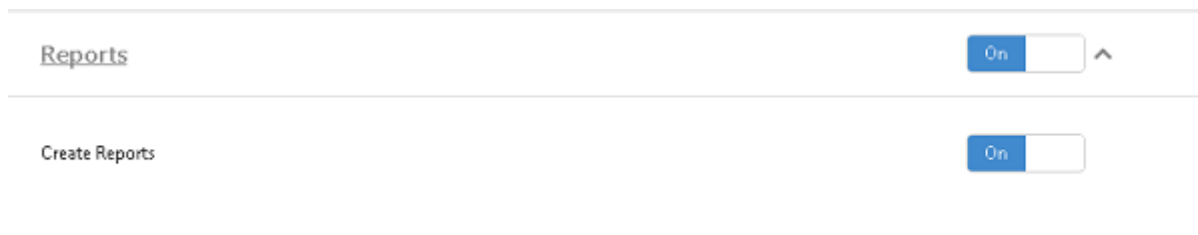


図 46. Reports (レポート)

表 19. Reports (レポート)

Reports (レポート)
Create Reports (レポートの作成)

Updates

Off ^

Save Profile	Off
Delete Profile	Off
Create DDC	Off
Delete DDC	Off
Move to error	Off
Delete Job	Off
Reschedule Job	Off
Roll to boot	Off
Delete recurring update	Off
Delete real time command	Off
Delete repository sync	Off
Delete PAD	Off
Move to error(PAD)	Off
Reschedule PAD	Off

図 47. Updates (アップデート)

表 20. Updates (アップデート)

Updates (アップデート)
Save Profile (プロファイルの保存)
Delete Profile (プロファイルの削除)
Create DDC (DDCの作成)
Delete DDC (DDCの削除)
Move to error (エラーに移動)
Delete Job (ジョブの削除)
Reschedule Job (ジョブの再スケジュール)
Roll to boot (起動へのロール)
Delete recurring update (定期的なアップデートの削除)
Delete real time command (リアルタイムコマンドの削除)
Delete repository sync (リポジトリの同期の削除)
Delete PAD (PADの削除)
Move to error(PAD) (エラーに移動 (PAD))
Deploy via peers (ピアで導入)

ユーザーの削除

管理者として WDM ユーザーを削除できます。

① | **メモ:** ユーザーとして自分自身を削除することはできません。

ユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで**システム**を展開し、**アカウント**をクリックして WDM ユーザーのリストを表示します。
- 2 ユーザーのリストから削除するユーザーのチェックボックスを選択し、**削除**を選択します。
- 3 **削除**をクリックして削除を確定します。

① | **メモ:** ユーザを削除すると、ユーザーの個人用デバイスビューも削除されます。

コンソール

システムリストの **Console** (コンソール) をクリックしてデバイスのステータスを表示します。

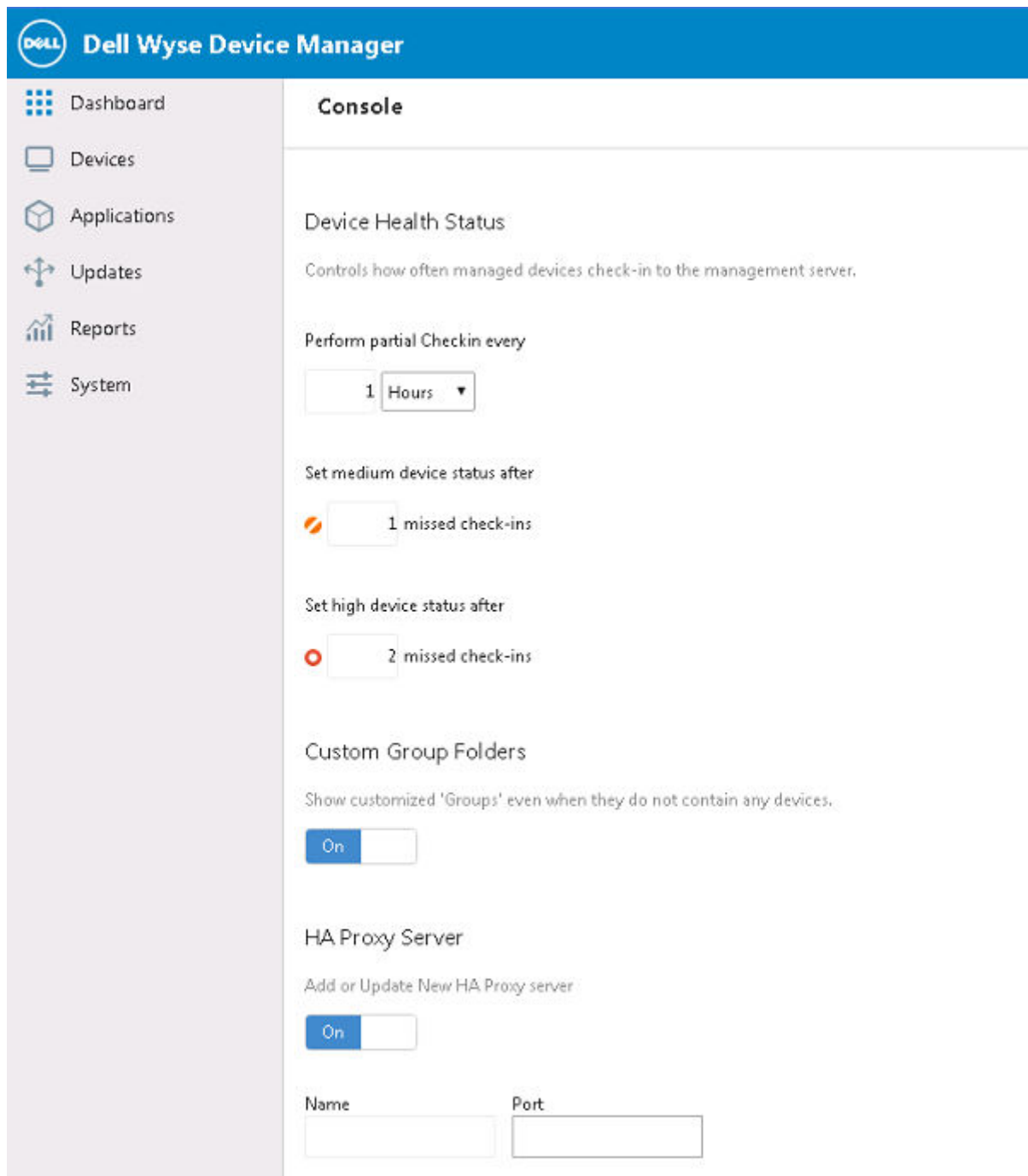


図 48. コンソール

1 次の詳細を入力します。

- **Device Health Status** (デバイスのヘルスステータス):
 - **Perform a partial check-in every** (全デバイスを部分チェックインする) - 数字と時間の単位 (分、時間、日) を選択して、全デバイスに対する部分チェックインの頻度を設定します。デフォルトは **1 Hour** (1 時間) です。部分チェックインは指定された間隔で定期的に行われ、デバイスの正常性状態 (赤、黄、緑) を確認します。部分チェックインは、フルチェックインほどネットワーク帯域を必要としません。これは、WDM のインストール時にデバイスが数千台もあるような場合には重要です。チェックイン頻度の変更は、チェックイン時間が設定またはデバイスが更新されるまで有効になりません。
 - **Medium Device Status** (ミディアムデバイスのステータス) - ミスチェックインの数を選択して、ミディアムデバイスのステータスを設定します。
 - **High Device Status** (ハイデバイスのステータス) - ミスチェックインの数を選択して、ハイデバイスのステータスを設定します。

- **Custom Group Folders** (カスタムグループのフォルダ) - デバイスビュー用のユーザー定義のグループの作成時に、デバイスマネージャに空のフォルダを表示したい場合に、このオプションを選択します。
- **HA Proxy Server** (HA プロキシサーバ) - 新しい HA プロキシサーバを追加または更新する場合は、このオプションを選択します。新しい HA プロキシサーバを追加または更新するには、提示されたフィールドに名前とポートの詳細を入力します。
- **Remote Sessions** (リモートセッション) - このオプションは、リモートセッションを設定した Windows、Linux、Thin OS (WTOS) デバイスに適用されます。このオプションを選択した場合は、そのデバイスのリモートセッションの詳細が **Devices** (デバイス) ページの **Remote Sessions** (リモートセッション) タブに表示されます。このデータは、リモートセッションのエンドユーザーに課金をする際に役立ちます。

Windows および Linux デバイスの場合は、+サーバの追加 ボタンをクリックして、VMware リモートセッションサーバと Citrix リモートセッションサーバを追加します。

VMware リモートセッションサーバを追加するには、以下の詳細情報を入力します。

- ホストまたは IP
- データベース名
- データベースのユーザー名
- データベースのパスワード
- 認証
- プレフィックス

Citrix リモートセッションサーバを追加するには、以下の詳細情報を入力します。

- ホストまたは IP
- ドメイン
- バージョン
- ユーザー名
- パスワード

チェックマークをクリックして、情報を検証します。

古いデータを削除する日数を指定することもできます。デフォルトは 45 日です。

- 2 デフォルトのデバイス設定では、ファームウェアかソフトウェアパッケージ、またはその両方をシンククライアントデバイスに自動的に配布できます。デバイスのグループに DDC を割り当てることで整合性を確保し、適切なイメージ処理と設定で企業の機能エリアを対象とできます。
- 3 次の詳細を指定します。

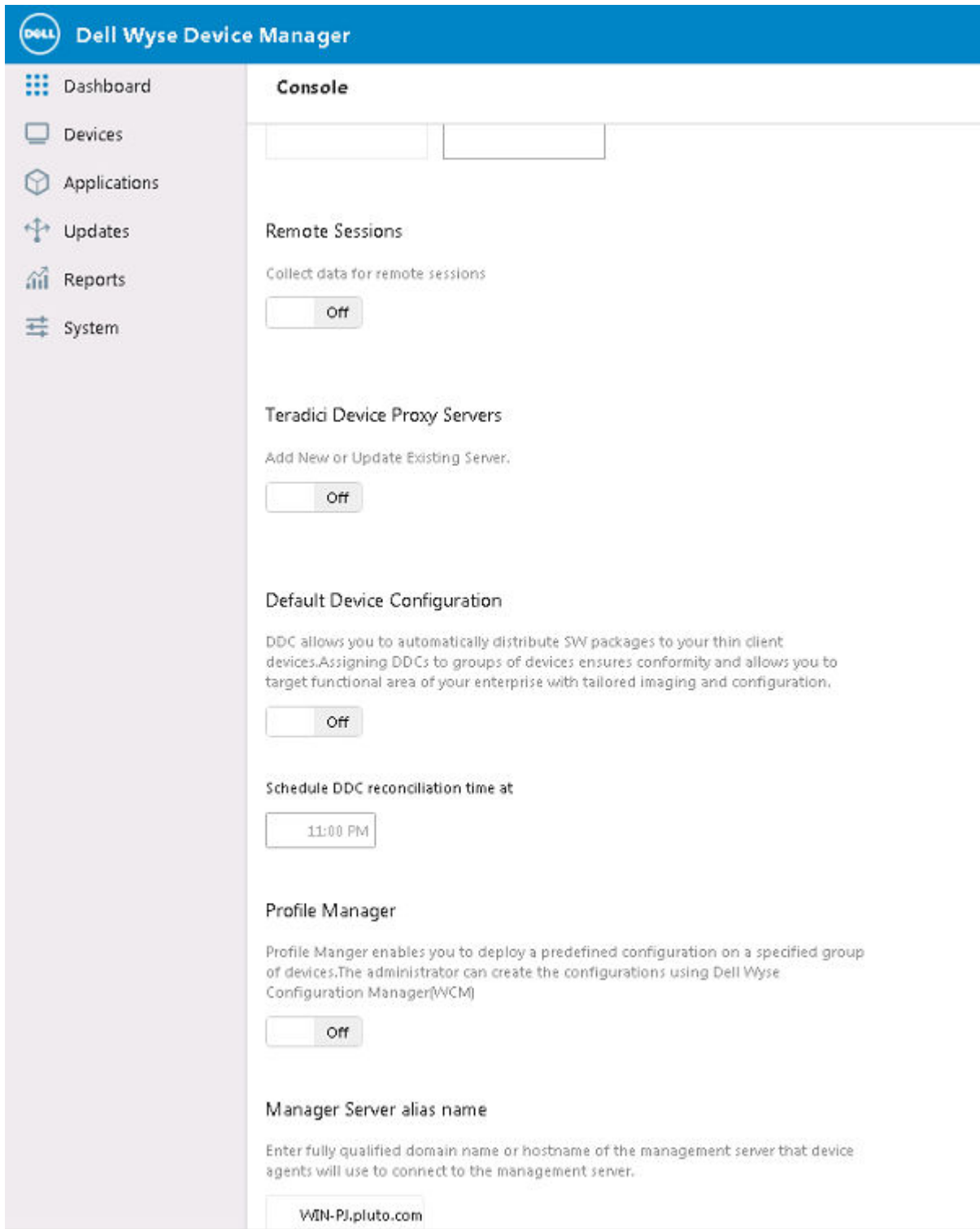


図 49. コンソール

- **Teradici Device Proxy Server** (Teradici デバイスプロキシサーバ) - 新しいサーバを追加する、もしくは既存のサーバを更新するには、このオプションを選択します。

Default Device Configuration (デフォルトのデバイス設定) - (WDM Enterprise Edition のみ) このオプションを使用すると、ソフトウェアパッケージをシンクライアントデバイスに自動的に配布できます。デバイスのグループに DDC を割り当てることで、適合性が確保され、カスタマイズされたイメージと構成を使用して企業の機能領域をターゲットにすることができます。

- **Schedule DDC Reconciliation at** (DDC 調整のスケジュール時刻) : 時間を入力します。

- 4 デバイスマネージャツリーの **Profile Manager** (プロファイルマネージャ) をクリックし、

デバイスマネージャツリーで、**Profile Manager Preferences** (プロファイルマネージャの設定) ウィンドウを起動します。プロファイルマネージャを使用すると、特定のデバイスのグループにあらかじめ定義された設定を導入できます。Dell Wyse Configuration Manager (WCM) を使用して設定を作成することができます。

- 5 次の詳細を指定します。

a プロファイルマネージャのプリファレンスページの **Enable Profile Manager** (プロファイルマネージャを有効にする) を選択します。

b **OK** をクリックして、設定を保存します。

- 6 **Management Server alias name** (管理サーバの別名) オプションをクリックして、デバイスエージェントが管理サーバに接続するために使用する管理サーバの完全修飾ドメイン名またはホスト名を入力します。

- 7 **Save** (保存) をクリックします。

デバイス検出の設定

最初に管理サーバにチェックインした後にデバイス検出でエージェントの検出動作を設定します。

Dell Wyse Device Manager Search 6 wdm5\administrator

- Dashboard
- Devices
- Applications
- Updates
- Reports
- System
- Subnets
- Repositories
- Accounts
- Console
- Device Discovery**
- Services
- Logging
- Scheduling
- Peer Assisted Deployment
- Wyse ThinOS

Device Discovery

Device agent discovery

Configure agents discovery behaviour after first check-in to management server. For automatic discovery of devices using DHCP or DNS. Please refer to documentation.

DNS Hostname Off

DNS SRV record lookup Off

DHCP Option tags Off

Manual discovery from Device Manager Off

Device autodiscover management server after missed check-ins.

Device discovery timeout seconds

DHCP discovery

Enables discovery of devices in the local subnet of the management server.

On

DHCP options tags used by agents

Dell Wyse Device Manager Search 6 wdm5\administrator

- Dashboard
- Devices
- Applications
- Updates
- Reports
- System
- Subnets
- Repositories
- Accounts
- Console
- Device Discovery**
- Services
- Logging
- Scheduling
- Peer Assisted Deployment
- Wyse ThinOS

Device Discovery

DNS Hostname Off

DNS SRV record lookup Off

DHCP Option tags Off

Manual discovery from Device Manager Off

Device autodiscover management server after missed check-ins.

Device discovery timeout seconds

DHCP discovery

Enables discovery of devices in the local subnet of the management server.

On

DHCP options tags used by agents

Management server IP	186
Management server hostname	194
Management server port	192
Secure port	190

図 50. デバイス検知

- **DNS Hostname** (DNS ホスト名): デバイスが DNS ホスト名検索メソッドを使用して WDM サーバを検出できるようにする場合に選択します。
- **DNS SRV record lookup** (DNS SRV レコード検索): デバイスが DNS SRV レコード検索メソッドを使用して WDM サーバを検出できるようにする場合に選択します。
- **DHCP option tags** (DHCP オプションタグ): デバイスが DHCP オプションタグを使用して WDM サーバを検出できるようにする場合に選択します。
- **Manual discovery from Device Manager** (デバイスマネージャからの手動検出): デバイス検索ウィンドウで IP 範囲またはサブネット検出メソッドを使用してデバイスを検出する場合に選択します。
- **Device autodiscover management server after** (デバイス自動検出の管理サーバ): 自動検出オプションが有効になるミスチェックイン回数を選択します。ミスチェックインの数が指定値を超えると、自動検出メソッドが有効になります。
- **Device discovery timeout** (デバイス検出のタイムアウト): WDM がネットワーク上のすべてのデバイスを検出する最大割り当て時間を入力します。
- **DHCP discovery** (DHCP 検出): 管理サーバのローカルサブネットにあるデバイスの検出を有効にします。

サービスについて

サービスページは、TFTP サーバと Wake on LAN の詳細の表示に便利です。

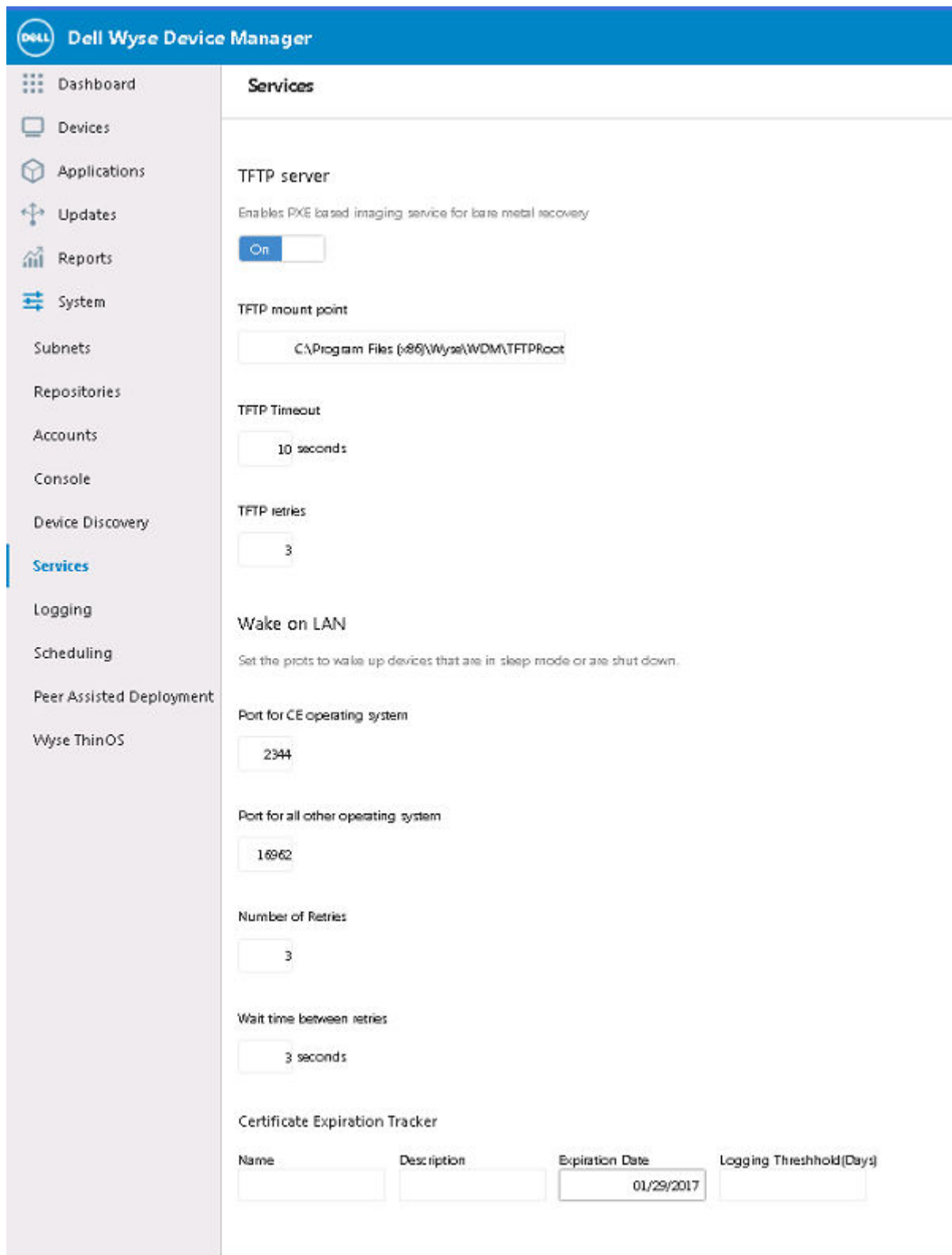


図 51. サービス

- **TFTP Server** (TFTP サーバ) : このオプションを有効にすると、デバイスのアップデート時に WDM で Trivial File Transfer Protocol (TFTP) を使用できます。
 - **TFTP Mount Point** (TFTP マウントポイント) : インストール時に WDM が設定された TFTP マウントポイントを表示します。通常これは、マスターリポジトリで使用される FTP ホームディレクトリの下にある TFTP ルートディレクトリ (WDM) です。

- **TFTP time Out** (TFTP タイムアウト): デバイスが再接続を試行する前に TFTP サービスへの接続を待機する時間 (秒) を指定します。
- **TFTP retries** (TFTP の再試行): 接続を停止する前にデバイスが TFTP サービスへの接続を試行する回数を指定します。
- **Wake on LAN** : スリープモードまたはシャットダウンされたデバイスを起動させることができます。
 - Wake on LAN を設定します。サービスが WOL コマンドを実行してから停止するまでの時間、および WOL の再試行間の遅延時間(秒)。別の WOL コマンドを同一デバイスに試行するまでに WDM が一時停止する時間。

CE デバイスでは、デフォルトの WOL ポートは 2344 で、残りのデバイスは 16962 です。一部のカスタムポートに変更することができますが、ファイアウォールがオンになっている場合は、ファイアウォールポートに例外を設定してください。

- **Certificate Expiration Tracker** (証明書の有効期限トラッカー): WDM には CA 証明書の有効期限をトラックするユーティリティがあります。WDM 管理者は、名前、説明、有効期限、ログの閾値をなどの CA 証明書の基本情報を手動で入力する必要があります。WDM はこの情報をトラックし、証明書の有効期限を管理者に警告します。この情報は、Windows のイベントビューアに記録されます。
 - **Name** (名前) - 証明書の有効期限トラッカーの名前を入力します。
 - **Description** (説明) - 証明書の有効期限トラッカーの説明を入力します。
 - **Expiration Date** (有効期限) - 証明書の有効期限トラッカーの有効期限を選択します。
 - **Logging Threshold (Days)** (ログの閾値 (日数)) - 証明書の有効期限に警告メッセージを受信するように指定する必要がある期間です。証明書が x の日付で期限切れになるとします。**Logging Threshold (Days)** (ログの閾値 (日数)) を 30 日に指定した場合、x の 30 日前から 1 日に 1 回、イベントビューアの警告メッセージを受信ようになります。イベントビューアに、以下のようなエラーメッセージとして表示されます。

ロギングレベルの設定

このパラメータは、次の異なるロギングレベルの設定の表示に便利です。ロギングレベルを高くすると、データベースにより多くのデータが保存されます。このため、サーバの速度が低下する可能性があります。デバッグおよび情報レベルはデバッグ中のみ使用してください。

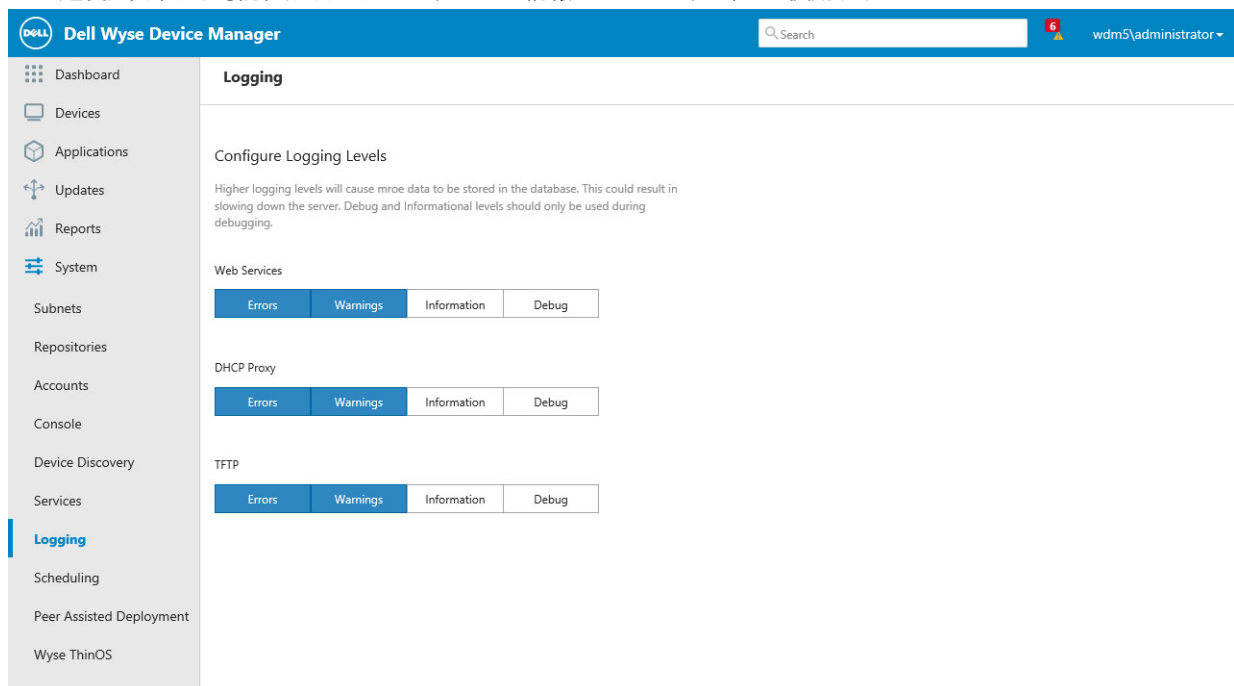


図 52. ロギング

- **Logging Services area** (ロギングサービスエリア): 各通信プロトコルのロギングレベルを選択します。
 - **Errors** (エラー): 単純なエラーメッセージで構成されます。
 - **Warning** (警告): エラーメッセージに加えて警告で構成されます (これがデフォルトのオプションです)。
 - **Informational** (情報): エラーおよび警告メッセージに加えてその他の情報項目から構成されます。

- **Debug** (デバッグ) : エラー、警告、情報に加えて、WDM の開発者、セールスエンジニア、管理者に役立つ可能性のあるデバッグデータのすべての情報から構成されます。
- **Web Services** (Web サービス) : デバイス管理のための WDM Web サービスのアクティビティを詳述します。
- **DHCP Proxy** (DHCP プロキシ) : デバイスの検出時の WDM Dynamic Host Configuration Protocol のアクティビティを詳述します。
- **TFTP** : ソフトウェアパッケージをデバイスに配布するための Trivial File Transfer Protocol のアクティビティを詳述します。

スケジューリング

Scheduling (スケジューリング) ページは、最大同時アップデート、アップデートのスケジュールのタイムゾーン、失敗したアップデートの再スケジュールの最大再試行回数、リモートソフトウェアリポジトリの自動同期などの詳細の表示に便利です。

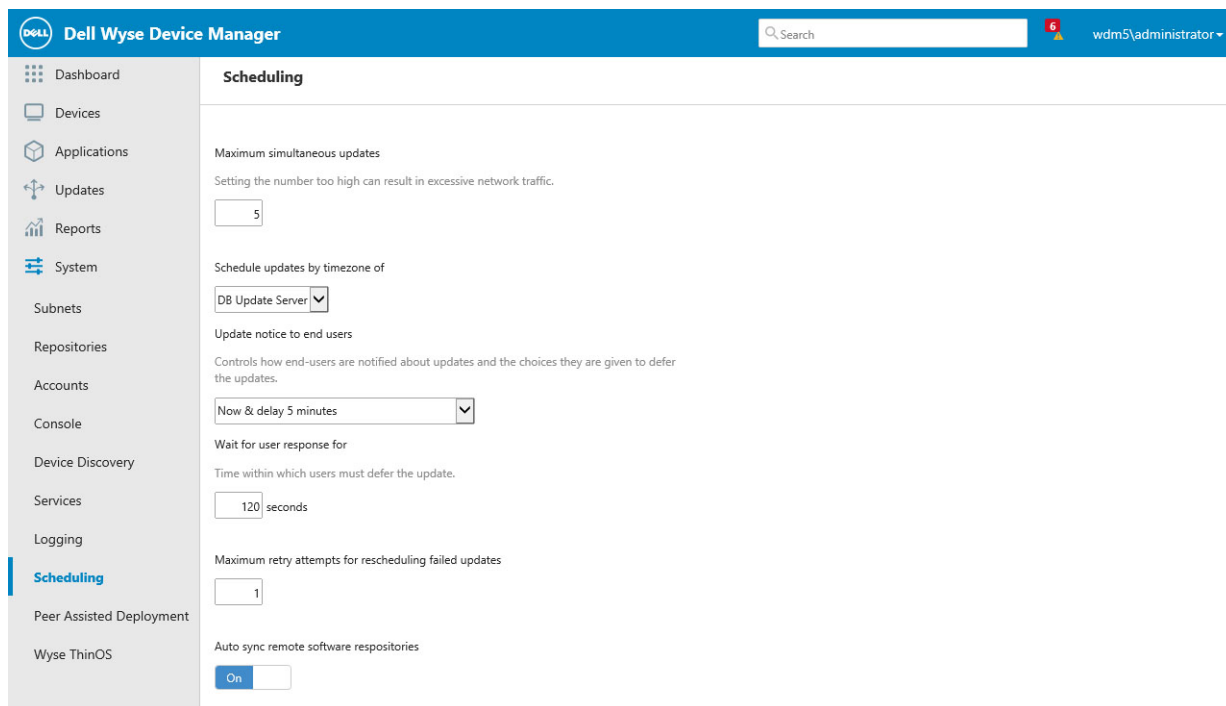


図 53. スケジューリング

- **Maximum Simultaneous Updates** (最大同時アップデート) : サブネットですべて同時に実行できるデバイスアップデートの最大数です。
- **Scheduled updates by timezone of** (タイムゾーン別にスケジュールされたアップデート) : デバイスのアップデートをスケジュールするとき有効な WDM タイムゾーンを選択します。オプションは次のとおりです。
 - **DB Update Server** (DB アップデートサーバ) : WDM データベースの実際の場所によって定義されるタイムゾーンです。
 - **Console** (コンソール) : WDM コンソールの実際の場所によって定義されるタイムゾーンです。
 - **Device** (デバイス) : 実際にアップデートを行うデバイスの実際の場所によって定義されるタイムゾーンです。
- **Update notice to end-users** (エンドユーザーへのアップデートの通知) : これは、クライアント向けにアップデートパッケージがスケジュールされている場合に、必ずクライアントデバイスにユーザー通知クエリウィンドウを表示する設定です。
- **Maximum retry attempts rescheduling failed updates** (失敗したアップデートの再スケジュールの最大再試行回数) : 最大再試行回数では、パッケージの導入に失敗した場合に再試行する回数を指定します。
- **Auto-sync Remote Repositories** (リモートリポジトリの自動同期) : 選択すると、リモートリポジトリのデバイスへのアップデートを実行する前に、リモートリポジトリを同期化する必要があるかどうかを WDM (Enterprise Edition のみ) で決定できます。

ピアアシスト導入

ピアアシスト導入 (PAD) は、WDM サーバを介して管理されるシンクライアントデバイスにイメージのアップデートを提供するメカニズムです。このメカニズムは、デバイスが複数のサブネットに分散している環境で最適です。ピアアシストの導入で WDM サーバは、それぞれのサブネット内の他のデバイスのリポジトリサーバとして動作する一連のデバイスを選択します。そのため、アップデートはピアノードから他のデバイスに配信されるので、ピアアシスト導入と呼ばれています。

PAD 機能は、次のプラットフォームに適用できます。

- SUSE Linux
- ThinLinux
- Windows Embedded Standard 7 (WES7)
- Windows Embedded Standard 7P (WES7P)
- Windows Embedded Standard 8 (WE8S)
- Windows 10 IoT Enterprise

次の図とワークフローが PAD の機能の動作について最もよく説明しています。

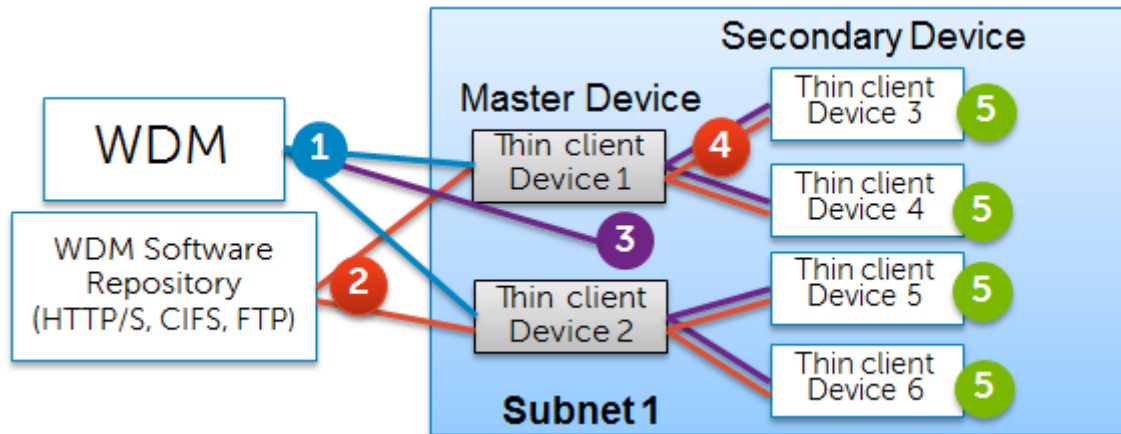


図 54. PAD の機能

WDM サーバからリポジトリデバイスへのワークフロー

PAD 用に設定されたリポジトリデバイスのイメージアップデートプロセスには 3 つの基本的な手順があります。

- デバイスのセルフイメージング。
- デバイスをリポジトリ対応にする。
- PAD スケジュールが完了したときにリポジトリをオフにする。

ワークフローは、次の手順で定義できます。

- 1 最初に WDM サーバにチェックインし、フラッシュサイズが最も低く、選択した PAD のイメージに対応できるデバイスが、サブネット用のリポジトリデバイスになります。デバイスの **Peer Capable** (ピア対応) および **Repository Capable** (リポジトリ対応) プロパティの値が **True** (真) に設定されている必要があります。詳細については、「[PAD の前提条件](#)」を参照してください。
- 2 リポジトリデバイスは WDM リポジトリから再起動し、自身のイメージングを行います。
- 3 リポジトリデバイスは、イメージング、起動、BIOS のダウンロードを完了すると、リポジトリ対応になります。次に、デバイスはパッケージ完了 (V02) ステータスを WDM サーバに返送します。
- 4 スケジュール範囲が経過すると、WDM サーバは、リポジトリデバイスのチェックイン時にリポジトリのスイッチをオフするように指示を送信します。次に、デバイス上でのリポジトリの機能を有効にするアプリケーションのスイッチをオフにします。

リポジトリデバイスからピアデバイスへのワークフロー

PAD を使用したリポジトリデバイスからピアデバイスへのイメージアップデートプロセスは、次の手順で構成されます。

- 1 WDM はリポジトリデバイスの位置とイメージダウンロードアクセス認証情報でピアデバイスにイメージングジョブをスケジュールします。
- 2 ピアデバイスはリポジトリデバイスからイメージをダウンロードします。
- 3 イメージングが完了したら、ピアデバイスは新しいイメージで起動します。

PAD 機能の詳細については以下を参照してください。

- PAD の前提条件
- PAD の設定
- PAD を使用したパッケージの導入
- PAD 詳細の表示
- PAD スケジュールの編集および削除

タッチパッドの前提条件

PAD 機能は、Windows と Linux のシンクライアントシステムの両方でサポートされます。マスターデバイスになるどのデバイスにも特定の前提条件があります。

Linux デバイスはすべて PAD 対応、かつマスターデバイスになることができます。

PAD 対応になる Linux デバイスの場合、Linux デバイスに 最近リリースされたバージョンの OS イメージがダウンロードされインストールされていることを確認します。このイメージは、PAD 対応イメージである必要があります。Dell Wyse サポートサイトからイメージをダウンロードすることができます。

PAD 用の Windows デバイスの設定の詳細については、以下を参照してください。

- [Windows デバイスを PAD 対応にする](#)
- [Windows デバイスをリポジトリ対応にする](#)
- [Windows デバイス用の PAD 対応イメージの作成](#)

Windows デバイスを PAD 対応にする

Windows デバイスを PAD 対応にするするには、次の手順を実行します。

- 1 デバイスの Windows が最新リリースバージョンであることを確認します。
- 2 WES7 の場合は、フラッシュドライブの最低容量が 8 GB で 2 GB RAM の Z、D、ZQ、DQ、または 3290-C90D7 クラスのデバイスであることを確認します。
- 3 WE8S 64 ビットの場合は、フラッシュドライブの最低容量が 16 GB で 4 GB RAM の Z、D、ZQ、または DQ クラスのデバイスであることを確認します。
- 4 WES7 デバイスには **WES7WDAAgentUpgrade**、WE8S デバイスには **WE8SWDAAgentUpgrade**、WIE 10 デバイスには **WIE10WDAAgentUpgrade** の入手可能な最新バージョンをデプロイします。
- 5 WES7 デバイスには **BootAgentUpgradeWES7** の入手可能な最新バージョンを、WE8S デバイスには **BootAgentUpgradeWE8S** と **BootAgentUpgradeWIE10** の入手可能な最新バージョンをデプロイします。

デバイスが PAD 対応かどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 デバイスページでデバイスを選択します。
- 2 **View details** (詳細の表示) タブをクリックして、選択したデバイスの詳細を表示します。
- 3 詳細の表示ページで、機能セクションを確認します。

デバイスが PAD 対応ではない場合は、**PAD Capable** (PAD 対応) フラグが、次のように **Red** (赤色) に設定されています。

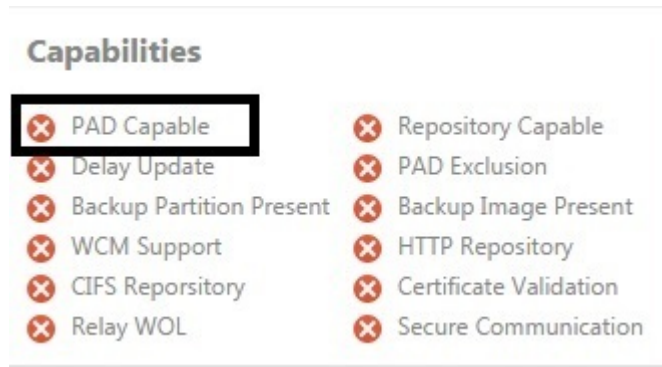


図 55. PAD 対応

- 4 デバイスを PAD 対応に設定すると、**PAD Capable** (PAD 対応) フラグが、次のように **Green** (緑色) に設定されます。

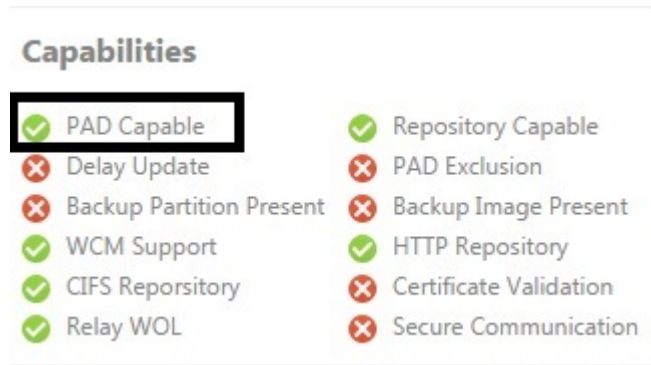


図 56. PAD 対応

Windows デバイスをリポジトリ対応にする

Windows デバイスをリポジトリ対応にするには、次の手順を実行します。

- 1 WES7 に **PADService_SysprepScript_WES7** を導入します。
- 2 WE8S に **PADService_SysprepScript_WE8S** を導入します。
- 3 WIE10 に **PADService_SysprepScript_WIE10** を導入します。

デバイスがリポジトリ対応かどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 デバイスページでデバイスを選択します。
- 2 **View details** (詳細の表示) タブをクリックして、選択したデバイスの詳細を表示します。
- 3 詳細の表示ページで、機能セクションを確認します。

デバイスがリポジトリ対応ではない場合は、リポジトリ対応フラグが下に示すように **Red** (赤色) に設定されます。



図 57. リポジトリ対応

- 4 デバイスをリポジトリ対応に設定すると、リポジトリ対応フラグが下に示すように **Green** (緑色) に設定されます。

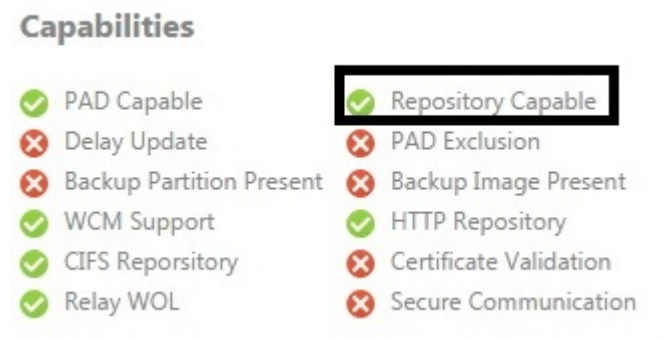


図 58. リポジトリ対応

Windows デバイス用の PAD 対応イメージの作成

WES7、WE8S、WIE10 デバイス用の PAD 対応イメージを作成するには、以下の手順を実行します。

- 1 WDM GUI プリファレンスでデバイスのチェックイン間隔を最低 1 時間に設定します。
- 2 管理者としてデバイスにログインして書き込みフィルタを無効にし、ログアウトして再度管理者としてログインします。
- 3 **HagentSettings.ini** ファイルを C:\Program Files\Wyse\WDA\config から削除して、**WES7** デバイス用のコマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
Hagent.exe -Install
```

WE8S および **WIE10** デバイスの場合は、上記のコマンドを実行する前に管理者としてログインし、C:\Windows\System32 に移動して **Cmd.exe** ファイルを右クリックし、**Run as Administrator** (管理者として実行) オプションを選択する必要があります。

- 4 **WES7** デバイスの場合は、コマンドプロンプトで **C:\windows\setup** フォルダに移動して次のコマンドを実行することで、イメージを引き出すようデバイスを準備します。

```
WES7_CustomSysprep4man.bat -r
```

WE8S および **WIE10** デバイスの場合は、コマンドプロンプトで **C:\windows\setup** フォルダに移動して次のコマンドを実行することで、イメージを引き出すようデバイスを準備します。

```
Powershell.eexe c:\windows\setup\WIE10_CustomSysprep4man.ps1 -r
```

① | **メモ:** WE8S デバイスの場合は、管理者としてコマンドプロンプトを実行する必要があります。手順 3 を参照してください。

- 5 **WES7** デバイス用の PXE モード、**sysprep** を実行している **WE8S** および **WIE10** デバイス用の **Non PXE** (非 PXE) モードを使用し **Pull Image** (イメージ引き出し) コマンドを出す代わりに、デバイスは OS を起動できません。

- 6 WDM コンソールを実行しているシステムにログインして、**Update Manager (アップデートマネージャ) > Schedule Packages (スケジュールパッケージ)** からスケジュールを右クリックします。
- 7 **Roll to Boot (ロールして起動)** オプションを選択します。
- 8 **WES7** デバイスの場合は、**P** キーを押してデバイスを **PXE LAN** モードで起動します。**WE8S** および **WIE10** デバイスの場合は、**P** キーを押してデバイスを **Merlin Non-PXE (Merlin 非 PXE)** モードから起動します。
- 9 イメージを引き出したら、**Deploy via Peers in Subnet (サブネットのピアで導入)** オプションを使用して引き出したイメージを導入します。

PAD の設定

PAD 機能を使用するには、サブネットのプリファレンスを設定する必要があります。リポジトリとして使用するデバイス数と、マスターデバイスへの接続の詳細を指定することができます。

Dell Wyse Device Manager | Search | wdmqga11\wdmuser

Peer Assisted Deployment

Configure PAD
Peer Assisted Deployment (PAD) enables deployment of updates to devices using peer devices in the network.

Repositories per subnet
Number of devices that will serve as repositories in each subnet.
1 2

Maximum number of simultaneous updates
Number of devices that connect to each PAD repository in a subnet to receive updates.
7

Maximum retry count
3

Access Credentials for repositories
Credentials used by devices when they connect to PAD repository devices for updates.

SUSE Linux (SCP)
Username Password Relative Path

Thin Linux
Username Password Relative Path

Windows Embedded Standard 7P (HTTP)
Username Password Port Number

Windows Embedded Standard 7 (HTTP)
Username Password Port Number

Windows Embedded Standard 8 (HTTP)
Username Password Port Number

Windows 10 IoT Enterprise
Username Password Port Number

図 59. ピアアシスト導入

WDM で PAD を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**System (システム)** → **Peer Assisted Deployment (ピアアシスト導入)** を選択します。
- 2 必要なピア対応リポジトリの最小数を 1 つまたは 2 つとして指定します。
- 3 必要に応じて、マスターデバイスへの同時接続の最大数を変更します。同時接続のデフォルト数は 7 です。
- 4 必要に応じて、マスターデバイスへのリトライカウントの最大数を変更します。同時接続のデフォルト数は 3 です。
- 5 リポジトリにアクセスするための認証情報を入力します。ユーザー名、パスワード、次のデバイス用の相対パスを指定します。
 - **SUSE Linux (SCP)**
 - **ThinLinux**
 - **Windows Embedded Standard 7**
 - **Windows Embedded Standard 7P**
 - **Windows Embedded Standard 8**
 - **Windows 10 IoT Enterprise**

PAD を使用したパッケージの導入

PAD でイメージを導入するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**Application (アプリケーション)** の下の **Images (イメージ)** を選択します。登録したイメージが表示されます。
 - ① **メモ:** PAD は、アプリケーションパッケージではなく、イメージのみを導入することができます。
- 2 イメージを選択して、**Deploy via Peers (ピアで導入)** タブを選択します。**Deploy via Peers (ピアで導入)** ウィンドウが表示されます。

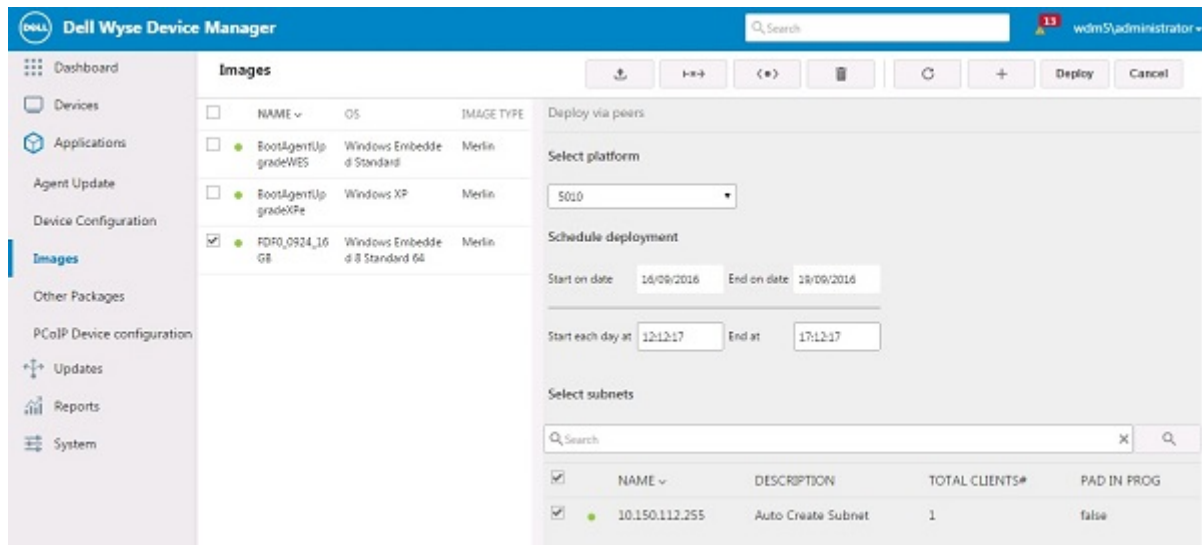


図 60. ピアで導入

- 3 ドロップダウンリストから、希望するプラットフォームを選択します。
- 4 開始日、終了日、時刻 (hh:mm:ss 形式) を入力して導入予定を決めます。
- 5 サブネット IP を入力して利用可能なサブネットから選択します。
 - ① **メモ:** PAD スケジュールを作成するには、少なくとも 1 つのサブネットを選択する必要があります。
- 6 **Deploy (導入)** をクリックします。

PAD 詳細の表示

PAD スケジュール、マスターリポジトリとして選択されているクライアント、イメージアップデートプロセスのサマリなどの PAD 詳細を表示できます。詳細を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM コンソールで、**Updates** (アップデート) の下の **Peer Assisted Delivery** (ピアアシスト配信) ノードを展開します。ノードに **Jobs** (ジョブ)、**Repositories** (リポジトリ)、**Summary** (サマリ) が表示されます。
- 2 マスターリポジトリとして機能するクライアントのリストを表示するには、**Peer Assisted Delivery** (ピアアシスト配信) の下の **Repositories** (リポジトリ) を選択します。クライアントのリストが表示されます。

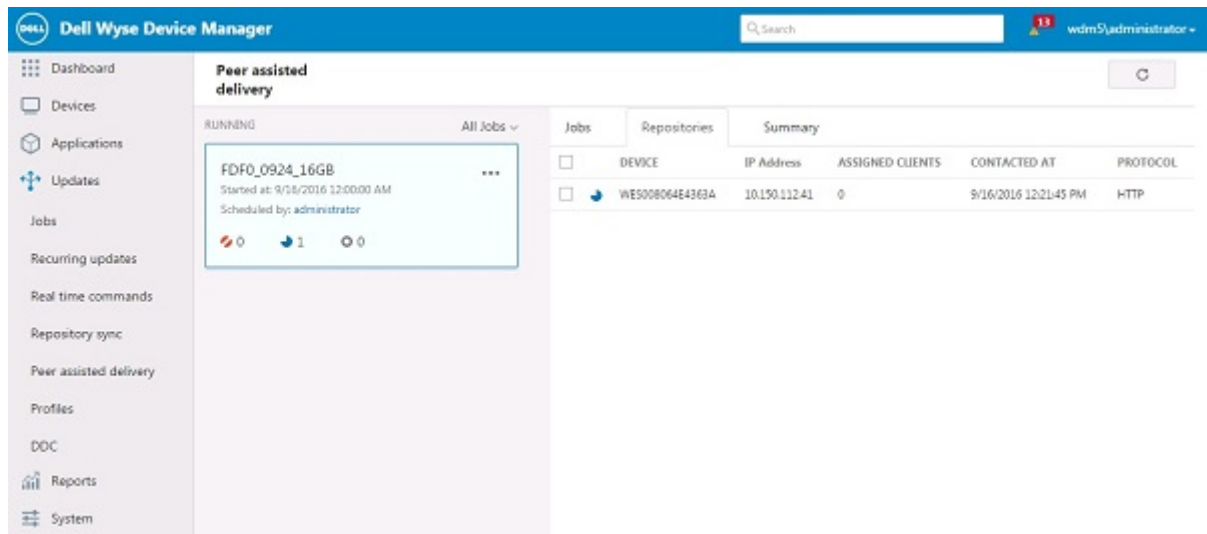


図 61. リポジトリ

- 3 PAD スケジュールを表示するには、**Peer Assisted Delivery** (ピアアシスト配信) の下の **Jobs** (ジョブ) を選択します。パッケージ導入スケジュールのリストが表示されます。

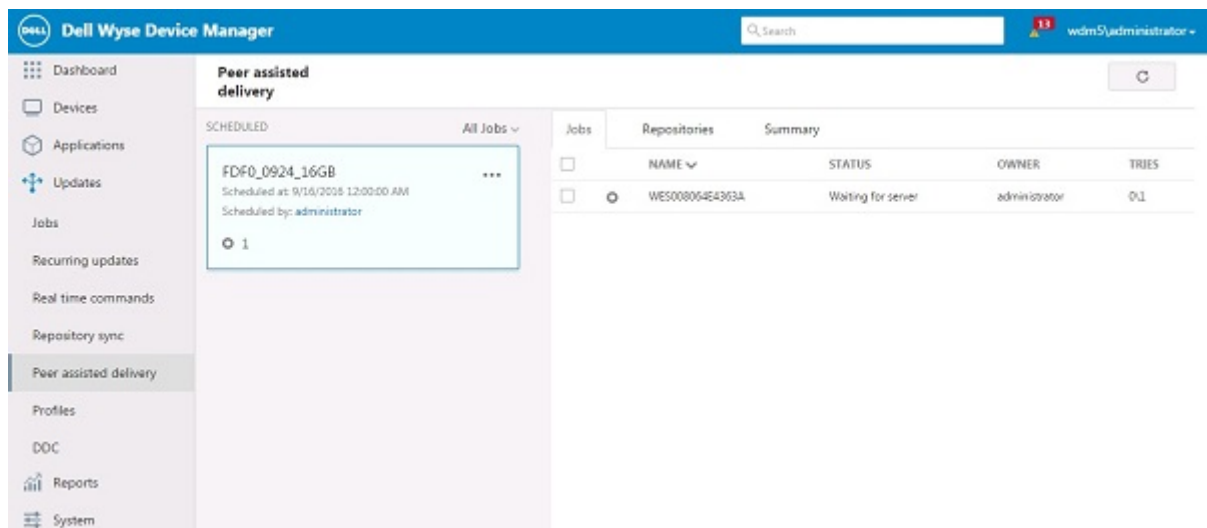


図 62. ジョブ

- 4 PAD イメージのアップデートプロセス表示するには、**Peer Assisted Delivery** (ピアアシスト配信) の下の **Summary** (サマリ) を選択します。

進捗状況が表示されます。

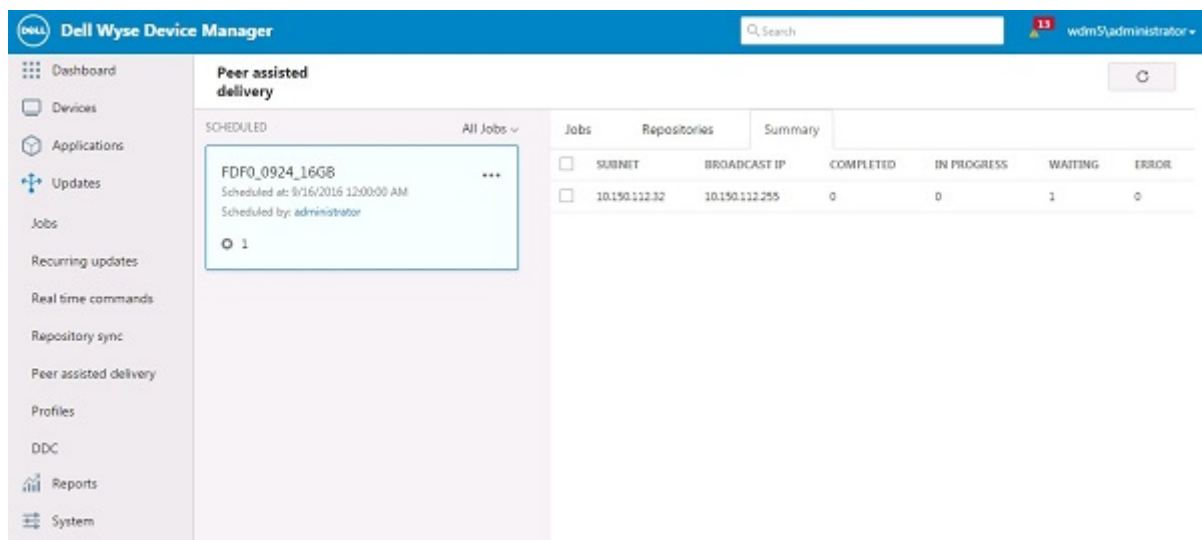


図 63. 概要

PAD スケジュールの編集および削除

WDM コンソールで PAD スケジュールを編集したり削除したりできます。

- 1 PAD スケジュールを編集するには、次の手順を実行します。
 - a WDM コンソールで、**Updates** (アップデート) の下の **Peer Assisted Delivery** (ピアアシスト配信) を展開し、**Jobs** (ジョブ) を選択します。
ジョブが表示されます。
 - b ジョブを選択し、表示される 3 つの点をクリックして、**Edit** (編集) を選択します。
Edit (編集) ウィンドウが表示されます。

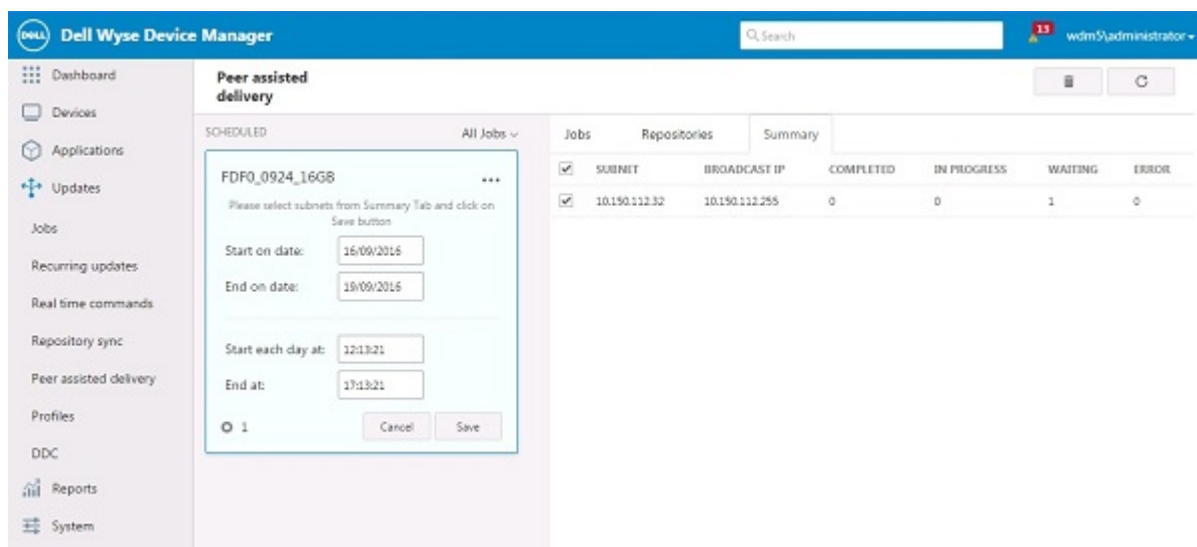


図 64. PAD 編集

- c 必要に応じて日付と時刻の範囲を変更し、**Save** (保存) をクリックします。

スケジュール済みのジョブに新しい日付と時刻が表示されます。

2 PAD スケジュールを削除するには、次の手順を実行します。

- a WDM コンソールで、**Updates**（アップデート）の下の **Peer Assisted Delivery**（ピアアシスト配信）を展開し、**Summary**（サマリ）を選択します。
スケジュールサマリが表示されます。
- b サマリを選択し、**Delete**（削除）タブをクリックします。
スケジュールが削除されます。

Wyse ThinOS

このパラメータは、WTOS INI ルートパスの表示に便利です。

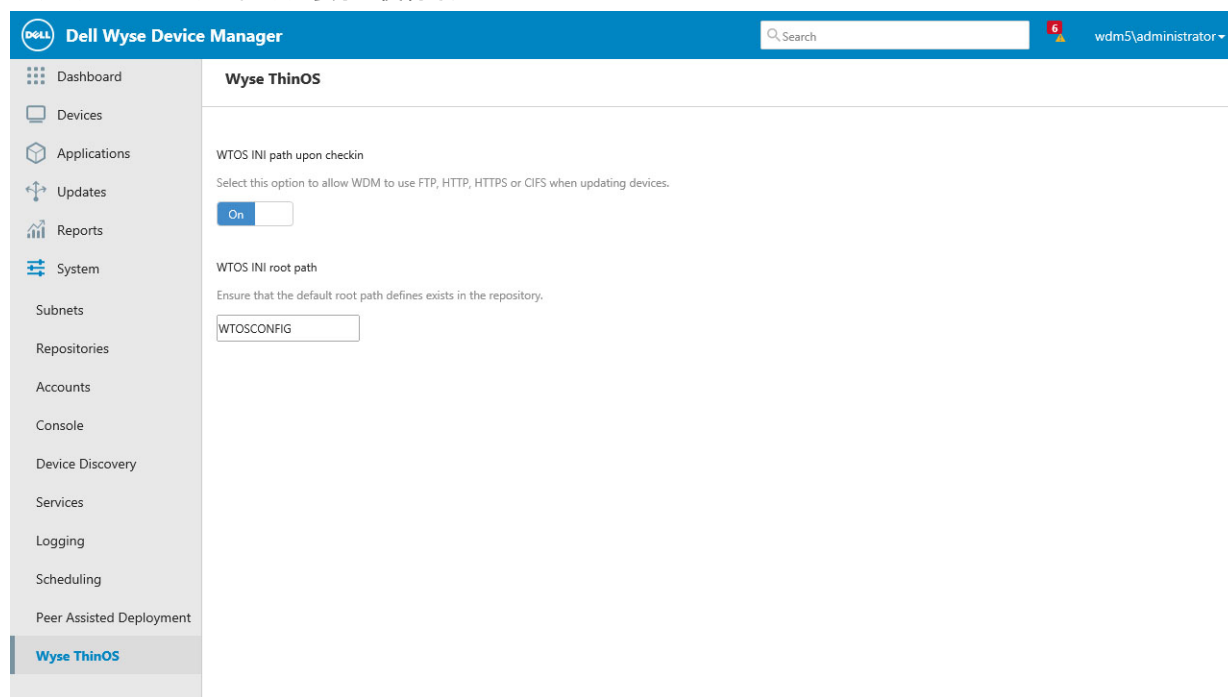


図 65. Wyse ThinOS

- **WTOS INI path upon checkin**（チェックイン時の WTOS INI パス）: デバイスのアップデート中に、WDM で FTP、HTTP、HTTPS、または CIFS を使用できるように選択します。
- **WTOS INI Root Path**（WTOS INI ルートパス）: WTOS INI ルートパスを入力します。

WDM を使用した Teradici デバイスの管理

前提条件：5.x ファームウェアをサポートする ThreadX を搭載した WDM サーバがインストール済みであることを確認してください。

本項では、デバイスを検出し、Wyse Device Manager (WDM) を含む管理サーバに登録するために必要なインフラストラクチャの変更について説明します。

サポートされているプラットフォーム：

次の Teradici ベースの Dell WYSE デバイスをサポートしています。

- VMware 用 Wyse 5030 ゼロクライアント
- Wyse 5050 AIO シンクライアント (PCoIP)
- VMware 用 Wyse 7030 ゼロクライアント

ファームウェアバージョン：

- 4.x
- 5.x

① **メモ：** 次の手順は、Windows 2012 R2 DNS に基づいています。正確な設定は、Windows のバージョンに応じて異なる場合があります。

トピック：

- [DNS_SRV レコードを作成する手順](#)
- [監視とトラブルシューティング](#)
- [ファームウェア 5.x の設定](#)
- [WDM からの ThreadX 4.x デバイスの threadx 5 へのアップグレード](#)

DNS_SRV レコードを作成する手順

ファームウェア 4.x は、DNS_SRV レコードまたは DHCP レコードを使用して管理コンソールを見つけてます。

① **メモ：** ファームウェア 4.x 管理コンソールを探すために DNS_SRV レコードと DHCP レコードを同時に使用しないでください。

このセクションで説明する手順は、主に DNS_SRV レコードに焦点を合わせています。DNS レコードは、クライアントが通信するように設定されているドメイン内の `_tcp_pcoip-tool` であり、設定は DNS サーバ上で実行する必要があります。

次の例では、ドメイン名は `delldemo.int` で、WDM サーバは `dell-wdm55.delldemo.int` です。

- 1 ドメインの下にある `_tcp` に移動し、右クリックして **Other new records** (その他の新しいレコード) を選択します。

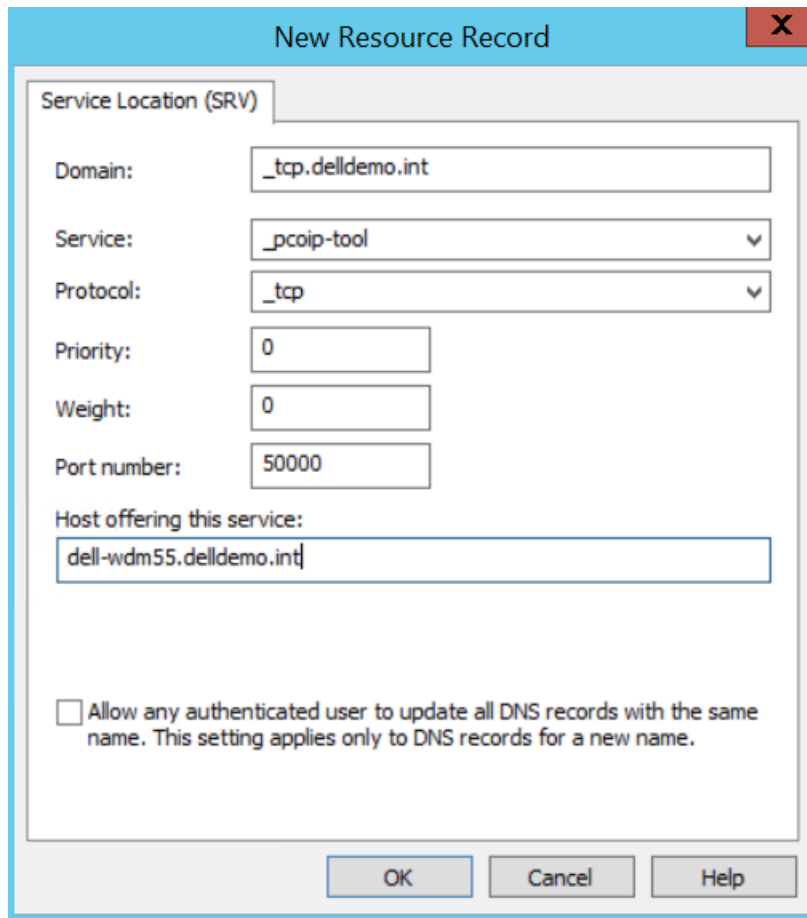


図 68. New Resource Record (新しいリソースレコード)

表 21. New Resource Record (新しいリソースレコード)

パラメータ	説明
Domain (ドメイン)	delldemo.int
Service (サービス)	_pcoip-tool
Protocol (プロトコル)	_tcp
Priority (優先順位)	0 (ゼロ)
Weight (重量)	0 (ゼロ)
Port Number (ポート番号)	50000
Host offering this service (このサービスを提供するホスト)	WDM サーバの名前または IP アドレスを入力します。

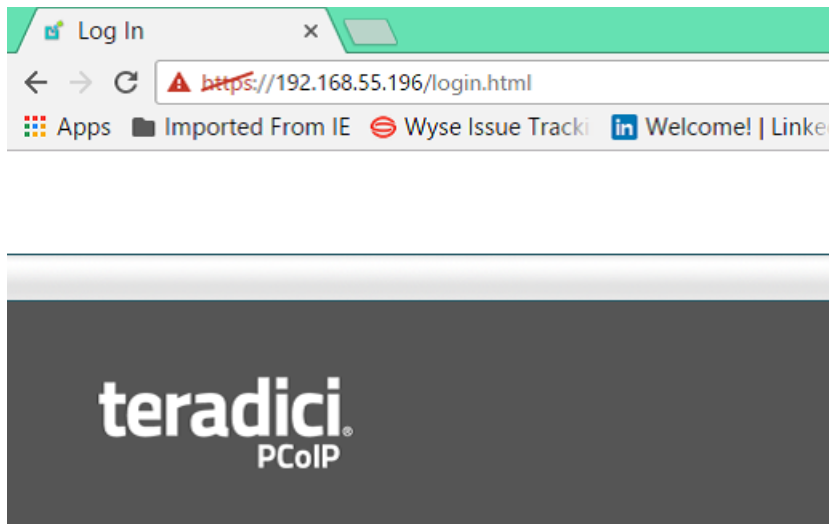
5 OK をクリックします。

① | **メモ:** 末尾の . は Windows によってホスト行に自動的に追加されます。

監視とトラブルシューティング

デバイスを監視する最も簡単な方法は、デバイスの Web UI とイベントログを使用することです。

- 1 ブラウザをデバイスの https://IP アドレスに接続します。
- 2 デバイスのデフォルトのパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは **Administrator** です。



Log In

Your session has ended. Please enter the administrative password to access this device

Password:

Idle Timeout:

図 69. ログイン

- 3 **Diagnostics** (診断) オプションを選択します。

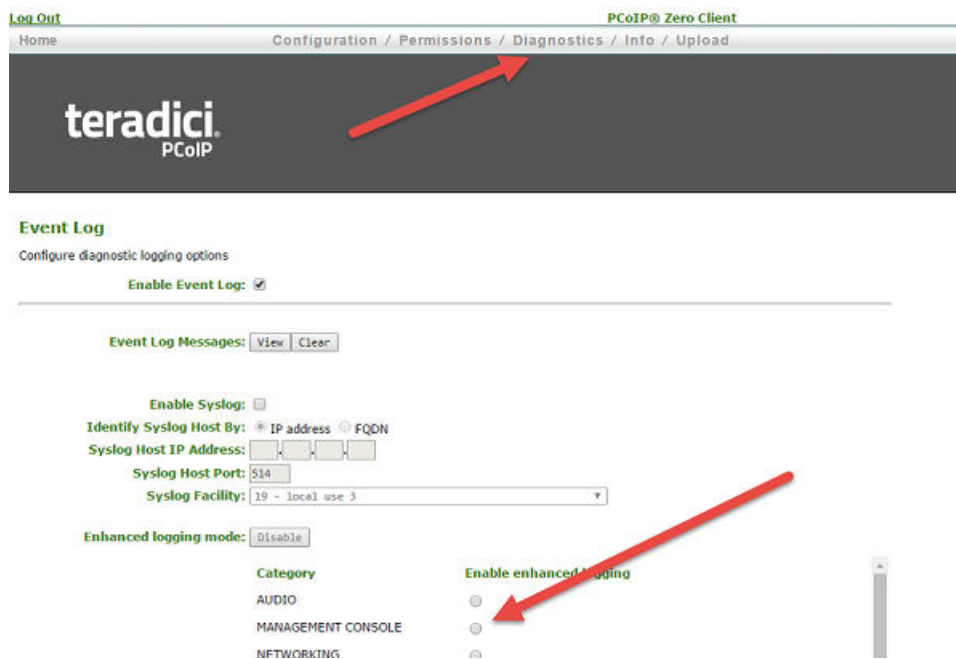


図 70. 診断

- 4 イベントログオプションを有効にして、診断ログオプションを設定します。

- 5 **Management Console** (管理コンソール) オプションのラジオボタンを選択します。
- 6 **View** (表示) オプションをクリックして、イベントログメッセージを表示します。

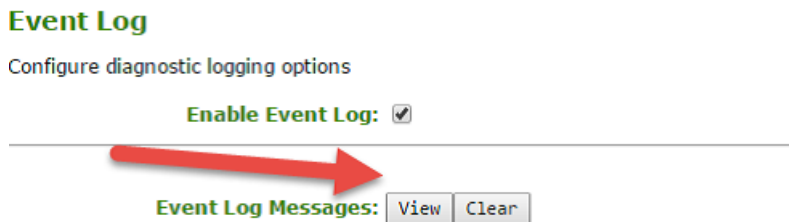


図 71. イベントログ

- 7 ログで、特に MGMT_DISC_DNS の DNS SRV 情報を検索します。この例では、dell-wdm55.delldemo.int という名前前で IP アドレスが 192.168.251.65 の適切に検出された目的の WDM サーバを検索します。

```

:00:24.66> LVL:2 RC: 0 MGMT_DISC_DNS :DNS based discovery prefix:
:00:24.66> LVL:2 RC: 0 MGMT_DISC_DNS :(DNS SRV) Discovery (domain): delldemo.int
:00:24.73> LVL:1 RC:-510 MGMT_DISC_DNS :conduct_dns_record_search: (DNS SRV: CHS) DNS record not found
:00:25.08> LVL:1 RC:-510 MGMT_DISC_DNS :conduct_dns_record_search: (DNS SRV: VCS) DNS record not found
:00:25.13> LVL:3 RC: 0 MGMT_SYS :(cmi_cms_boot_notify_cback): transmit_success: 1
:00:25.13> LVL:3 RC: 0 MGMT_SYS :(cmi_cms_boot_notify_cback): queuing EVENT_CMI_BOOT_NOTIFY_SUCCESS
:00:25.13> LVL:3 RC: 0 MGMT_SYS :INIT_CMS_NOTIFY_BOOT: transition 84 into CONNECT_PROMPT
:00:25.13> LVL:2 RC: 0 MGMT_UI :tera_mgmt_ui_set_session_state: STANDALONE
:00:25.13> LVL:2 RC: 0 MGMT_UI :tera_mgmt_ui_osd_display_main_dialog: CONNECT
:00:25.13> LVL:3 RC: 0 MGMT_SYS :Ready to connect with host
:00:25.13> LVL:3 RC: 0 MGMT_SYS :CONNECT_PROMPT.INIT: transition 150 into CONNECT_PROMPT.PENDING_UI_OR_CHS_PROMPT
:00:25.13> LVL:2 RC: 0 MGMT_UI :DISCONNECTED: transition 21 into DISCONNECTED (MSG_SESSION_STATE_CHANGED: STANDALONE)
:00:25.44> LVL:2 RC: 0 MGMT_DISC_DNS :(DNS SRV: Config Tool) Discovery complete: 192.168.251.65
:00:146.81> LVL:1 RC: 0 MGMT_UI :SUCCESSFUL web login from 192.168.55.253.
:02:149.66> LVL:3 RC: 0 MGMT_CHI :(env_cback): event: 0x8

```

図 72. ログ

- 8 管理コンソール (WDM) を確認して、デバイスが表示されていることを確認します。

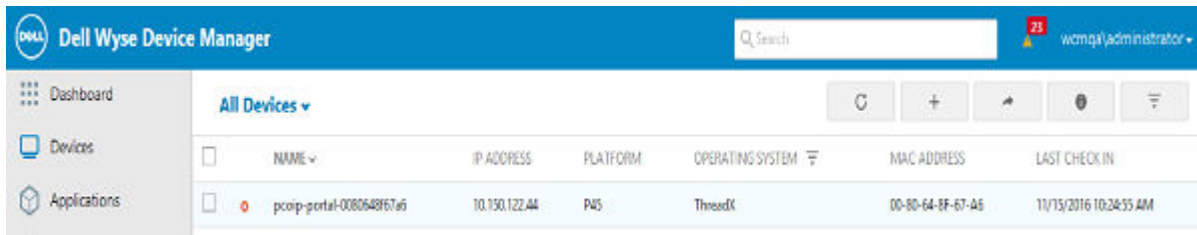


図 73. Dell Wyse Device Manager

① **メモ:** ファームウェア 4.x teradici には、デバイスの WDM への登録に関する通信の制限があります。ログに登録されたことが表示された後でも、デバイスがコンソールに表示されるまでに 15 ~ 30 分かかる場合があります。

ファームウェア 5.x の設定

ファームウェア 5.x では、管理コンソールで使用するための SSL 証明書のサムプリントを含むテキストレコードに加えて、DNS_SRV レコードを使用します。

WDM 5.7.3 は、豊富な機能を持つ Teradici 5.x ファームウェアをサポートします。

DNS_SRV レコードを作成した後、詳細について「DNS_SRV レコードを作成する手順」を参照し、次の手順を完了します。

- 1 最初に必要なレコードは、_pcoip-bootstrap の DNS_SRV レコードです。このレコードは、管理コンソール (WDM) の名前をポイントする必要があります。

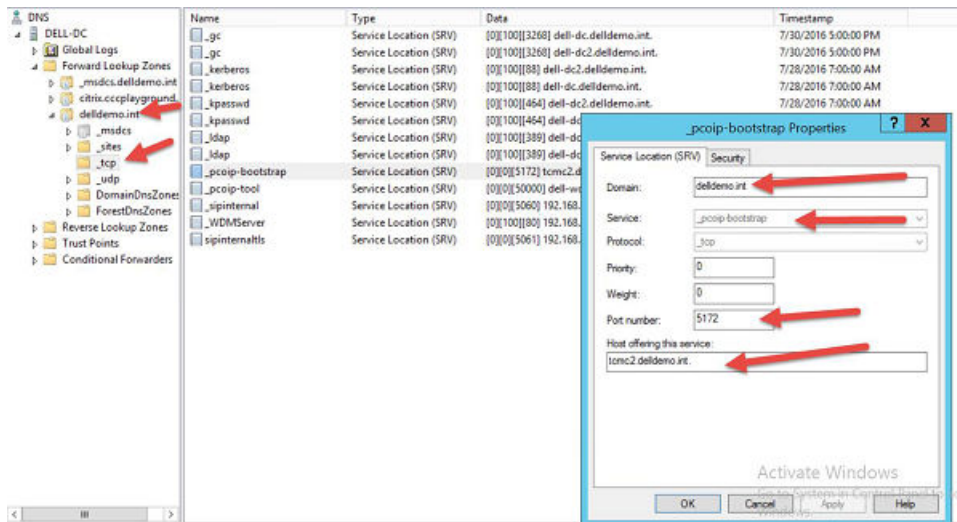


図 74. pcoip-bootstrap 用の DNS_SRV レコード

- 2 2 番目の必要なレコードは、**Host offering this service** (このサービスを提供するホスト) フィールドで使用されている名前を指しているレコードです。

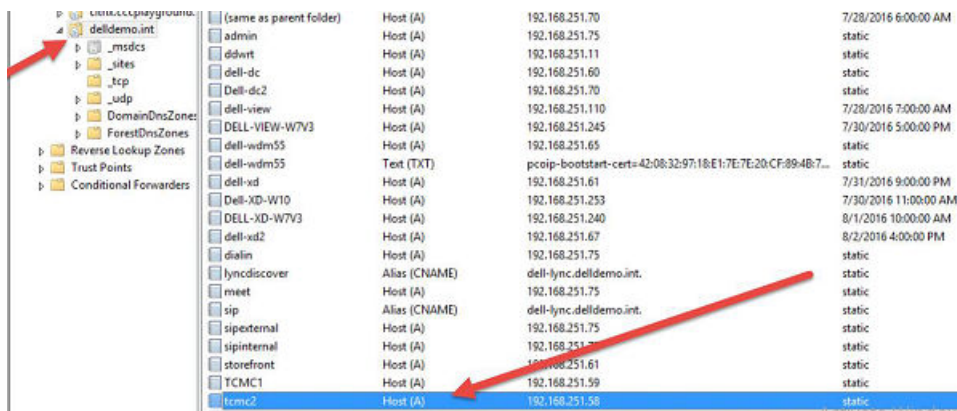


図 75. ホストレコード

- 3 3 番目の必要なレコードは、Txt レコードです。Txt レコードは、管理コンソールで使用されている SSL 証明書のサムプリントです。

ホストのレコードおよび Txt レコードを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ドメインノード (delldemo.int) をクリックし、**Other New Records** (その他の新しいレコード) を選択し、ホスト (A または AAAA) を選択します。この名前は、管理コンソールのレコードです。

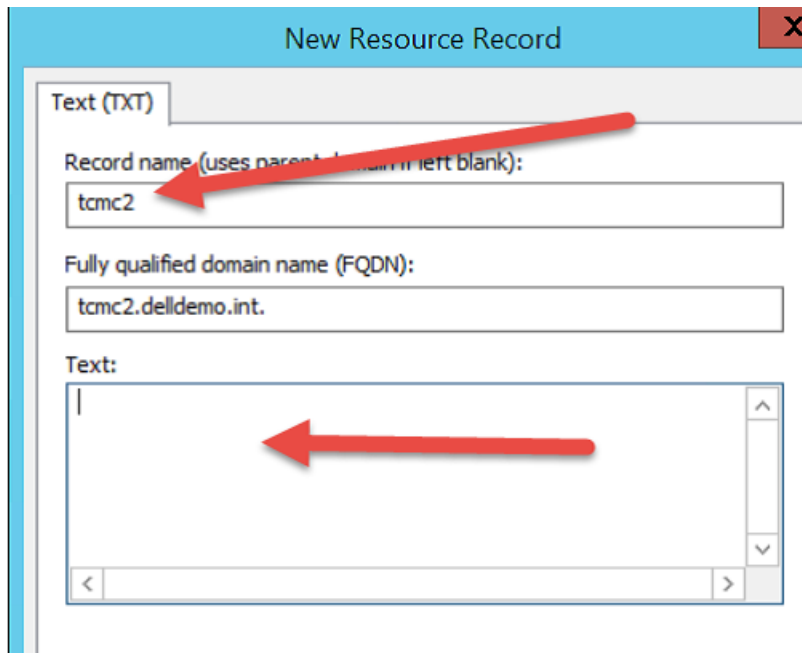


図 77. 新しいリソースレコード

Sha256 サンプルは Firefox ブラウザを使用して取得できます。

Wyse Device Manager (WDM) が Teradici 5x と共にインストールされているときにサンプルを取得するには、次の手順を実行します。

- 1 Teradici 5.x コンポーネントがインストールされているデバイスから Firefox ブラウザを開く必要があります。ブラウザを開いた後、**Alt + T** キーを押して、ツールを開きます。
- 2 ドロップダウンリストから、**Options** (オプション) を選択します。

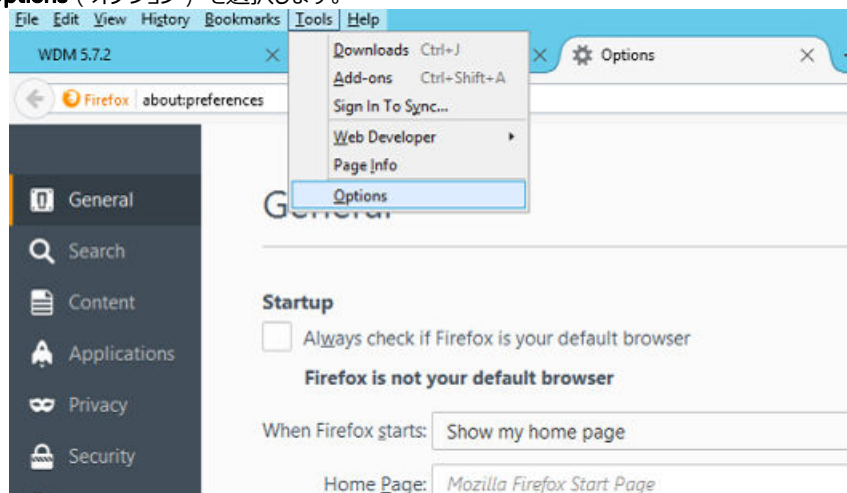


図 78. General (一般) タブ

- 3 **Options** (オプション) ページの左側のペインで、**Advanced** (詳細) タブをクリックし、**Certificates** (証明書) オプションをクリックします。

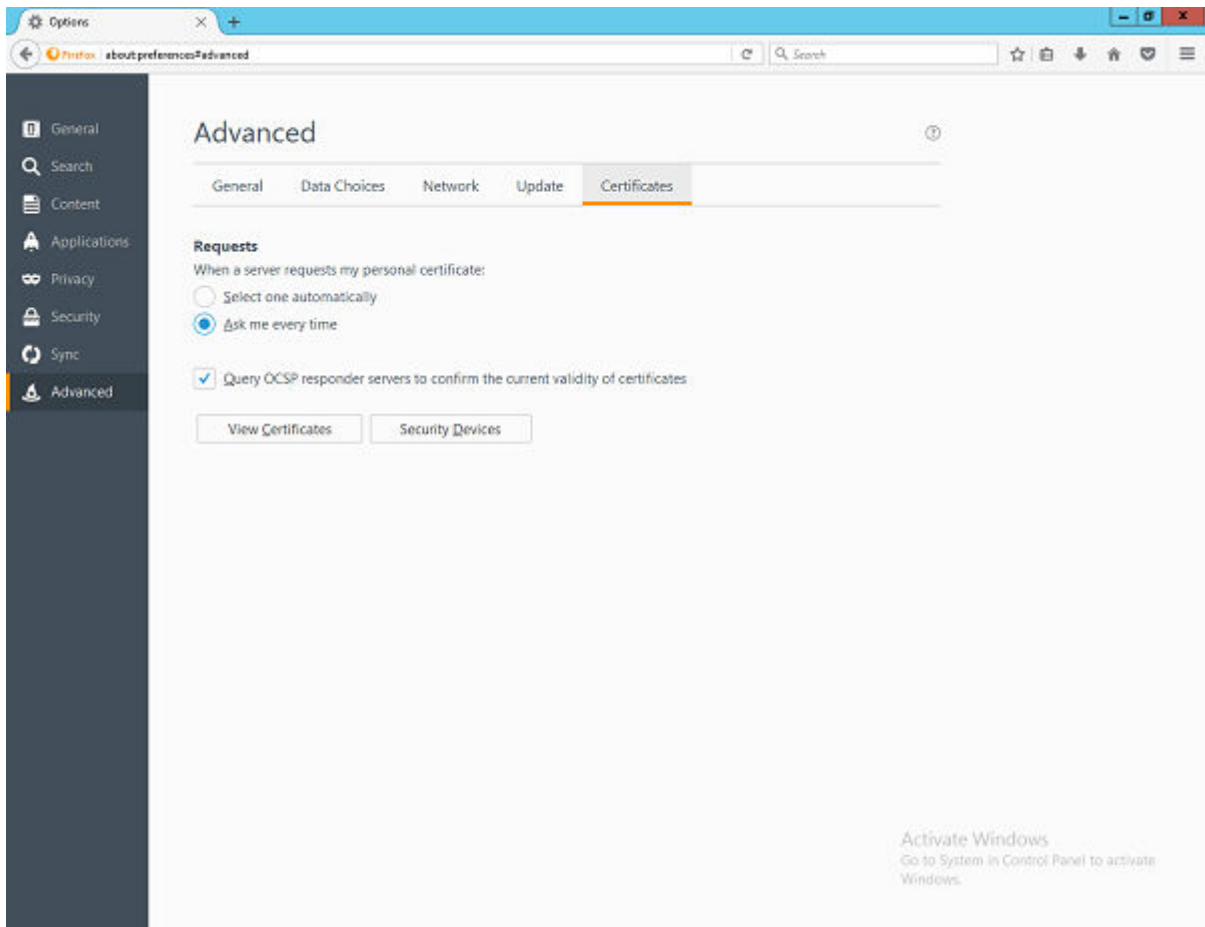


図 79. Advanced (詳細)

- 4 **View Certificates** (証明書の表示) をクリックし、Certificate Manager (証明書マネージャ) ウィンドウを開きます。
- 5 **Certificate Manager** (証明書マネージャ) ウィンドウの **Authorities** (権限) タブを選択し、**Import** (インポート) をクリックします。

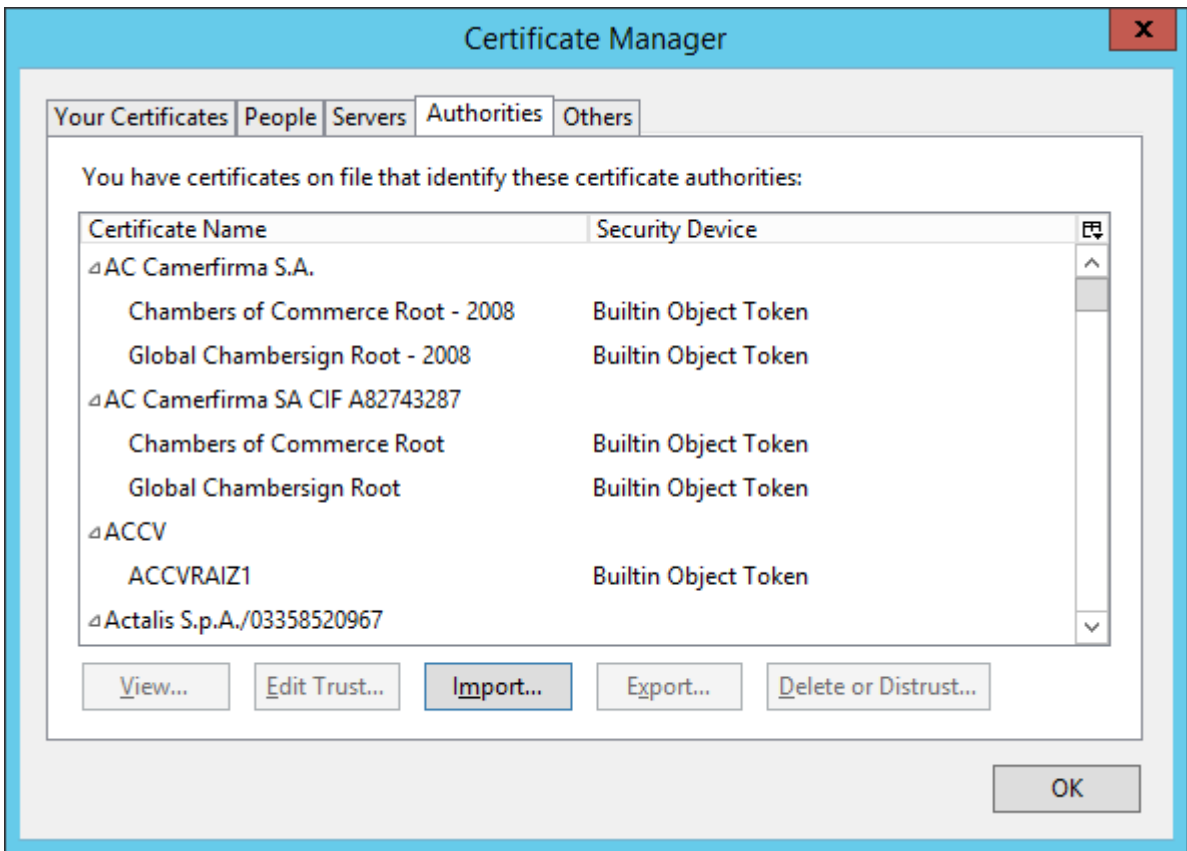


図 80. 証明書マネージャ

- 6 ファイルブラウザダイアログで、たとえば、\Wyse\WDM\TeraDici などの WDM がインストールされている場所へ移動します。ルートパスは、オペレーティングシステムとインストールパスに基づいて C:\program Files (x86) になります。
 - ① **メモ:** 一部のケースでは、Teradici コンポーネントがカスタマイズされた方法でインストールされている場合や手動で設定されている場合、上記の手順を同じデバイスで実行する必要があり、標準のインストーラのパスは適用されないことがあります。このような場合は、Teradici フォルダを使用できる対応するルートパスへ移動します。
- 7 **cert.pem** という名前のファイルを選択し、**Open** (開く) をクリックします。
- 8 **Downloading Certificate** (証明書のダウンロード) ウィンドウの **View** (表示) ボタンをクリックします。

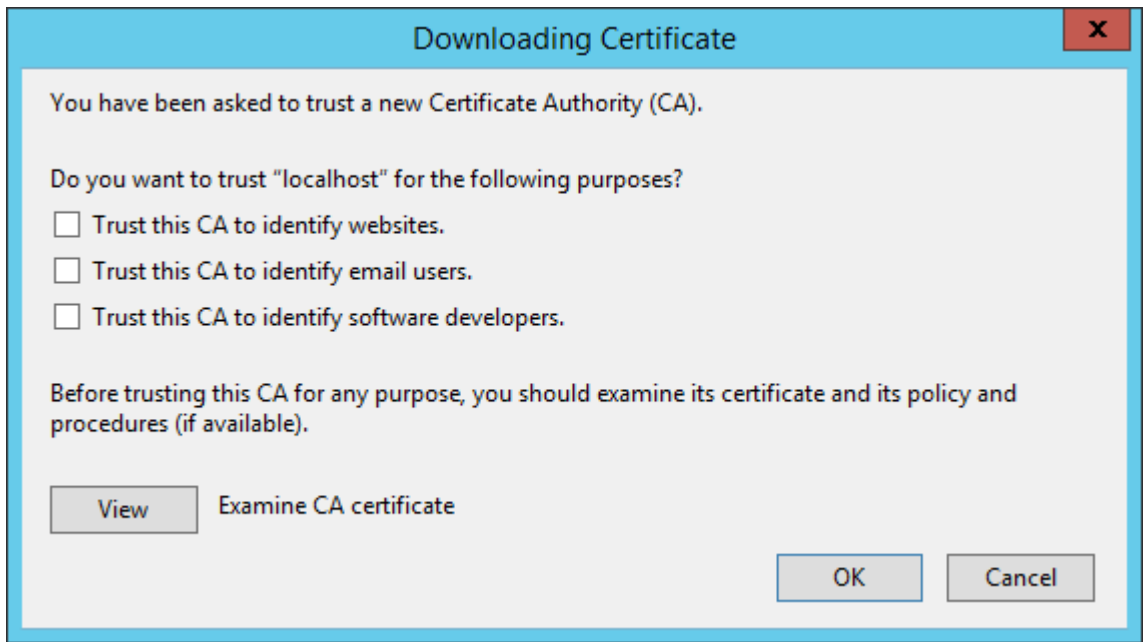


図 81. 証明書のダウンロード

- 9 sha256 指紋値をコピーします。**Close** (閉じる) をクリックして、firefox のすべてのウィンドウをキャンセルします。

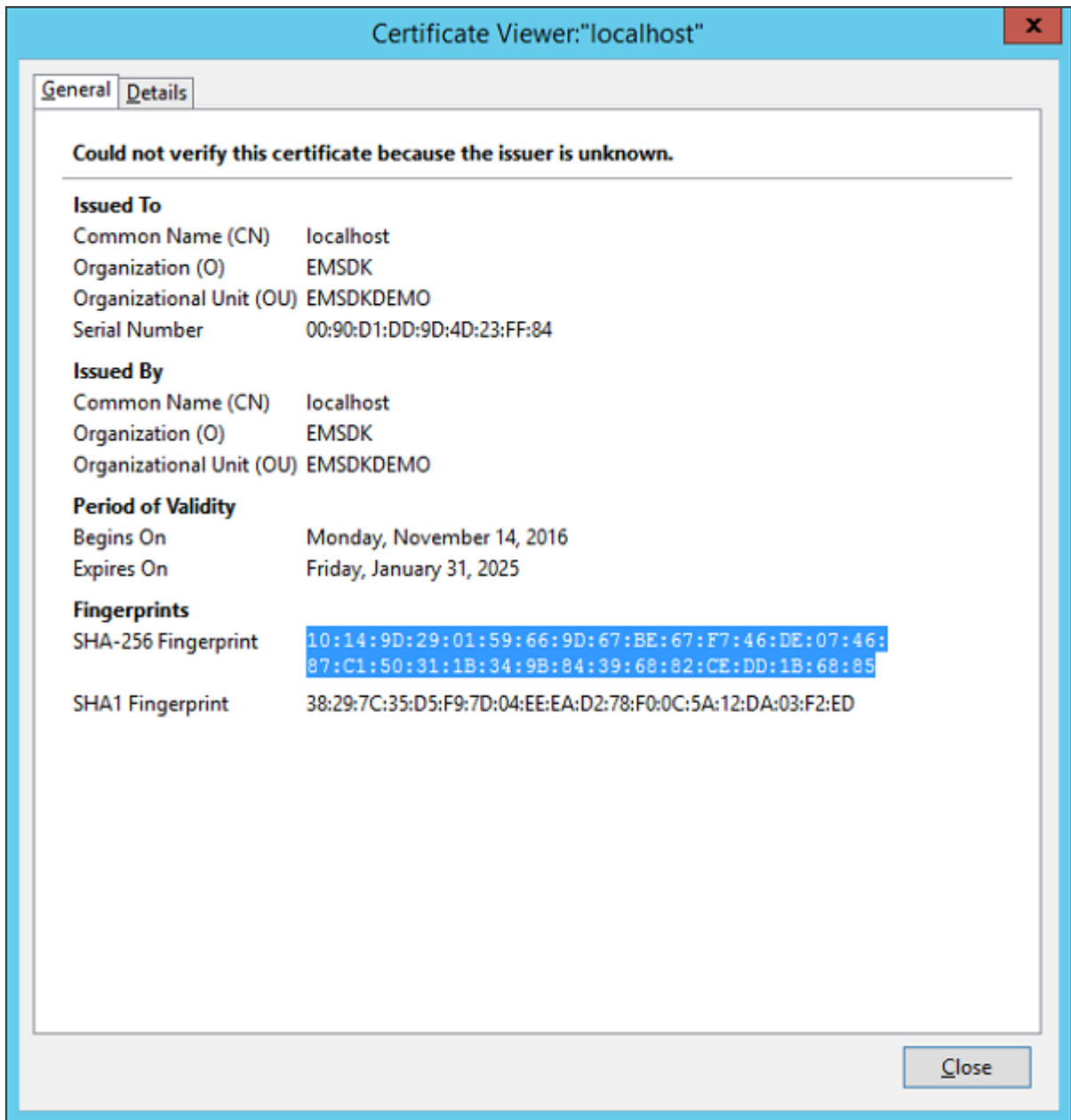


図 82. 証明書ビューア

① **メモ:** Text (テキスト) フィールドでは、すでに取得されている sha256 フィンガープリントに `pcoip-bootstrap-cert=` のプレフィックスを付ける必要があります。

証明書のフィンガープリントをコピーした後、DNS サーバで次の手順を実行します。

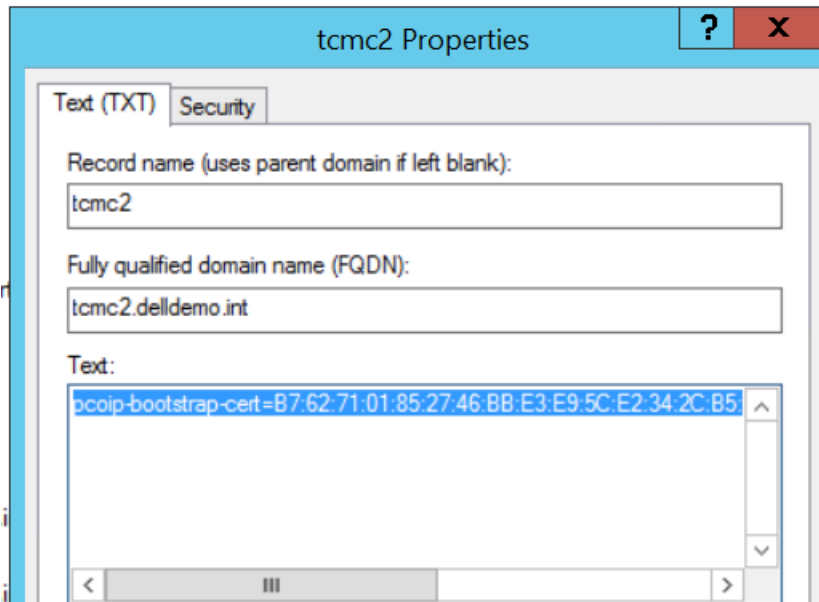


図 83. tcmc2 のプロパティ

10 4 番目と最後のレコードは、管理ホストの逆引き PTR レコードです。

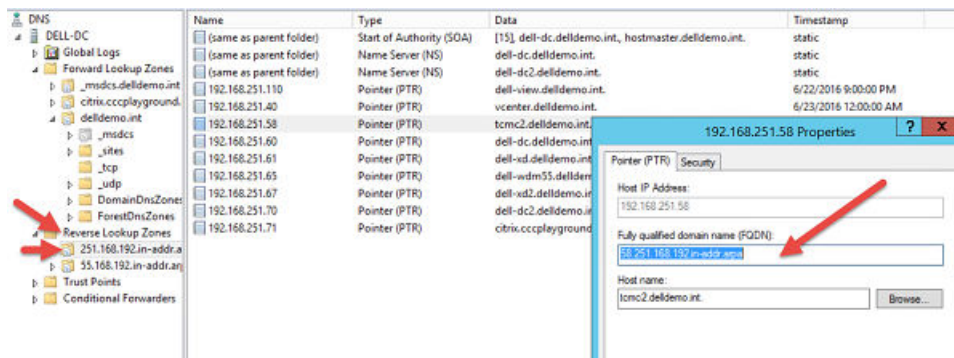


図 84. PTR レコード

11 ゾーンは、ホストが置かれているサブネットと一致する必要があり、レコードは管理コンソールに割り当てられている IP アドレスです。

12 DNS_SRV の設定が完了したら、ファームウェアのアップグレードについて、「WDM を使用した Teradici ファームウェアの 4.x から 5.x へのアップグレード」を参照してください。

WDM からの ThreadX 4.x デバイスの threadx 5 へのアップグレード

本項では、WDM から既存の ThreadX 4.x デバイスを ThreadX 5.x デバイスにアップグレード中に実行する手順を定義します。これは、新しい ThreadX 管理ソリューションを使用して、アップグレード後に WDM から ThreadX 5.x を管理し続ける上で役に立ちます。

以下は、WDM から ThreadX 4.x デバイスを ThreadX 5.x デバイスにアップグレードするための前提条件です。

- ThreadX 5.x の最近リリースされた **.rsp** パッケージ形式のファームウェアをアップグレードで使用できる。
- WDM サーバの FQDN を **DHCP** または **DNS** 設定で使用できる。
- Cert.pem を **WDM Installed directory > Wyse > WDM > Teradici** で参照できる。前の章で説明したようにサムプリントが DHCP オプション タグに追加された場合または DNS_SRV レコードを介して追加された場合、これは必要ありません。

① | **メモ:** 証明書パッケージの作成と ThreadX 4.x クライアントへの導入に Cert.pem を使用している。

ThreadX デバイスをアップグレードする前に、次のガイドラインを使用します。

- DNS SRV レコードを使用して ThreadX デバイスを検出する場合：[DNS SRV レコードの追加](#)
- 証明書を ThreadX 4.x デバイスに導入する場合：[ThreadX 4.x デバイスへの証明書の導入](#)
- ThreadX デバイスをアップグレードする場合：[ThreadX 5.x へのクライアントファームウェアのアップグレード](#)

ThreadX 4.x デバイスへの証明書の導入

ThreadX 4.x デバイスに証明書を導入するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM GUI を起動し、管理者権限で WDM にログインします。
- 2 **アプリケーション > PCoIP 構成パッケージ**に移動します。
- 3 [+] ボタンをクリックして **PCoIP 構成マネージャユーティリティ**をダウンロードします。
- 4 ダウンロードしたユーティリティを起動して、**バージョン 4.x** のラジオボタンを選択します。
- 5 **セキュリティオプション**をクリックして、証明書のチェックボックスにチェックを入れます。
- 6 **cert.pem** 証明書の内容を最初と最後の行を含めて（証明書の最初から最後まで）コピーします。
- 7 **cert.pem** の内容をテキストボックスに貼り付けます。
- 8 パッケージの名前と説明を各テキストボックスに入力します。
- 9 **登録** メニューをクリックして、設定を**保存**します。
- 10 WDM Web UI の **デバイス** ページに進み、チェックボックスを使用して希望のデバイスを選択します。
- 11 **update (アップデート)** ボタンをクリックして、**PCoIP 構成パッケージ**カテゴリから作成した構成パッケージを選択し、**save (保存)** をクリックします。
- 12 **ジョブ** ページに移動して、パッケージの導入が正常に完了したことを確認します。

クライアントファームウェアの ThreadX 5.x へのアップグレード

Teradici イメージのバージョン 5.x の導入

新しい WDM 5.7.3 証明書で更新されている、ファームウェアの 4.8.0 バージョンを実行しているゼロクライアントを更新する場合、またはクライアントのセキュリティモードが低い場合は、TDC のような古い OS タイプとともに、Teradici ファームウェアアップデートリポジトリサポートパッケージ（RSP）を作成する必要があります。これは、互換性のある 4.x バージョンから 5.x へのファームウェアのアップグレードに必要です。

RSP パッケージを作成するには、以下の手順を実行します。

- 1 [Teradici サポートサイト](#) にアクセスし、最新の ThreadX 5.x ファームウェアをダウンロードします。
- 2 次の内容のファイルを作成し、.rsp 形式でファイルを保存し、ファイルの *Number*（番号）の値をファイル名に指定します。

① | **メモ:** *Number*（番号）フィールドの値は、ファームウェアファイルの名前です。以下の例では、値は 522r5_2@39075.03b193e.5957929 です。

```
[Version]
Number=522r5_2@39075.03b193e.5957929
Description=PCoIP Tera2 Firmware Release 5.2.2 for P25, P45, and 5050 AIO
OS=TDC
ImageSize=0
ImageType=merlin
Category=Images
[Script]
RB
```

- 3 フォルダを作成し、.all ファイルを格納します。

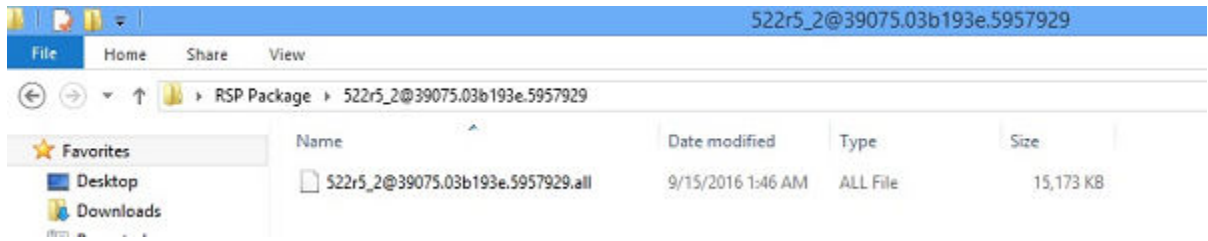


図 85. RSP パッケージフォルダ

- 4 フォルダ名を .rsp ファイルの *Number* (番号) の値に変更します。
- 5 .rsp ファイルをフォルダの外に置きます。

① **メモ:** .rsp ファイルのファイル名、パッケージフォルダ名、*Number* 値は同じである必要があります。

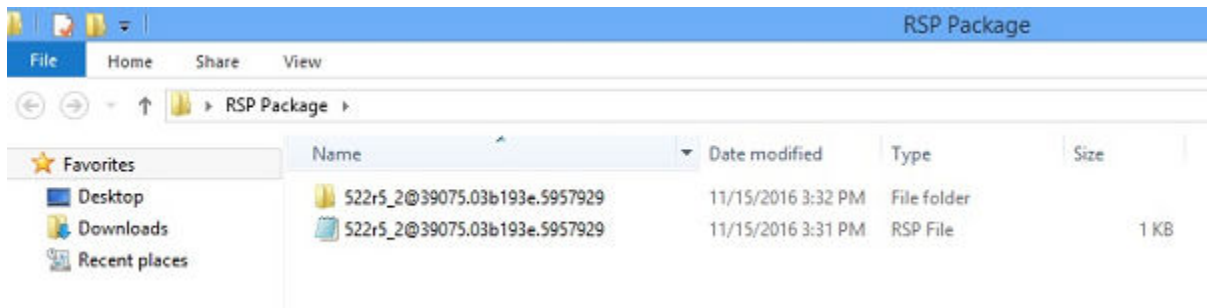


図 86. RSP パッケージフォルダ

「WDM の DDC を使用した Teradici イメージのバージョン 4.x ファームウェアから 5.x の導入」および「WDM で選択したデバイスを使用した Teradici イメージバージョン 5.x の導入」での説明のとおり、作成した RSP パッケージを WDM により導入します。その後、バージョン 5.x へのファームウェアアップグレードに成功し、WDM も ThreadX 5.x デバイスと認識すると、クライアントは 5.x デバイスとして WDM 内をチェックします。将来の 5.x ファームウェアアップデート RSP には、新しい OS タイプ TDC5 (OS タイプ=TDC5) が必要です。

① **メモ:** オペレーティングシステムタイプ (OS タイプ) TDC5 での RSP パッケージの導入など、ThreadX 5.x デバイス (WDM 互換 5.x ファームウェア搭載デバイス) のすべての管理機能は、WDM の Web UI でのみ導入できます。WDM のデスクトップバージョンでの利用はサポートされていません。

ファームウェアの導入用の WDM リポジトリと、ThreadX 5.x デバイス向けの WDM Web UI を使用した OSD ロゴに関する前提条件

OS タイプ TDC5 のファームウェアパッケージと ThreadX 5.x デバイス用の OSD (On Screen Display) ロゴを含むパッケージを導入する場合は、CIFS プロトコルを有効にして、WDM リポジトリからファイルをアップロードする必要があります。

ソフトウェアリポジトリの CIFS 接続テストが正常に実行されていることを確認します。CIFS 接続をテストするには、以下の手順に従います。

- 1 WDM Web UI を開いて、管理者としてログインします。
- 2 **System (システム) > Repositories (リポジトリ)** に移動します。
- 3 CIFS セクションで、**Check Connection (接続の確認)** リンクをクリックします。

CIFS

On

Connection OK

domain/hostname: WDM-IP82

share name: rapport

Username: rapport

Password:

Repeat Password:

図 87. CIFS

CIFS 接続をテストした後、**Rapport** FTP フォルダに以下のアカウントを追加し、WDM リポジトリが設定されているマシンへのアクセス許可を共有します。

- ThreadX 5.X コンポーネントがインストールされているサーバのシステムアカウント。
- WDM のインストールに使用するユーザーアカウント。

① **メモ:** リポジトリが別のサーバにインストールされている場合は、システムアカウントではなく **Threadx5.x** サーバのコンピュータアカウントを、ユーザーアカウントとともに追加します。

WDM リポジトリで使用可能な **Rapport** フォルダへのアクセス権を付与するには、以下の手順を実行します。

- 1 **ftproot** フォルダの場所に移動して、**Rapport** フォルダを見つけます。
- 2 **Rapport** フォルダを右クリックして、**Properties** (プロパティ) を選択します。
- 3 **Sharing** (共有) タブをクリックして、**Advanced Sharing** (詳細設定) をクリックします。

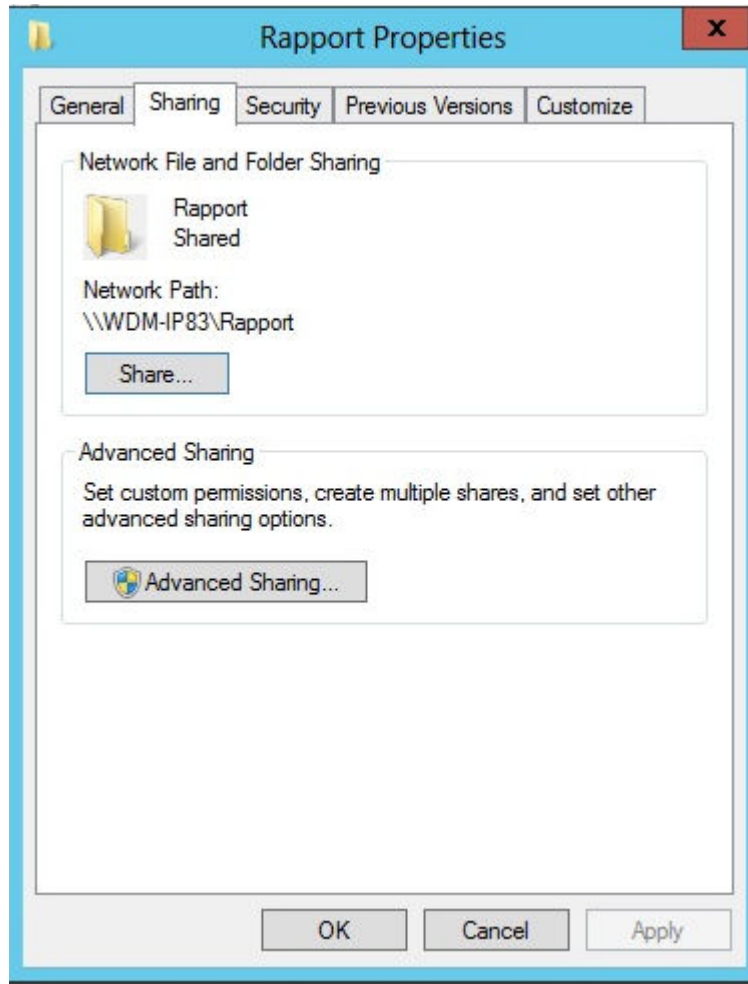


図 88. Rapport のプロパティ

- 4 **Advanced Sharing** (詳細な共有) ダイアログボックスで、**Permissions** (許可) をクリックします。

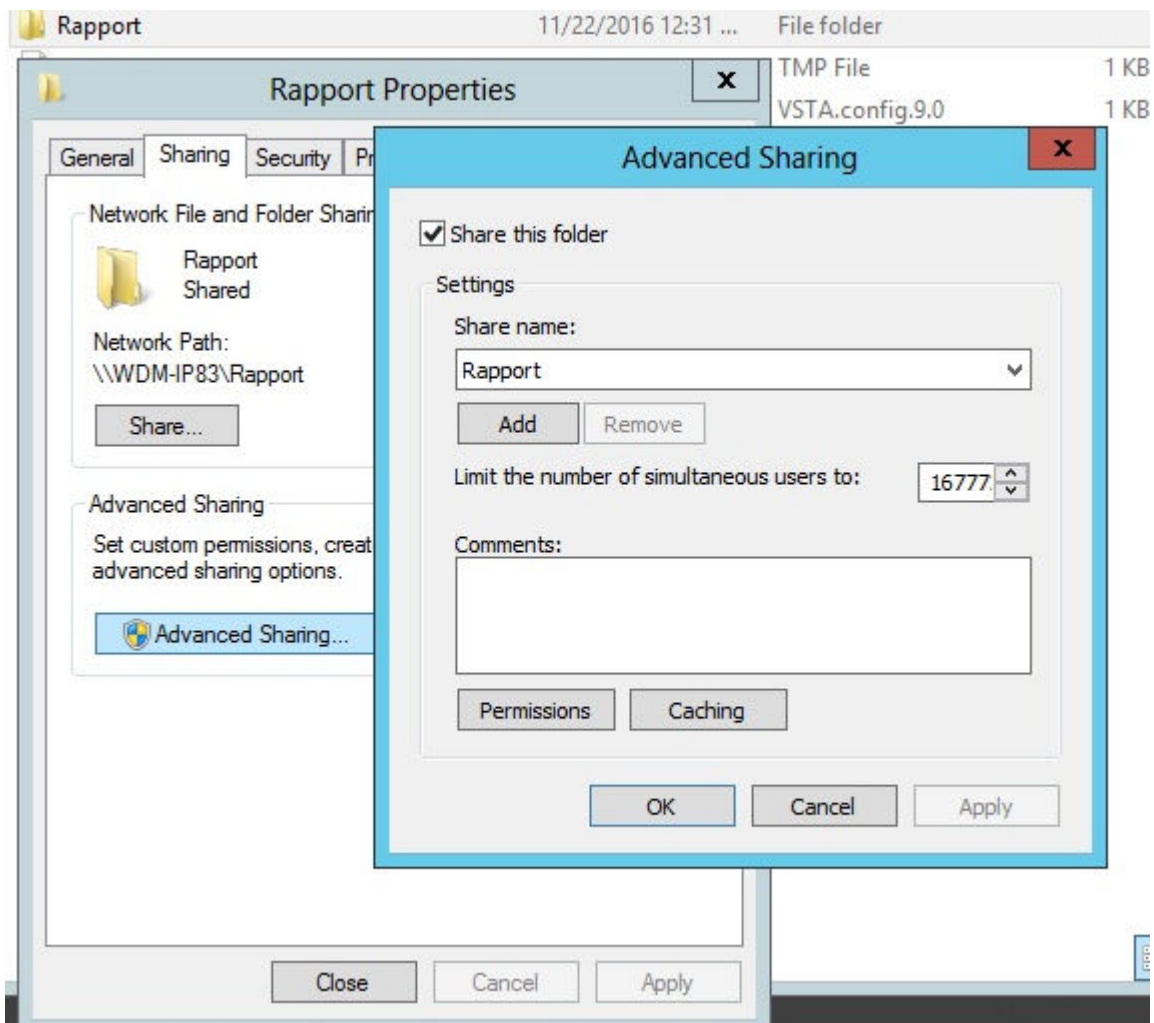


図 89. 詳細な共有

- 5 **Add** (追加) ボタンをクリックして、上記のユーザーにフルアクセス許可を与えます。

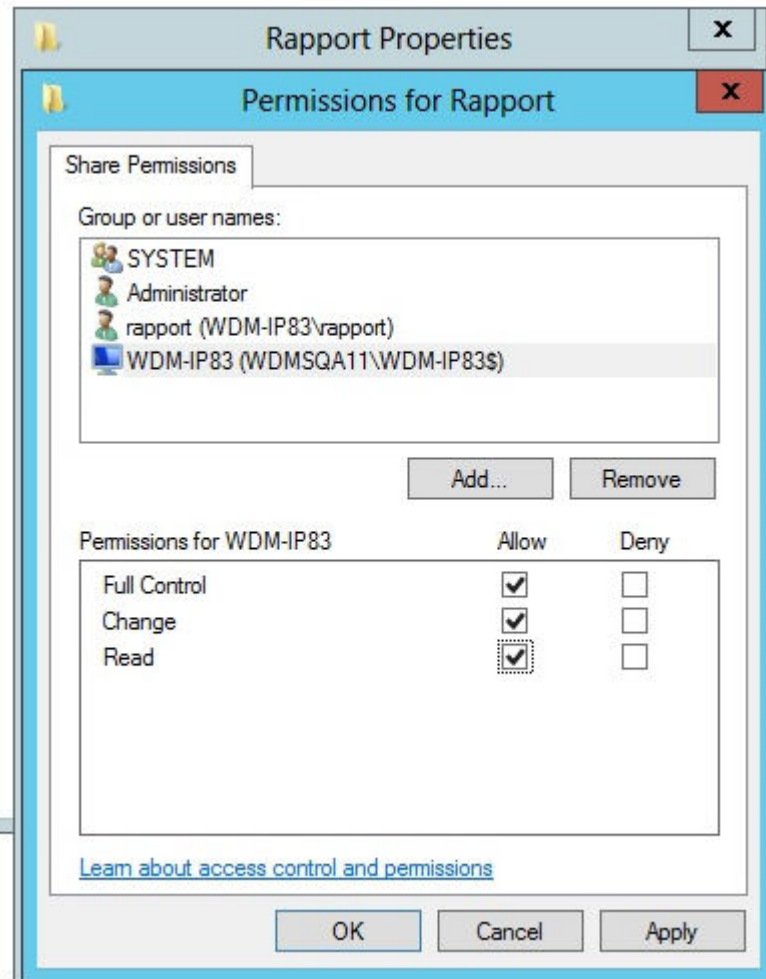


図 90. Rapport の許可

WDM で DDC を使用して、4.x ファームウェアから Teradici イメージバージョン 5.x を導入する

WDM で DDC を使用して、4.x ファームウェアから Teradici イメージバージョン 5.x を導入するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM Web UI を開いて、管理者としてログインします。
- 2 システム > コンソールに移動し、デフォルトのデバイス設定 (DDC) を有効にして、保存ボタンをクリックします。
- 3 アップデート > DDC に移動し、+ ボタンをクリックして、新しい DDC を追加します。
- 4 オペレーティングシステムの選択ドロップダウンリストから、ThreadX をオペレーティングシステムとして選択します。
- 5 メディアサイズの選択ドロップダウンリストから、希望するメディアサイズを選択します。
- 6 ドロップダウンリストから希望するビューを選択します。
- 7 **Add (追加)** をクリックして、グループに新しい DDC を含めます。
- 8 イメージドロップダウンリストから、登録されているイメージを選択します。
- 9 Packages (パッケージ) ドロップダウンリストから、登録されている証明書パッケージを選択します。
- 10 DDC の実行ドロップダウンリストから、デバイスのチェックインを選択します。
- 11 **保存** ボタンをクリックして、DDC を保存します。
- 12 **デバイス** ページに移動し、デバイス情報を更新します。デバイスが再起動し、ThreadX_5x デバイスとして自動的に WDM により検出されます。

WDM で選択したデバイスを使用した Teradici イメージバージョン 5.x の導入

WDM で選択したデバイスを使用して Teradici イメージのバージョン 5.x を導入するには、以下の手順を実行します。

- 1 WDM Web UI を開いて、管理者としてログインします。
- 2 **Applications (アプリケーション) > Images (イメージ)** にアクセスして、+ ボタンをクリックしパッケージ登録ユーティリティをダウンロードします。
- 3 パッケージ登録ユーティリティから **RSP** ボタンをクリックします。
- 4 **Browse (参照)** ボタンをクリックして、ThreadX 5.x ファームウェアパッケージを WDM にアップロードします。
- 5 WDM Web UI にもう一度移動し、**Devices (デバイス)** ページに移動します。
- 6 チェックボックスを使用してアップグレードが必要なデバイスを選択します。
- 7 **Update (アップデート)** ボタンをクリックして、イメージカテゴリから登録済みパッケージを選択します。
- 8 **Save (保存)** ボタンをクリックして、パッケージの導入をスケジュールします。パッケージが導入されます。
- 9 **Jobs (ジョブ)** ページに移動して、パッケージの導入が正常に完了したかどうか確認します。デバイスを再起動すると、WDM は自動的に ThreadX_5x デバイスとして検出されます。

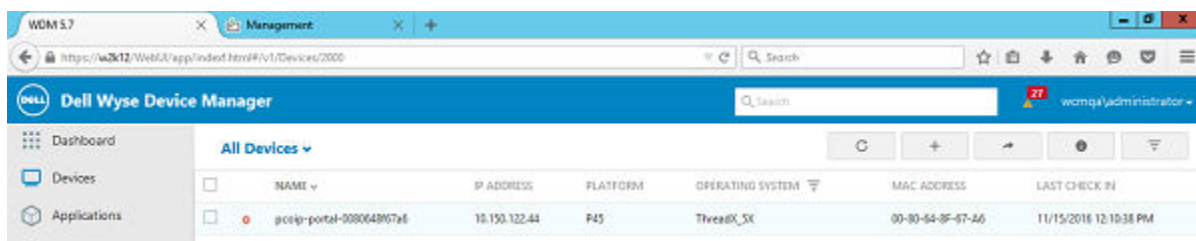


図 91. デバイス

- ① **メモ:** クライアントに 5.x ファームウェアが正常に導入された後、ThreadX5x デバイスとしてデバイスが WDM に表示されない場合は、「[ポート番号が原因で EMSDK の起動に失敗する](#)」を参照して、ThreadX 5x ソフトウェアコンポーネントのポートのコンフリクトを解決し、問題が解決されたかどうかを確認します。

トラブルシューティング

本項には、WDM のトラブルシューティング情報が記載されています。

トピック :

- デバイスの検出に関する問題
- PXE デバイスの検出に関する問題
- パッケージエラー
- Wake on LAN コマンドがリモートデバイスに到達しない
- ピアアシスト導入の問題
- プロファイルマネージャの問題
- リポジトリのトラブルシューティングのヒント
- T50 および WTOS エラーのトラブルシューティング
- WCM の問題のトラブルシューティング
- CIFS リポジトリが有効の場合パッケージのアップデートに失敗する
- PAD のイメージングとドラッグ & ドロップ機能が Linux デバイスで機能しない
- デフォルトのデバイス設定ではエクスポートされた画像が表示されない
- VNC ログが生成されない
- [今すぐアップデート] ウィンドウが WCM-Linux のユーザーに表示されない
- 引き出した画像を T50 デバイスに押し戻せない
- PCoIP 言語パッケージの導入に失敗
- デバイスが日本語の OS にチェックインしない
- バージョン 5.5 または MR から 5.7 への WDM のアップグレード後のアプリケーションの障害
- ThinOS デバイスによる WDM サーバへのチェックインの停止
- ローカライズされた WDM サーバ上の古い HAgent (6.3.2.54 以下) を持つデバイス検出での問題
- Web UI にログインページが表示されない
- Web UI へのログイン時の問題
- ポート番号が原因で EMSDK の起動に失敗する
- ドメインユーザーのログインおよび HApi ログのエラー
- デバイスページへのアクセスでの問題
- ThreadX 5.x デバイスでの OSD ログ設定またはファームウェアのプッシュエラー
- ThreadX 5.x デバイスのオフライン状態への移行
- 自動設定が機能しない場合に、Teradici クライアント管理コンソールを使用して、ThreadX 5.x デバイスを手動で設定する
- WDM ユーティリティを設定できない
- WCM、パッケージ登録、リモートシャドー、PCoIP を設定できない

デバイスの検出に関する問題

問題 : デバイスの検出に問題があります。

解決方法：以下を確認してください。

- 1 デバイスサービスが正しく実行されている
- 2 サーバサービスが正しく実行されている
- 3 デバイスサービスとサーバサービス間のパスが正しく実行されている (ping を使用)
- 4 サブネットと IP 範囲が正しく定義されている (サブネットまたは IP 範囲でデバイスの検出を試行している場合)

DNS_DHCP_Lookup ユーティリティを実行して、WDM サーバが到達可能かどうかを確認することもできます。

PXE デバイスの検出に関する問題

問題：PXE デバイスの検出に問題があります。

解決方法：以下を確認してください。

- 1 ポート 4011 がすべてのルーターで開いている
- 2 IP ヘルパーアドレスが定義され、WDM サーバを示している
- 3 WDM に検出された後に PXE デバイスを少なくとも 1 回再起動した (WDM が PXE デバイスとして認識する前に、検出後 PXE デバイスを少なくとも 1 回は再起動する必要があります)

パッケージエラー

問題：パッケージエラーを受信している。

解決方法：以下を試してください。

- 1 スクリプトの構文を確認する
- 2 スクリプト (*.rsp) を編集し、LU コマンド (対象デバイスで利用可能) を再マークアウトする
- 3 ネットワークスニファを使用する
- 4 WDM サーバの IP アドレスが変更されていないことを確認する
- 5 リポジット情報が正しいことを確認する
- 6 手動でファイルをリポジットに FTP 送信できることを確認する
- 7 無人インストールを実行できることを確認する
- 8 パッケージ構造が正しいこと (フォルダ = *.rsp name = scripts'NUMBER'value) を確認する

Wake on LAN コマンドがリモートデバイスに到達しない

問題：HServer がリモートデバイスに WOL コマンドを送信できません。

解決方法：UDP ポート 16962 のポート転送を有効にします。

ピアアシスト導入の問題

本項では、ピアアシスト導入に関する共通の問題または質問について説明します。

PAD に使用される HTTP アプリケーションが実行中で応答するかどうかの判断

PAD に使用される HTTP アプリケーションは、ブラウザからシステムに送信される V99 コマンドを受け入れます。HTTP アプリケーションから v99 コマンドへの応答は &00 になります。たとえば、HTTP アプリケーションが、次の URL 10.150.202.101 のシステムで実行され、ポート 9980 で待機している場合、V99 コマンドは次のようになります。

```
http://10.150.202.101:9980/v99
```

また、このコマンドの応答は次のようになります。

&00

① | **メモ:** システムは V99 コマンドに対して基本認証を使用しません。

HTTP アプリケーションの手動実行

HTTP アプリケーションを手動で実行するには、次の手順を実行します。

- 1 WDM をインストールしたシステムでコマンドプロンプトを起動します。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
Wyse-Http-server.exe -u < Username> -p <Password > -Po <Port number>
```

— **u** は基本認証のユーザー名、— **p** は基本認証のパスワード、— **po** は HTTP アプリケーションを実行しているポート番号です。

ピアデバイスはイメージファイルをダウンロードできません

ピアデバイスが **bios.img** または **cmos.img** ファイルをダウンロードできない場合は、ファイルが次のフォルダパスの下の PAD マスターデバイスで利用可能かどうか確認する必要があります。 **C:\Program Files\WDM**

WDM エージェントおよび WDM サーバ通信が PAD スケジュールに関連するかどうかの判断

PAD スケジュールに関連する WDM エージェントと WDM サーバ間のすべての通信には、要求または応答の一部として **1** に設定された PAD タグがあります。

プロファイルマネージャの問題

本項では、プロファイルマネージャで直面する問題とそのトラブルシューティングの手順を説明します。

プロファイルマネージャのパッケージの作成中に WCM アプリケーションが起動しない

これは、WCM アプリケーションまたはそのコンポーネントが破損しているか、インストールフォルダで使用できない場合に起こることがあります。

プロファイルマネージャのパッケージが導入されない

この問題のトラブルシューティングには、次の手順を実行します。

- 1 プロファイルマネージャがプリファレンスで有効になっているかどうか確認します。
- 2 プロファイルマネージャの導入が、クライアントシステムでサポートされているかどうか確認します。
 - a WDM コンソールのツリーペインで **デバイスマネージャ** ノードを選択します。
 - b 右側のペインで、パッケージを導入するデバイスを選択します。
 - c **デバイスプロパティ** ペインで **ハードウェア情報** タブをクリックします。
 - d **WCM サポート** フィールドは **True** に設定する必要があります。 **False** に設定されている場合は、クライアントがプロファイルマネージャパッケージの導入をサポートしていないことを示しており、クライアントで WDM エージェントをアップデートする必要があります。
- 3 まだ導入されていないスケジュール済みパッケージがないか確認します。パッケージが正常に導入されるまで待ちます。
- 4 **エラー** 状態のスケジュール済みパッケージがないか確認します。そのようなパッケージがあれば削除します。
- 5 導入する前に、クライアントが既にプロファイルマネージャパッケージでアップデートされていないか確認します。同じことを確認するには、プロファイルマネージャを異なる設定で別のパッケージを導入するように設定します。

リポジトリのトラブルシューティングのヒント

一般的なヒント：

リポジトリのテスト接続に失敗した場合は、次の設定がリポジトリの動作要件に従っていることを確認してください。

- リポジトリのユーザー ID とパスワードが正しいことを確認します。
- Rapport ユーザーにアクセスして、**Password never expires** (有効期限のないパスワード) オプションを確認します。
- リポジトリサーバの IP アドレス / ホスト名が正しいことを確認します。

転送タイプが FTP の場合のヒント :

FTP の場合にリポジトリのテスト接続に失敗した場合は、次の設定がリポジトリの動作要件に従っていることを確認してください。

- FTP サービスがアップして実行している。
- FTP サイトが作成されている。
- FTP サイトに、「標準」および「匿名」認証を持つすべてのユーザーのための「読み取り」および「書き込み」許可がある。
- コマンドプロンプトを使用して FTP への接続を試みます。
 - ftp <ip address> <userid>
 - パスワードを要求し、FTP ディレクトリに接続します。

転送タイプが HTTP の場合のヒント :

HTTP の場合にリポジトリのテスト接続に失敗した場合は、次の設定がリポジトリの動作要件に従っていることを確認してください。

- 仮想ディレクトリが存在することを確認します。存在しない場合は、次の手順に従って作成します。
 - タスクバーで、**Start (スタート) -> Administrative Tools (管理ツール) -> Internet Information Services (IIS) Manager (インターネット情報サービス (IIS) マネージャ)** をクリックして、**IIS Manager Window (IIS マネージャウィンドウ)** を開きます。
 - ツリーペインで、**Site (サイト) -> Default Web Site (デフォルト Web サイト)** を右クリックし、**Add Application... (アプリケーションの追加)** を選択して仮想ディレクトリの作成を開始します。
 - **Alias (エイリアス) (MyWDM などの仮想ディレクトリの名前)** を入力し、FTP のルートディレクトリ (例、c:\inetpub\ftproot) として **Physical path (物理パス)** を選択し、**OK** をクリックします。
 - **Site (サイト) -> Default Web Site (デフォルト Web サイト) -> MyWDM (マイ WDM VXC-M)** の順に選択し、Authentication (認証) をダブルクリックして Basic Authentication (基本認証) を選択し、Action (アクション) パネルから有効にします。
 - 仮想ディレクトリが設定されているかどうかを確認するには、ツリーペインで **Site (サイト) -> Default Web Site (デフォルトの Web サイト) -> MyWDM (マイ WDM VXC-M)** の順に選択し、右ペインで **Browse*:80(http)** (参照 *:80(http)) をクリックします。ブラウザ (IE) で ftp ディレクトリが開きます。
- IIS で次の設定を検索し、次の役割サービスがインストールされていることを確認します。
 - WebDAV パブリッシング
 - 基本認証
 - Windows 認証
 - IIS 管理コンソール
 - IIS 管理スクリプトおよびツール
- IIS に次の役割サービスがインストールされていないことを確認します。
 - 要求のフィルタリング
 - 静的コンテンツ圧縮
 - 動的コンテンツ圧縮
- アプリケーションプールリストの DefaultAppPool の詳細設定で、以下を確認します。
 - 全般セクションで、Enable 32-Bit Applications (32 ビットのアプリケーションを有効にする) が True に設定されていることを確認します。

- プロセスモデルセクションで、アイドルタイムアウト（分）が0（ゼロ）に設定されていることを確認します。

転送タイプが HTTPS の場合のヒント：

HTTPS の場合にリポジトリのテスト接続に失敗した場合、設定が正しいことを確認する手順は HTTP と同じです。HTTPS の場合：

- 1 IIS マネージャを起動して、**Default Web Site**（デフォルト Web サイト）を右クリックします。
- 2 メニューオプションで **Binding**（バインディング）を選択します。
- 3 **Site Bindings**（サイトバインディング）ウィンドウで、タイプに **https** が指定されているかどうか確認します。
- 4 デフォルトのポート番号が **443** として表示されていることを確認します。

転送タイプが CIFS の場合のヒント：

CIF の場合にリポジトリのテスト接続に失敗した場合は、次の設定がリポジトリの動作要件に従っていることを確認してください。

- **Rapport** フォルダが共有されている。
- **Rapport** フォルダに、**Everyone**（誰でも）または特定ユーザーに対する **Read**（読み取り）および **Write**（書き込み）許可がある。
- ホスト名 / ドメイン名、ユーザー名、パスワードを入力して共有フォルダにアクセスし、接続を試みます。

T50 および WTOS エラーのトラブルシューティング

T50 デバイスが WDM 5.0 にチェックインすると、セキュリティアラートメッセージが表示される場合があります。

Ubuntu T50 デバイスの場合は、次のメッセージが表示されます。

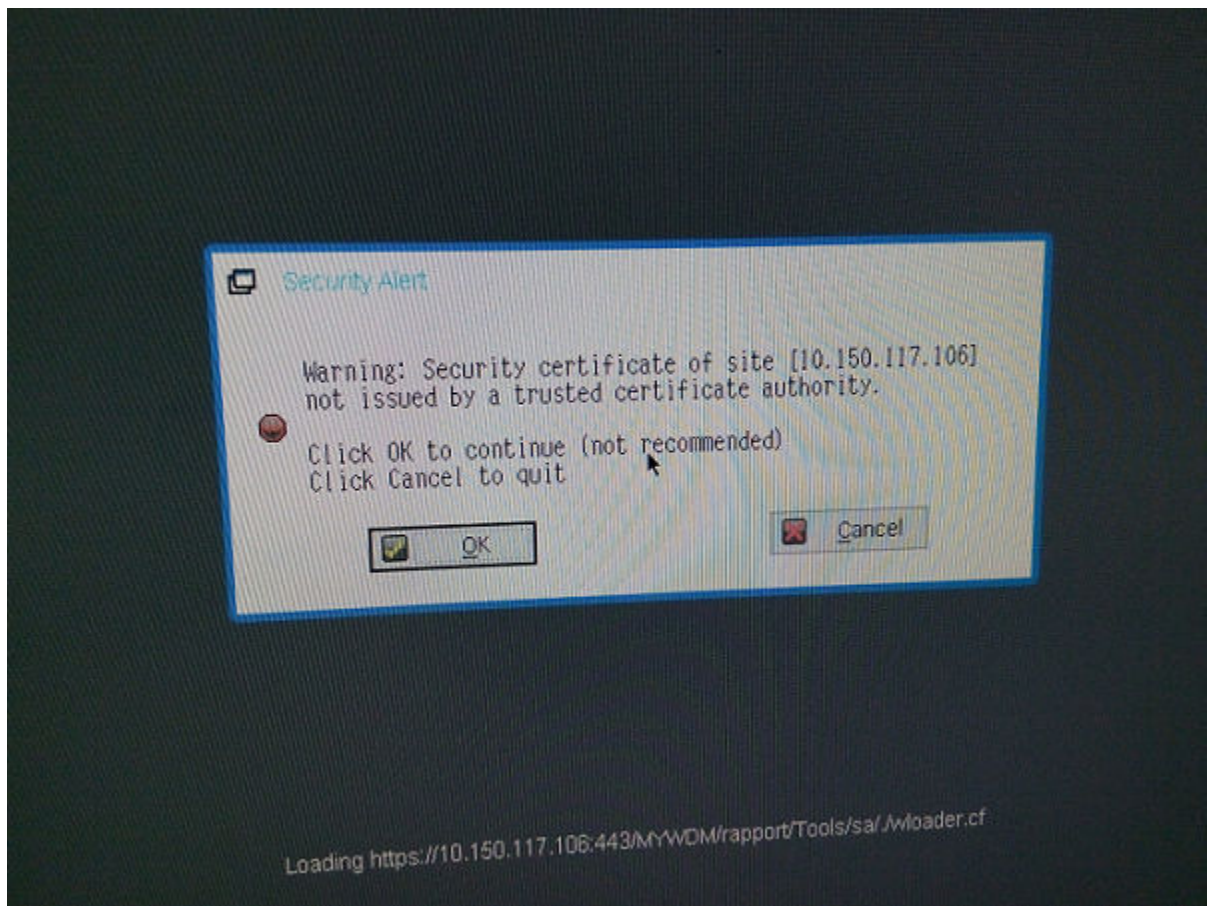


図 92. セキュリティアラート

OK をクリックして続行します。

WTOS デバイスの場合は、次のメッセージが表示されます。

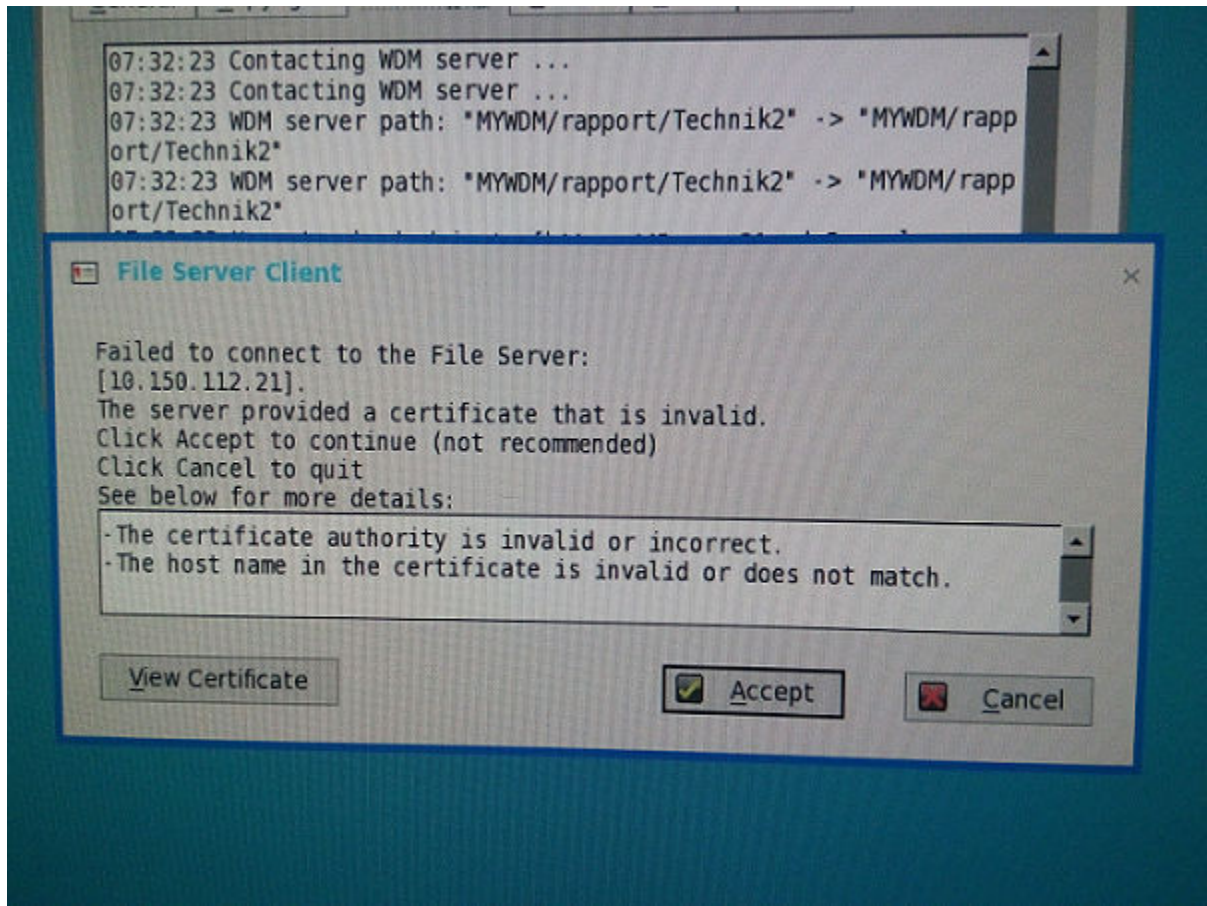


図 93. ファイルサーバクライアント

Accept (同意する) をクリックして続行します。

WCM の問題のトラブルシューティング

WDM から WCM を使用してデバイスに導入する構成ファイルを作成すると、次の問題に遭遇する場合があります。

すべての構成アイテムを選択し **configuration.xml** ファイルを作成すると、相対パスが XML ファイルから欠落します。この問題の解決方法は、WCM パッケージを作成するときにファイル名にスペースを入れないようにすることです。例えば、構成ファイルを **WCM Config** という名前にする場合、**WCM_Config** というようにする必要があります。

CIFS リポジトリが有効の場合パッケージのアップデートに失敗する

問題 : パッケージのアップデートのため CIFS リポジトリを有効にして、パッケージを一部の WES7、WES7P、WE8S、WES2009 デバイスに導入すると、パッケージのアップデートに失敗する可能性があります。これは、WDM エージェントが古く、CIFS プロトコルをサポートしない場合に起こる可能性があります。

解決方法 : パッケージのアップデートに失敗したすべてのデバイスで、WDM エージェントを入手可能な最新バージョンにアップデートする必要があります。

PAD のイメージングとドラッグ & ドロップ機能が Linux デバイスで機能しない

問題: HTTPS プロトコルがソフトウェアリポジトリで有効になっている WDM で Windows 認証を有効にすると、パッケージのドラッグ & ドロップ機能と PAD のイメージングが、MR3 ビルドと最新の WDM エージェントバージョン 5.3.06 搭載の SUSE Linux デバイスで機能しません。

解決方法: IIS マネージャで基本認証を有効にするか、ソフトウェアリポジトリでプロトコルを CIFS に変更します。

デフォルトのデバイス設定ではエクスポートされた画像が表示されない

問題: 引き出された画像をエクスポートして WDM で再登録すると、DDC ウィドウにその画像が表示されません。

解決方法:

- 1 .rsp ファイルがあるフォルダに移動します。
- 2 メモ帳でファイルを開き、次の変更を行います。

```
Command=%imageread% to Command=%imagewrite%
```

- 3 保存してファイルを閉じます。この画像を WDM コンソールで開くと、DDC ウィドウに表示されます。

VNC ログが生成されない

問題: FTP リポジトリを使用している時は、VNC ログが生成されない場合があります。

解決方法: ファイアウォールを無効にするか、特定のインバウンドルールを追加して VNC ログを生成する必要があります。

[今すぐアップデート] ウィンドウが WCM-Linux のユーザーに表示されない

問題: Linux デバイス用 WCM ファイルを押した直後に、[今すぐアップデート] ウィンドウがユーザーに表示されません。

解決方法: RebootQU が Linux デバイス用 WCM の設定と一緒にスケジュールされます。デバイスが部分的または完全チェックインを行う場合、または管理者がデバイスを手動で更新する必要がある場合に、この RebootQU を実行します。

引き出した画像を T50 デバイスに押し戻せない

問題: 引き出した画像を 8MB MICRON チップを持つ T50 デバイスに押し戻せません。

解決方法: .rsp ファイルから <wdmMessage><\wdmMessage> のタグを削除して引き出した画像を再登録します。

PCoIP 言語パッケージの導入に失敗

問題: PCoIP 構成パッケージ作成ツールを使用して作成した言語パッケージの導入に失敗しました。

解決方法: 接続管理インタフェースと VMware View サーバの両方の詳細が同時に提供されると、言語パッケージの導入に失敗します。これは、両方の設定が相互排他的であるためです。

デバイスが日本語の OS にチェックインしない

問題：デバイスの Hagent が 6.3.2.54 より古い場合、デバイスが日本語の OS にチェックインしません。

解決方法：Hagent を最新にアップデートし WDM サーバでデバイスを検出します (Hagent は 6.3.2.54 以上にしてください)。

バージョン 5.5 または MR から 5.7 への WDM のアップグレード後のアプリケーションの障害

問題：WDM をバージョン 5.5 または MR から 5.7 にアップグレードした後に WEB UI を起動すると、**Application not found** (アプリケーションが見つかりません) というエラーメッセージが表示されます。

原因：この問題は、アプリケーションプール ID が正しく設定されておらず、パスワードの期限が切れているか破損している場合に発生します。

解決方法：

- 1 IIS マネージャに移動します (Windows の下の Run (実行する) に inetmgr と入力します)。

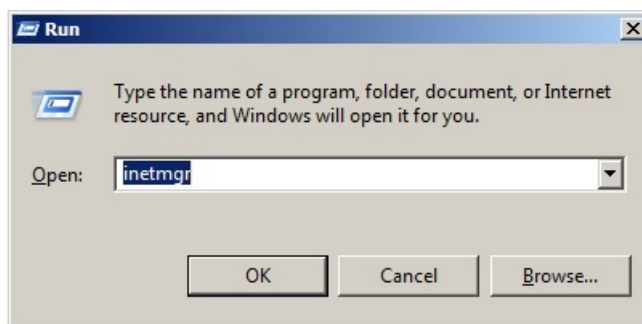


図 94. inetmgr

- 2 **ASP.NET v4.0** App プールに移動し、詳細設定を選択します。このトラブルシューティングを初めて実行する場合は、ID 値 (たとえば、`LINUXSERVER\administrator`) を書き留めておいてください。

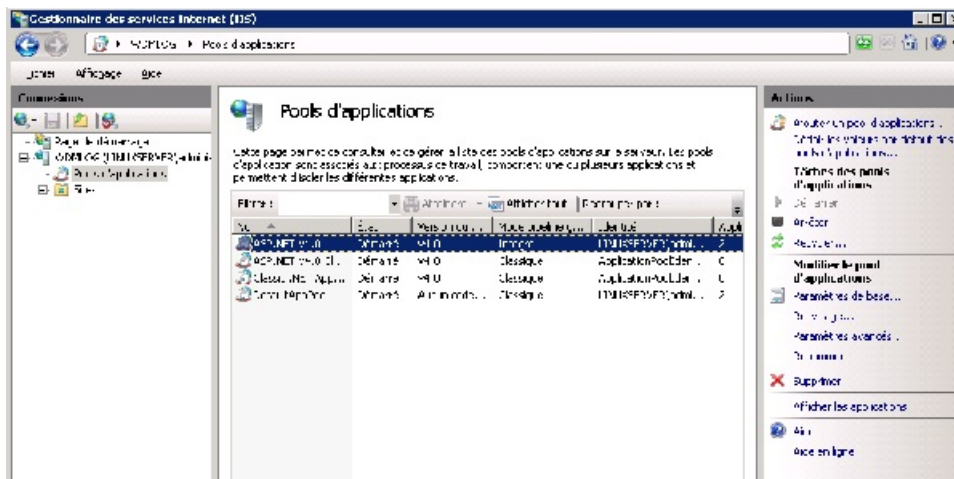


図 95. アプリケーション

- 3 ID プロパティを ApplicationPoolIdentity から変更します。

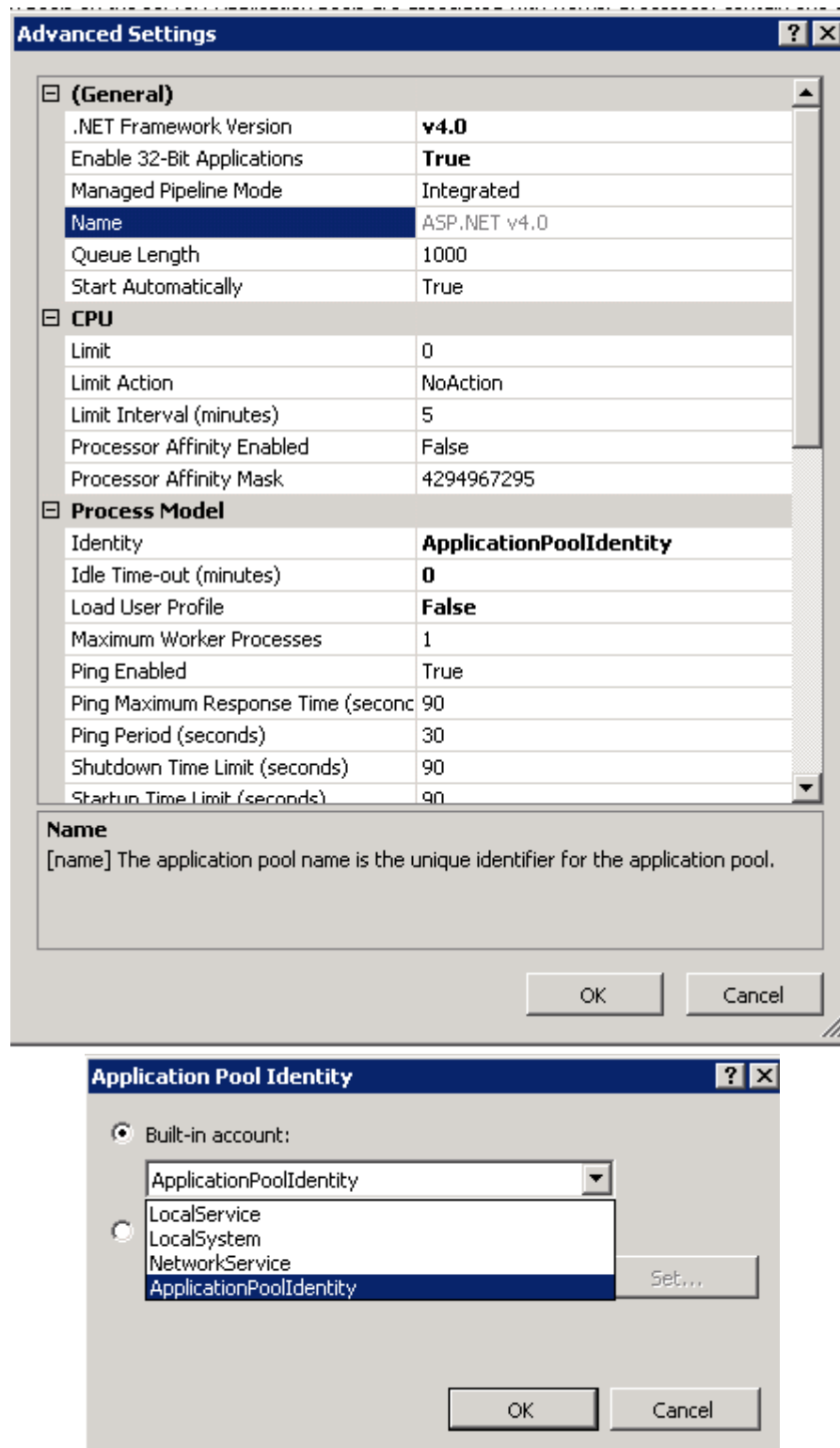


図 96. 詳細設定

- 4 設定を適用してアプリケーションプールを開始し、WDM Web UI を実行してアプリケーションが起動しているかどうか確認します。
 - アプリケーションのログイン画面が表示される場合は、手順 5 に従います。
- 5 次の手順 1 ~ 2 に従って、**ASP.NET v4.0** アプリプールの ID を元の設定に変更すると、パスワードを入力して確認するように求めるプロンプトが表示されます。パスワードを入力したら、設定を適用してアプリプールを開始します。これが実行されたら、Web UI を使用して開始します。

ThinOS デバイスによる WDM サーバへのチェックインの停止

問題：信頼できない証明書のため ThinOS デバイスが WDM サーバへのチェックインを停止し、その後管理することができません。

解決方法：これを機能させるためには、次の ini 設定をデバイスに送信する必要があります。

securitypolicy=low

デバイスに導入する手順：

- **ftp** ロケーションに **wnos** という名前のフォルダを作成します。
- **wnos** フォルダに **wnos.ini** という名前で ini ファイルを作成し、ini ファイルに **securitypolicy=low** のようなコンテンツを追加します。
- デバイスの端に **ftp** サーバのロケーションを提供します。
- デバイスは ini ファイルをダウンロードし設定を適用します。

ローカライズされた WDM サーバ上の古い HAgent (6.3.2.54 以下) を持つデバイス検出での問題

問題：ローカライズされた WDM サーバ上の古い HAgent (6.3.2.54 以下) を持つデバイス検出できません。

前提条件：ルールが **RequestFilteringModule** に追加されている場合は、以下の手順でルールをエクスポートする必要があります。

解決方法：

- 1 **IIS** (IIS) ルートをクリックします。
- 2 右ペインで **Module** (モジュール) を選択します。
- 3 **RequestFilteringmodule** を右クリックし、**Unlock** (ロック解除) を選択して続行します。
- 4 IIS の左ペインで **Rapport HTTP Server** (Rapport HTTP サーバ) を選択します。
- 5 右ペインで **Module** (モジュール) をダブルクリックして **RequestFilteringModule** を選択し、**Module** (モジュール) を削除して続行します。
- 6 **Rapport HTTP Server** (Rapport HTTP サーバ) を再起動します。
- 7 **Devices** (デバイス) を再起動しないと、エージェントが WDM サーバにチェックインします。
- 8 **HAgent** を使用可能な最新のパッケージにアップデートします。
- 9 **RequestFilteringmodule** を追加してこの手順を実行します。
- 10 **Rapport HTTP** サーバを選択して **Module** (モジュール) をダブルクリックし、**Revert** (元に戻す) を選択して右のメニューから戻します。
- 11 **RequestFilteringmodule** を選択し、**OK** をクリックして続行します。
- 12 **IIS Root** (IIS ルート) に戻って **Modules** (モジュール) を選択し、**RequestFilteringmodule** を右クリックして **Lock** (ロック) を選択します。
- 13 Rapport HTTP サーバを再起動します。

すべての手順が終了してから、ルールをモジュールにインポートします。

Web UI にログインページが表示されない

問題：IE ブラウザを使用して Web UI に接続している間は、最初のログイン画面が表示されず空白になります。

解決方法：ブラウザを更新してログインページを表示します。

Web UI へのログイン時の問題

問題：WDM サーバが Windows Server 2012 ドメインコントローラに参加している場合は、WDM Web UI にログインできません。

解決方法：2012 ドメインコントローラを伴う場合、**GetAuthorizationGroups()** 機能はデフォルトで追加されるグループ (SID) では機能しません。

KB2830145 を WDM サーバにインストールすることでこの問題を解決します。

ポート番号が原因で EMSDK の起動に失敗する

問題：EMSDK コンポーネントは、デフォルトでポート番号 49155 を使用して通信を行います。上記のポートが利用できず EMSDK が起動に失敗した場合は、ユーザーが手動でソフトウェアのインストールされたマシンのコンソールで実行されている EMSDK サーバを停止し、以下のファイルの使用可能なポート番号を割り当てます。

解決方法：

- 1 EDM ファイルがインストールされているプログラムファイルパス `\Wyse\WDM\Teradici\EMSDK` に移動して、ノートパッドで `emsdk.properties` ファイルを開き、フィールド `emserver.serverPort=49155` に 49159 などの使用可能なポート番号を割り当てます。
- 2 テキストエディタでファイル `C:\inetpub\wwwroot\ThreadXApi\Web.config` と同じファイルを開いて新しいポート番号を設定し、次のタグの下のポート番号に差し替えます。
 - `<appSettings><add key="EmSdkPort" value="49155" /></appSettings>`
- 3 マシンを再起動します。

ドメインユーザーのログインおよび HAapi ログのエラー

問題：ドメインユーザーのログインに失敗しました。次の HAapi ログエラーメッセージが表示されます。

グループの列挙中にエラー (1301) が発生しました。グループの SID を解決できませんでした。

解決方法：リンクから Microsoft ホットフィックスをインストールしてから WDM を使用してみてください。 www.support.microsoft.com/en-us/kb/2830145

問題：ユーザー認証情報の名前の前にマシン名を付けると、Web UI のログインでエラーが発生します。

解決方法：ユーザー名とログイン認証情報を入力します。

デバイスページへのアクセスでの問題

問題：デバイスページにアクセスする際に問題が発生します。ページにアクセスしようとすると、ログアウトされます。

解決方法：システムの cookie とキャッシュをクリアして、再度ログインしてみてください。

ThreadX 5.X デバイスでの OSD ログ設定またはファームウェアのプッシュエラー

問題 : OSD ログ設定、またはファームウェアのアップグレードのプッシュに失敗しました。

解決方法 : CIFS 用ソフトウェアリポジトリのテスト接続に成功していることを確認します。

アクセス許可を共有している Rapport フォルダに次のアカウントを追加します。

- ThreadX 5.X がインストールされているサーバーのシステムアカウント
- WDM のインストールに使用するユーザーアカウント

ユーザーにアクセス許可を与えるには、次の手順を実行します。

- 1 リポジトリから Rapport フォルダを右クリックしてプロパティを選択します。
- 2 **Sharing** (共有) タブをクリックします。
- 3 詳細な共有オプションに進み、**permissions** (アクセス許可) をクリックします。
- 4 追加ボタンをクリックして、上記のユーザーにフルアクセス許可を与えます。

ThreadX 5.x デバイスのオフライン状態への移行

問題 : ThreadX 5.x デバイスが検出の数日後にオフラインに移行してしまいます。

解決方法 :

- 1 IIS 管理コンソールにアクセスします。
- 2 アプリケーションプールに移動します。
- 3 ASP.NET v4.0 アプリケーションプールを右クリックして、**Stop** (停止) をクリックします。
- 4 ASP.NET v4.0 アプリケーションプールの詳細設定を右クリックします。
- 5 リサイクル セクションまでスクロールしてください。
- 6 **Regular Time Interval(minutes)** (定期的な間隔 (分)) の値を 0 に設定します。

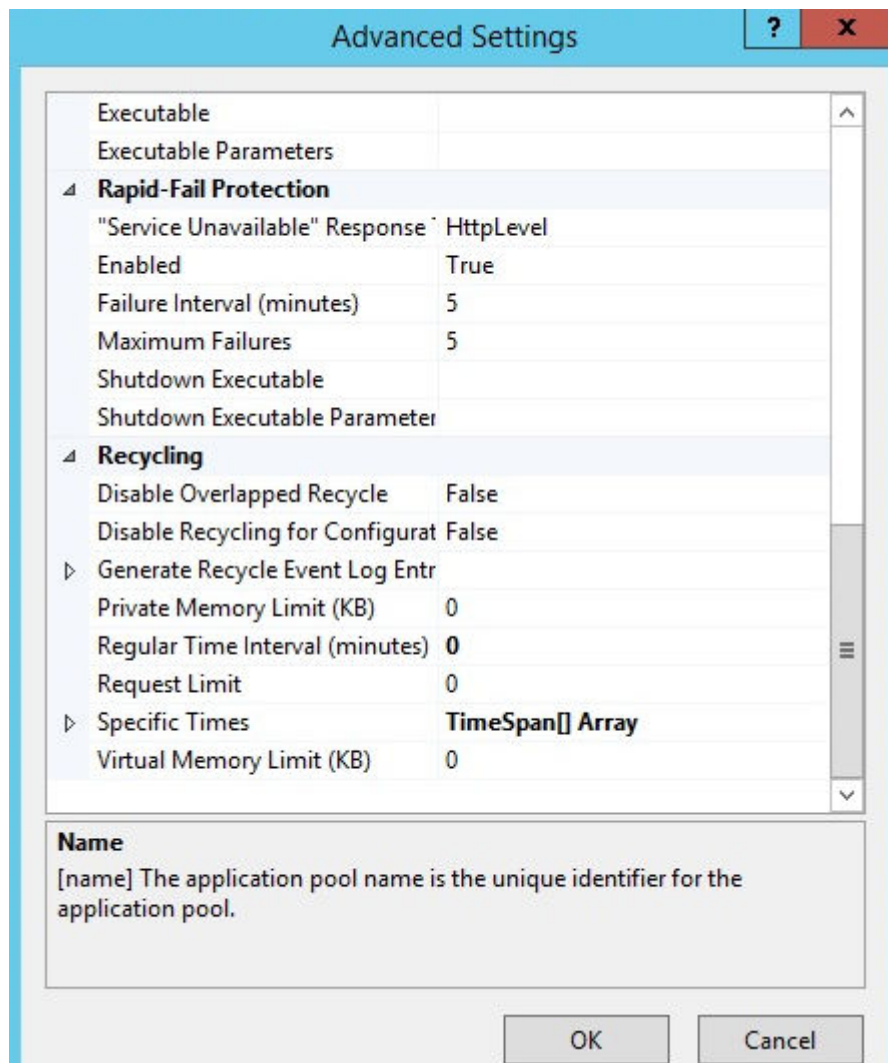


図 97. 詳細設定

- 7 ASP.NET v4.0 アプリケーションプールを右クリックして **Start** (スタート) をクリックします。

自動設定が機能しない場合に、Teradici クライアント管理 コンソールを使用して、ThreadX 5.x デバイスを手動で設定 する

前提条件：EMSDK と ThreadXApi がデバイスにインストールされ正常に動作していることを確認します。

- 1 ThreadX デバイスの管理コンソールで、**Upload Menu** (アップロードメニュー) > **Certificate** (証明書) の順に選択して、WDM がインストールされている <Wyse インストール先フォルダ>\WDM\TeraDici\cert.pem で、インストールされた証明書 **cert.pem** を参照します。ファイルを選択したら、**Upload** (アップロード) ボタンをクリックします。

① **メモ:** EMSDK サーバはクライアントがサーバへの接続を試みる際にクライアントからの証明書データを確認するため、**cert.pem** 証明書のアップロードは、クライアントが EMSDK サーバとの接続を確立するうえで重要です。証明書のデータに不一致があれば、サーバはデバイスからの接続要求を拒否します。

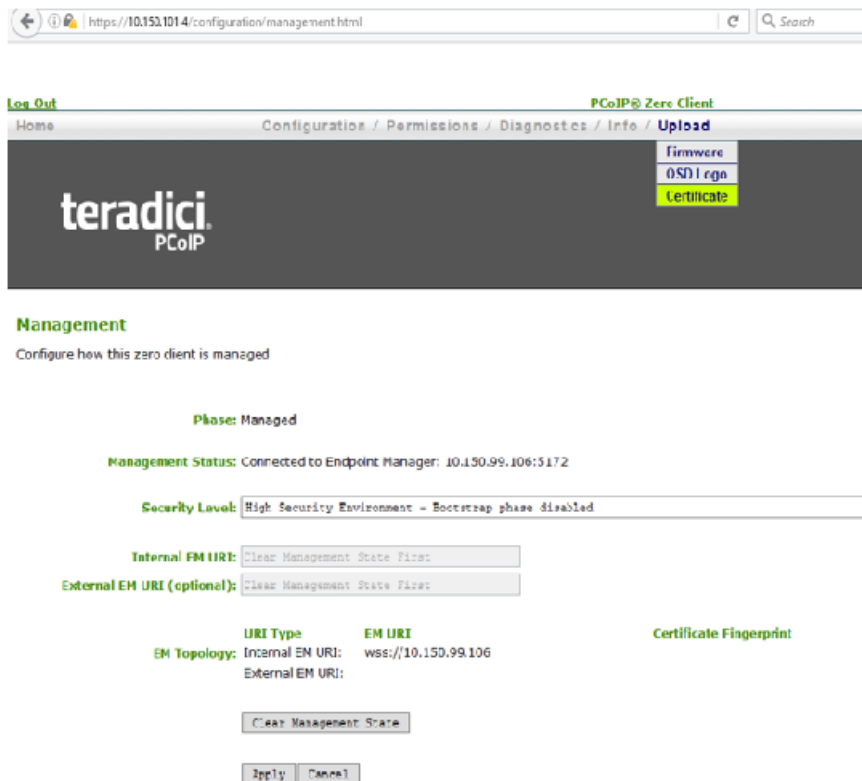


図 98. 証明書の設定画面

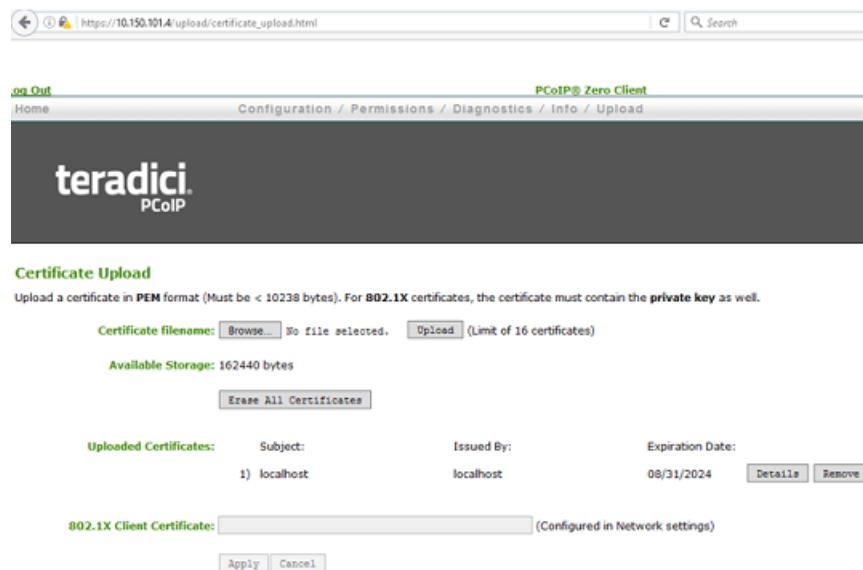


図 99. 証明書のアップロード画面

- 2 正常に読み込まれた証明書は、証明書のアップロードセクションにリストされます。
- 3 ThreadX デバイス管理コンソールの設定メニューで、**Management sub menu (管理サブメニュー) > Security Level (セキュリティレベル) > High Security Environment – Bootstrap phase disabled (高セキュリティ環境 - ブートストラップフェーズの無効化)** オプションを選択します。

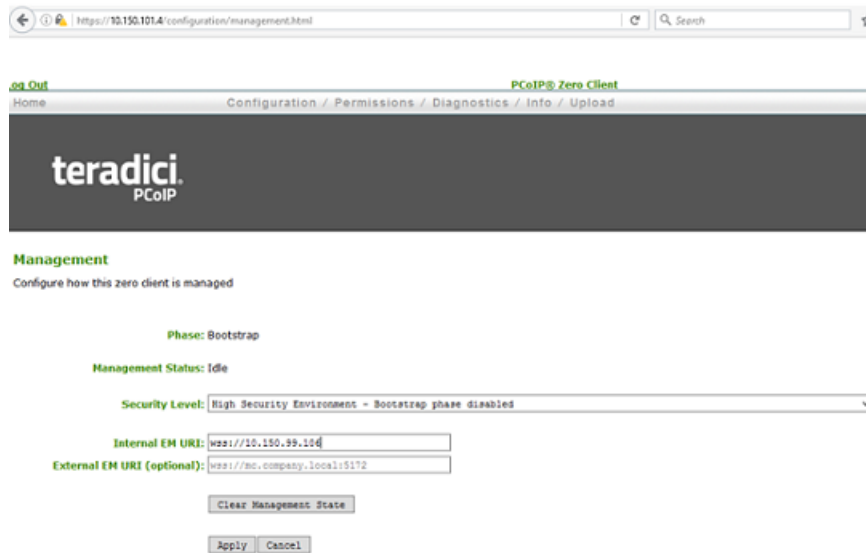


図 100. 管理画面

Internal EM URI（内蔵 EM URI）フィールドに、ThreadX 5.X をインストールしたマシンの `wss://<IP Address>` として EMSDK サーバの URI を入力し、**Apply**（適用）ボタンをクリックします。

- 4 **Continue**（続行）ボタンをクリックしてプロセスを続行します。

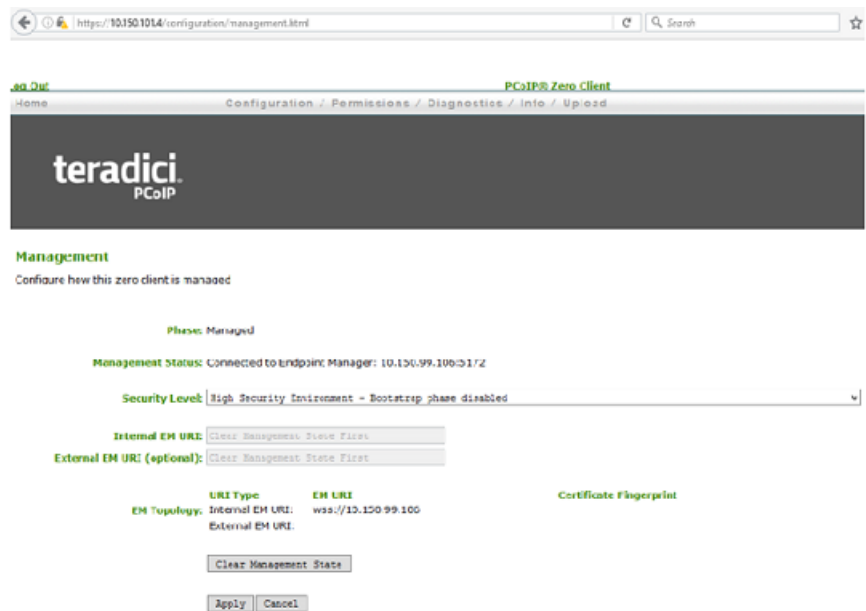


図 101. EMSDK サーバに接続されたコンソールの画面

① **メモ:** ThreadXApi サービスの開始前にクライアントが接続されていると、WDM でデバイスが検出されません。そのため、クライアントが EMSDK に接続状態になった後、検出されたデバイスが表示されない場合は、`C:\inetpub\wwwroot\ThreadXApi` にある `ThreadXApi.txt` というファイル名のログファイルの内容を表示して、ThreadXApi サービスが実行されていることを確認する必要があります。

WDM サーバへのチェックインプロセスが正常に完了すると、検出されたデバイスが WDM UI に表示されます。Web UI での確認後、**Reboot**（再起動）および **Shutdown**（シャットダウン）のリアルタイムコマンドを実行してください。

WDM ユーティリティを設定できない

問題：WDM ユーティリティを設定できません

解決方法：次の手順を実行して、WDM ユーティリティを設定します。

- ユーティリティの最初の設定中にウィンドウが表示されます。
- **CustomprotocolforWDMutils.exe** ファイルがダウンロードされた同じディレクトリに、**WDMutilsExtract.exe** からコンテンツを解凍する必要があります。
- WDMutils 解凍ツールの **Extract to Directory** (ディレクトリに解凍) で、**CustomprotocolforWDMutils.exe** ファイルのパスを入力します。
- WDMutils が設定後に開かない場合は、ブラウザのキャッシュとローカルストレージをクリアして設定プロセスを再び開始します。
CustomprotocolforWDMutils.exe ファイルがダウンロードされた同じディレクトリに、**WDMutilsExtract.exe** が解凍されたことを確認します。
- ブラウザのキャッシュとストレージをクリアしたくない場合は、**CustomprotocolforWDMutils.exe** をダウンロードした場所に移動します。
CustomprotocolforWDMutils.exe を実行します。WDMutils 解凍ツールが表示されます。**Extract to Directory** (ディレクトリに解凍) フィールドに **CustomprotocolforWDMutils.exe** のパスを入力し、**Extract** (解凍) をクリックします。

WCM、パッケージ登録、リモートシャドー、PCoIP を設定できない

問題：WDM ユーティリティを設定できません

解決方法：カスタムプロトコルファイルが設定後に開かない場合は、ブラウザのキャッシュとローカルストレージをクリアして、再度設定を行います。